[Essential版]

就業者の地方移住に関する調査報告書

～移住意思決定に影響を与える要因構造の可視化の試み～

調査名：地方移住に関する実態調査（Phase1）

2022年3月

パーソル総合研究所

シンクタンク本部

PERSOL

パーソル 総合研究所

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

はじめに

働き方・暮らし方の変化、地方圏への移住意向の高まり

働き方とは時代と共に変化するものですが、COVID-19の感染拡大により度々発令された緊急事態宣言の下、テレワークによる在宅勤務が広く推奨されるなど*1、働く場所に縛られない選択肢が増えた就労者も少なくありません。また、兼業・副業を許容する企業、テレワークに適応する人事制度の導入や転勤制度を廃止する事例等も報告されています*2 。このような働き方の多様化は、暮らし方の選択肢を増やすことにもつながっています。

2021年10月、移住支援を行うNPO法人ふるさと回帰支援センターからは、首都圏において地方圏への移住希望者が309万人との推計が示されました*3 。推計値の議論は別として、コロナ禍を経て、従来より指摘されてきた都市から地方への移住・交流が促進される機運が高まっていることが示唆された１つのデータと考えられます。

他方で、主たる居住地を地方圏に移すという意思決定は、個人のその後の人生において大きな決断です。心豊かな生活を思い描き、地方圏へ移住したものの理想どおりとはならず、短期間で挫折する事例も耳にします。

一人の生活者として、「どうすればより豊かな生活を実感することができるのか」との問いに対しては、私生活の充実とともに、日々多くの時間を費やしている職業生活の安定や充実も欠かせない観点であると考えます。（私生活と職業生活は本来的に不可分である）

そこで、パーソル総合研究所では2020年より、就業者の働き方・暮らし方を紐解く研究プロジェクトに着手してきました。 本調査は、そのプロジェクトの第一フェーズとして**「現在、都市圏に在住し一定の都市生活の利便性を享受している就業者が、どうすれば自ら望んで地方圏に移住するという意思決定を行うことができるのか」**と問題を定義し、調査・分析を行ったものです。

本研究プロジェクトが、地方移住に関心を抱く、就業者個人、自治体等の移住促進関係者の方々、雇用企業の経営者・人事関係者の方々の議論を深めることに資することができれば幸いです。

＊1　パーソル総合研究所　「新型コロナウイルス対策によるテレワークへの影響に関する緊急調査」https://rc.persol-group.co.jp/thinktank/data/telework.html　（最終閲覧日：2022年1月26日）
＊2　毎日新聞　2021年10月20日東京朝刊　社説「変わる転勤制度　働きを問い直す一歩に」https://mainichi.jp/articles/20211020/ddm/005/070/129000c　（最終閲覧日：2022年1月26日）
＊3　認定NPO法人ふるさと回帰支援センター「地方移住に関する調査」https://www.furusatokaiki.net/topics/pressrelease20211007/　（最終閲覧日：2021年10月7日）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査概要

調査名称	**パーソル総合研究所「地方移住に関する実態調査」（Phase1）**
調査内容	■地方圏への移住の意思決定に影響を与える要因構造の可視化に関する研究 調査１．地方圏移住者の暮らし方・働き方、移住時の影響要因に関する実態調査 調査２．地方圏への移住を検討している方の暮らし方・働き方、移住時の影響要因に関する実態調査
調査手法	調査会社パネルを用いたインターネット調査
調査時期	2021年3月25日～3月31日
調査対象者	【地方移住者】**＊社会人となって以降、都道府県をまたぐ「移住」を経験した就労者**（会社都合の転勤・帯同は除外） ●サンプル数 ：7,866名　●調査エリア ：日本・47都道府県 ●対象条件 ：20代～ 60代の就業者（パート・アルバイト除く） 【地方移住意向者】**＊地方圏への移住意向がある就労者**（検討段階別に3群聴収） ●サンプル数 ：2,998名　●調査エリア ：東京23 区、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、大阪市、京都市、神戸市 ●対象条件 ：20代～ 60代の就労者（パート・アルバイト除く） 【地方移住無関心者】**＊地方圏への移住に関心がない就労者** ●サンプル数 ：2,981名　●調査エリア ：東京23 区、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、大阪市、京都市、神戸市 ●対象条件 ：20代～ 60代の就労者（パート・アルバイト除く）
実施主体	株式会社パーソル総合研究所

※本調査における地方圏とは、意向者・無関心者の調査エリアとした東京23 区、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、大阪市、京都市、神戸市を除く、国内の市町村とした
※報告書内の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない場合がある。

引用について

本調査を引用いただく際は出所を明示してください。出所の記載例：**パーソル総合研究所「地方移住に関する実態調査」（Phase1）**

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査報告書目次

1.	調査結果の概要（サマリ：1－4）	P.5
2.	調査結果からの提言	P. 9
3.	本調査における移住定義・分類	P.12
4.	地域における生活上の主観的幸福感の実態（分析の前提）	P.13
5.	地方圏への移住経験者分析	P.16
6.	地方圏への移住意向者分析	P.38
7.	移住意思決定要因分析(CALC)	P.59
8.	移住者の住・生活満足要因分析(CALC)	P.75
9.	Appendix	P.97

引用について

本調査を引用いただく際は出所を明示してください。出所の記載例：**パーソル総合研究所 「地方移住に関する実態調査」（Phase1）**

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果サマリ

1. 移住者の実態

■移住者の53.4%が転職はしておらず、60%弱が移住に伴う収入変化はなかったと回答

移住後収入において「変化なし」と回答された割合は、20代：59.1%、60代：55.7%

20代･30代では、移住時に「増収」となる割合が多く、40代を分岐点として50代以降は「減収」となる割合が増加する

20代では25.8%が増収/15.1%が減収と回答、50代では14.5%が増収/25.9%が減収と回答

⇒ 従来、移住には転職が伴うと考えられ、地方圏には適した仕事がないことが課題視されてきた感がある。働き方の選択肢が増える中、**“転職なき移住”**が主流となっていることが示唆された結果であった。

■移住後の暮らしで「幸せ」を感じているのは、Uターン型（3.53pt）、配偶者地縁型（3.47Pt）
一方、多拠点居住型（3.37pt）、Jターン型（3.38pt）、Iターン型（3.39pt）は、相対的にやや低い傾向

■移住時に最も影響したのは、「日常生活での買い物に不便がない」（37.4%）こと
次いで、「都市部へのアクセスの良さ」（34.9%）「自然が豊かで身近に感じられる」（31.8%）こと

2. 移住意向者の実態

■テレワークや遠隔地居住ができる人ほど、移住を具体的に検討している

【在宅勤務可能割合】　5年以内計画者（54.6%）、10年以内計画者（52.4%）、時期未定者（43.5%）、無関心者（32.7%）
【遠隔地居住可能割合】 5年以内計画者（12.6%）、10年以内計画者（10.0%）、時期未定者（7.1%）、無関心者（2.8%）

■検討されている移住タイプで最も多いのは、Iターン型（56.7%）、次いで多拠点居住型（40.1%）
「移住」に対し、多拠点居住型への関心の高さが確認された

■移住に伴い、10%程度まで収入減少を許容する人は22.2%、５%まで許容する人は19.4%

「減収は考えられない」との回答割合は、20代：46.7%、60代：19.1%と、加齢に応じて減収を許容する傾向

■現在の都市圏での生活に「幸せ」を感じているのは、配偶者地縁型（3.64pt）、多拠点居住型（3.52pt）
一方で、Iターン型検討者（3.36pt）は相対的にやや低い傾向

■移住を検討する際に最も影響するのは、「日常生活での買い物に不便がない」（76.4%）こと
次いで、「地域の医療体制」（75.0%）「街並みの雰囲気の良さ」（72.2%）への関心が高く、
快適な家に住み穏やかに暮らすことを期待している

3. 移住の意思決定要因モデル（CALC分析）

本調査では、移住に際する意思決定に影響する要因は移住タイプ毎に異なることを仮定し、移住タイプ別に意思決定要因を分析した。結果、５つの移住タイプ別に異なる意思決定の要因構造を導出した

■「移住意思決定（目的変数）」と直接的に紐づいた要素は以下の通りであった（第一水準のみ抜粋）

直接紐づいた要因	Uターン型	Jターン型	Iターン型	配偶者地縁型	多拠点居住型
転職	●		●	●	●
在宅勤務ができる	●	●		●	●
ﾜｰｸｽﾍﾟｰｽの提供・通勤補助などの支援がある	●	●			
移住に対して地域住民が支援的である			●	●	
世帯年収					●
移住体験など支援や補助制度がある					●

⇒ 転職支援や勤務先のテレワーク環境整備といった要素は、移住を意思決定する際の共通要因とも言える。
移住先の地域住民の支援的態度は、自身に地縁が無い、Iターン型・配偶者地縁型では影響が大きく、
多拠点居住型やJターン型では相対的に影響が小さい（距離的に離れた要因）傾向であった。
地縁に乏しい移住者には、制度等の整備のみならず、地域ぐるみでの支援的風土が求められると考える。

4. 移住経験者・意向者・無関心者の分析より

■現在の居住地域における暮らしに幸せを感じている人は、全体の50.2% ＊そう思う＋どちらかというとそう思うの合算

■地域生活における幸せ（地域生活における主観的ウェルビーイング）への影響要因は、「地域愛着」（.485*）が最も影響し、次いで「住居の快適さ」（.206***）また、「家庭生活の充実」、「仕事での評価・処遇」、「趣味・友人との交流」、「職場の人間関係」についても統計的有意が確認された**

⇒ 従来より、私生活と職業生活の充実は相互に影響しあい、ウェルビーイングを向上させることにつながることが知られている（クロスオーバー効果＊1）。主体的により良く働くためにも、私生活の安定・充実は本来的に不可分である。本調査では、さらに、「地域への愛着」が地域生活における主観的な幸福状態の予測因となることが示唆された。

このことから、「働き方」の選択とともに生活地域も含めた「暮らし方」の選択が、個人の主観的ウェルビーイングの向上には重要となることが仮定される。愛着を抱ける地域に“暮らす”と“はたらく”を自己決定することで、個人の人生がより豊かなものとなれば、雇用組織にも好ましいパフォーマンスが期待できると考える。

＊1 Westman, M. (2006). Crossover of stress and strain in the work-family context. In F. Jones, R. J. Burke, & M. Westman (Eds.), Work-life balance: A psychological perspective (pp. 163–184). Psychology Press.

調査結果からの提言（個人）

提言

■Iターン型移住への過度な期待と性急な移住意思決定は危うい

Iターン型は、移住者の38.6%と最も多く、意向者の56.7%が志向しているタイプである。
Iターン型意向者の現在の暮らし評価は、総じて低い傾向があり、新天地への期待を抱く方も少なくないと推察される。
しかし、人生設計の明確さ・経済的余力・地域人脈に乏しい方も多く、移住後のリアリティショックへの耐性が懸念される。

■「地域住民が移住者に支援的」「事前に地域の情報が入手できる」ことが住・生活満足を高める

移住経験者の住・生活満足要因分析の結果から、住・生活満足を高める上で重要度の高い共通要因が確認された。
いずれの移住タイプにおいても、入念な事前情報入手と地域の住民らとの事前の関係づくりといった地道なプロセスを通じ、地域において自分にとっての居場所を築くことが移住後の幸せな生活を獲得する上でも重要と考える。

地方圏への移住は、今後の生活をより豊かにするための選択肢の一つとして魅力的である。
本調査からは、Uターン型や配偶者地縁型など、地域への事前知識と一定の人脈を有しており、かつ、
地域への愛着を抱けていることが移住後の暮らしの質を担保している様がうかがえた。
副業等で地域への参画機会を作り、定期的な候補地訪問や関係づくりを経た上での意思決定を推奨したい。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果からの提言（自治体等）

提言

■配偶者地縁型やUターン型は移住後の暮らしの評価（ウェルビーイング）が高い傾向

移住後の暮らしの評価が高かったのは、配偶者地縁型やUターン型。今後のさらなる調査が必要であるが、この背景には、一定の地域情報や地域の人的なネットワークを有することが考えられる。配偶者地縁型やUターン型は、移住者にとってもリアリティショックや孤立といったリスクが相対的に低いと考えられるため、促進すべき移住タイプと考える。

■移住支援の観点は、促進したい移住タイプにより異なる

移住の意思決定要因分析や性・年代別の関心項目から、移住タイプや性・年代により異なる介入観点が確認された。促進対象により異なる移住時のニーズを踏まえ、妥当性の高い施策検討のための議論が深まることを期待したい。

■都市圏在住の移住検討者の多くは、移住に伴う経済的なリスクと生活の利便性低下を忌避する

若年層ほど移住に際する収入減少を許容しない（20代：46.7%）。また、意向者・経験者分析では、共通して「日常の買い物に不便がないこと」、経験者分析では「都市部へのアクセスの良さ」などが影響項目上位に挙がった。意思決定要因分析では、「テレワーク環境や通勤費の補助など」の影響が確認された（転職なき移住）。

これらの点から、政令指定都市および中核市には一定の利があると言える。他方で、デジタル基盤整備によって仕事と日常生活の利便性を担保することができれば、地域ごとの魅力で心豊かな暮らしを提案できると考える。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果からの提言（企業等雇用組織）

提言

■テレワークや遠隔勤務といった選択肢が用意できないことは、タレントマネジメント上のリスク

2020年以降、多くの学生はオンラインツールを駆使した学習経験を有する。ITリテラシーを培った優秀な学生らは、テレワーク環境が整備されている企業をより魅力的と感じることは必然であろう。また、地方圏移住を検討している従業員も少なくないと推察される。個々人が抱える家庭の事情なども加味すれば、優秀人材のリテンションの観点からもテレワーク環境の物理的・制度的整備は無視できない。従業員の移住支援は、優秀人材の獲得とリテンション施策として検討すべきと考える。

■地域との連携は、従業員の能力開発・キャリア開発のフィールドとして活用できる 【共助モデル】

一律に集合して会議室で行われる従来型の研修の在り方が見直され、教育体系のリデザインが求められている。
そこで、地方自治体と連携・協調したプロジェクトベースの新たな学びを進化させることを提案したい。

例．一社一村運動（静岡県）＊1/一村一社運動（国土交通省関係者ら）＊2 等、企業と地域の連携事例は多数報告されている

人手や交流を増やしたい地域のニーズと、企業のニーズを結びつけ、協働活動を行うことで、地域活性化を促進する取り組み事例。
社内では自己抑制的になりがちな従業員の潜在的な可能性に着目し、従業員・組織・地域の３方よしを模索する試みと言えよう。

例．地域での副業体験で本業とのシナジーを期待する

地方での雇用と副業人材をマッチングさせるサービスとして『Loino＊3』や『仕事旅行＊4』など様々なサービスが生まれている。副業先として、地域の事業者に協力する体験は、自身の能力発揮の機会（プロとして期待される経験）や外部から自社・自分自身を見つめ直す機会としても期待できると考える。

＊1 一社一村運動 https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-460/issyaisson/about.html（最終閲覧日：2022年1月20日）
＊2 一村一社運動 http://isson-issha.jp/ （最終閲覧日：2022年1月20日）
＊3 Loino https://loino-p.jp/（最終閲覧日：2022年1月20日）
＊4 仕事旅行 http://www.shigoto-ryokou.com/about（最終閲覧日：2022年1月20日）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

本調査における移住定義・分類

■本調査における移住の定義

移住とは、「自らが何らかの意思を持って、主たる生活拠点を別の地域に移すこと」と定義し、会社都合の転勤およびバカンスなどの行楽的滞在は除くこととした。一方で、近年増えている2拠点居住やノマドワーカーなどについては、「多拠点居住」として統合して調査・分析の対象とした。

■移住タイプ

本調査においては、代表的な移住形態を以下の５つの型に分類し、分析を行うこととした。
（以降、移住タイプと称する）

＊分類は、一般社団法人　移住・交流推進機構の定義を一部援用した

https://www.iju-join.jp/feature_cont/guide/003/02.html（最終閲覧日：2022.1.18）

移住タイプ	定義
Uターン型移住	**生まれ育った故郷*から、進学や就職を機に移住した後、再び生まれ育った故郷に移住すること。** ＊本調査では、自分が生まれ・育った「区市町村」を基準とした。
Jターン型移住	**生まれ育った故郷から、進学や就職を機に都会へ移住した後、故郷に近い地方都市等*に移住すること。** ＊本調査では、自分が生まれ・育った「都道府県」および「地方」（東北地方、関東地方など）を基準とした。
Iターン型移住	**生まれ育った故郷から、故郷にはない要素を求めて、故郷とは別の地域*に移住すること。** ＊本調査では、一時期でも縁のあった地域(進学・仕事・ボランティアなど)および、これまでに縁はないものの様々な地域を検討して移住するスタイルを含めた。
配偶者地縁型移住	**配偶者やパートナーの故郷など縁のある地域へ移住すること。** **Uターン型の派生形とも考えられるが、回答者自身の故郷ではない地域への帯同的移住として分類した。**
多拠点居住型移住	**2拠点居住など、主たる生活拠点を持ちながら他の地域にも生活拠点を設けて行き来すること。** **本調査では、行き来する生活スタイルに着目し、U・I・J・配偶者地縁型のいずれのパターンも含めた。**

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

【前提としての実態把握】

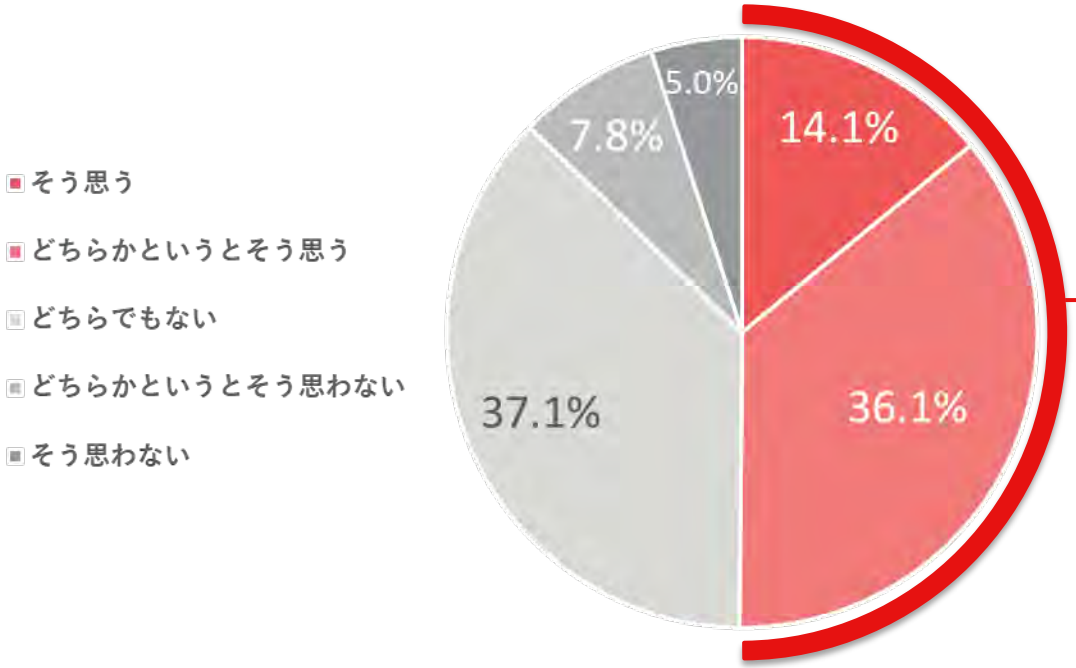
地域における生活上の主観的幸福感の実態

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　地域生活で幸せを感じている人の割合

Q. 私は、この地域に住んでいて**幸せ**を感じている（地域生活幸せ実感単項目）

（N＝13,845）
＊移住経験者・意向者・無関心者合算



幸せを感じている人
50.2%

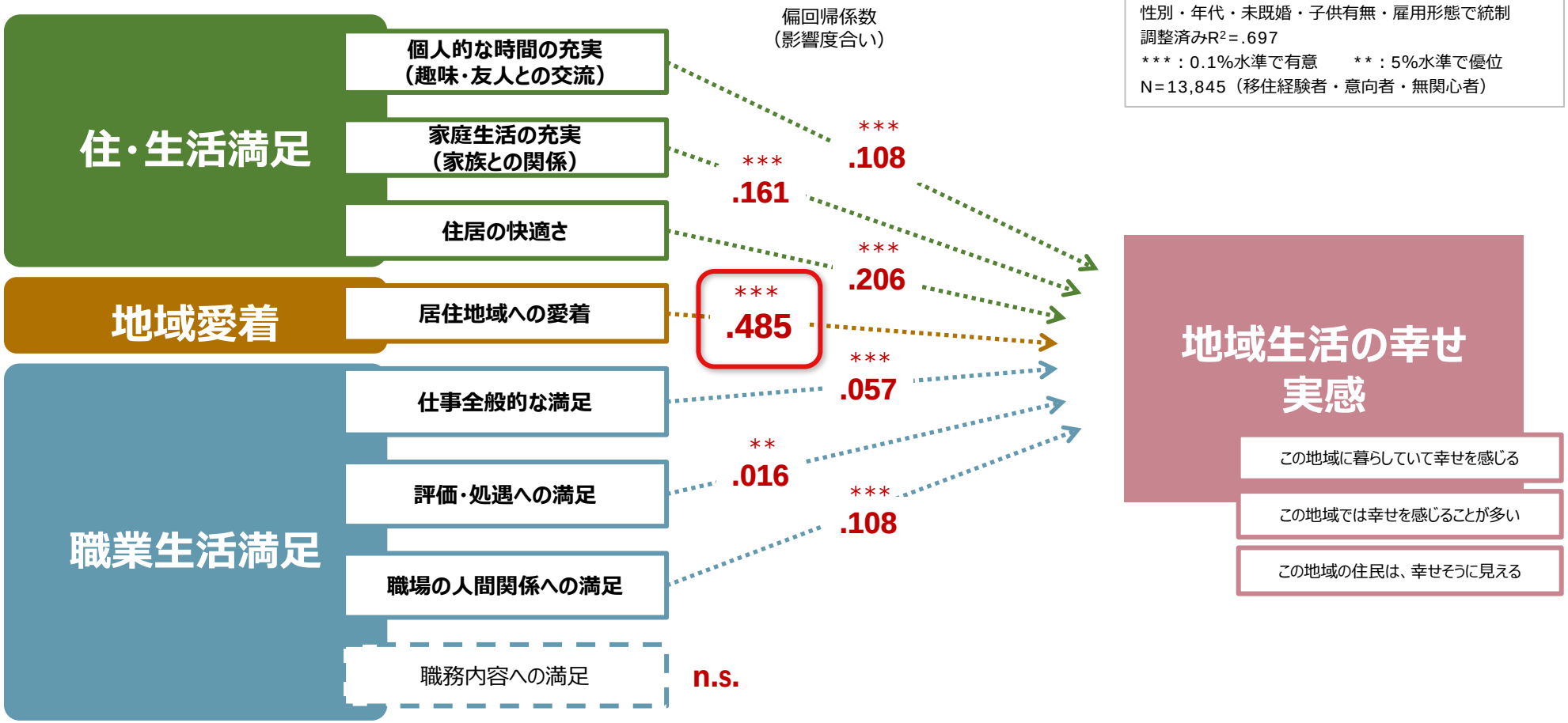
※「そう思う」のみ
14.1%

官民一体となって地域生活におけるウェルビーイングの向上が求められる中、本調査において回収した全サンプルを用いて実態を確認したところ、地域における暮らしに幸せを感じている人は、50.2%であった。
＊内訳：移住経験者 48.5%（13.6%）、意向者 50.6%（12.7%）、無関心者 54.0%（16.7%）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　地域生活でのウェルビーイング要因

重回帰分析により分析
性別・年代・未既婚・子供有無・雇用形態で統制
調整済みR^2=.697
***：0.1%水準で有意　　**：5%水準で優位
N=13,845（移住経験者・意向者・無関心者）



地域における暮らしの幸せ実感（地域生活でのウェルビーイング）への影響を仮定した３つの観点のうち、最も影響度合いが強かった項目は**「居住地域への愛着」**であった。また、**「住・生活満足」**の３項目、**「職業生活満足」**の３項目それぞれから有意な影響が確認された。よって、３つの観点を切り口に分析を行うこととした。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査１　【移住経験者　分析編】

地方圏移住者の暮らし方・働き方、移住時の影響要因に関する実態調査（**概要**）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

移住経験者の概要

■移住者が経験した移住タイプ

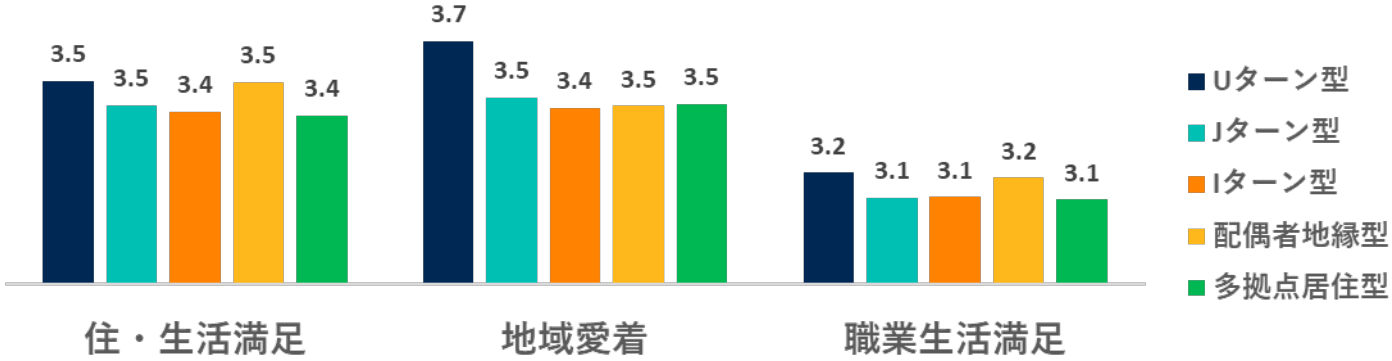
移住者　N＝7,866

■地域生活の幸せ実感【移住タイプ別】

＊平均値（pt）

■地域生活でのウェルビーイング要因【３観点】

＊平均値（pt）



本調査における移住タイプ割合は、**Iターン型が最も多く38.6%**であった。
次いで、「生まれ育った市町村」への**Uターン型**が多かった。
（生まれ育った道府県への回帰はJターンとした）

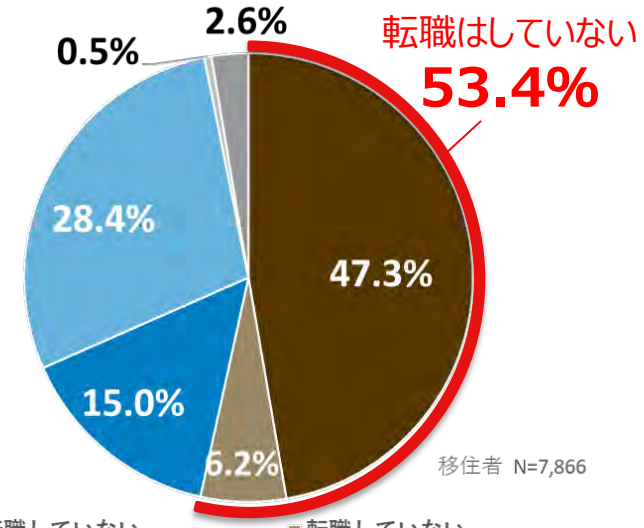
地域生活の幸せ実感は、**Uターン型**、**配偶者地縁型**の移住者の平均値がやや高い傾向が確認された。

要因に着目すると、住・生活満足、職業生活満足は相似傾向であったが、地域愛着は、**Uターン型が最も高い傾向**が確認された。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

移住経験者の概要

■移住に伴う転職・職務変更

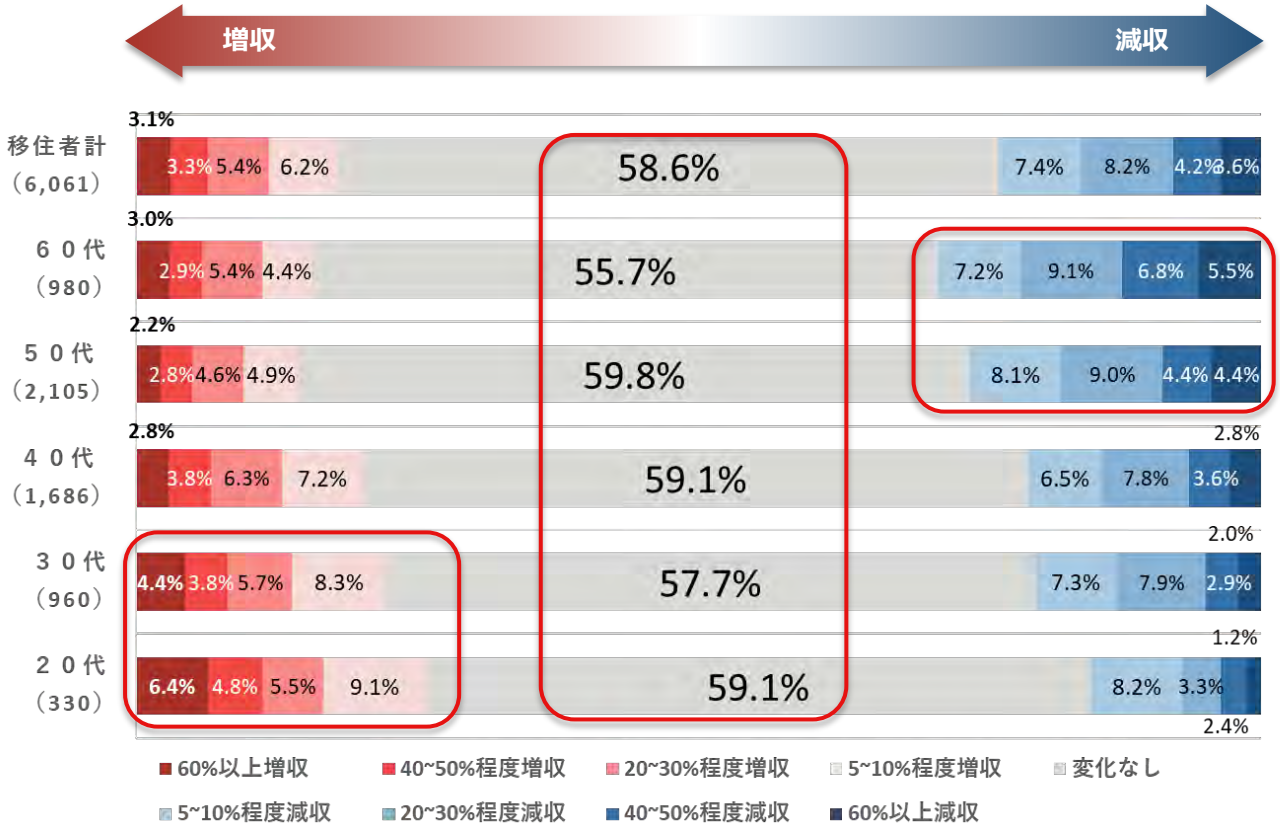


- 転職していない（仕事内容は変わらず）
- 転職していない（仕事内容は大きく変化）
- 転職した（仕事内容は同様）
- 転職した（仕事内容が大きく変化）
- 独立・起業（農林水産業）
- 独立・起業（フリーランス含むその他）

*図版内の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない場合がある。

■移住した際の年収増減（年代別）

移住者　n＝6,061
＊「わからない・答えたくない」回答を除いて集計



移住に際して、**転職経験のない方は53.4%**であった。移住＝転職ではなく、**転職を伴わない移住**の割合が多いことが確認された。
伴って、移住時の年収増減は、移住者全体で**58.6%の方が「年収の変化なし」**との回答であった。
また、**20代・30代では増収となった割合が多く、40代を境に50代以降では減収割合が増加する**傾向が確認された。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 移住経験者_年代別_移住時影響項目

移住者　N＝7,866

		全体	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代
Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	37.4%	51.3%	45.1%	37.3%	33.3%	34.0%
Top２	都市部へのアクセスがいい（通勤・通学、行楽など）	34.9%	46.3%	42.9%	34.7%	31.2%	31.9%
Top３	自然が豊かで身近に感じられる	31.8%	38.2%	35.3%	31.3%	29.9%	31.4%
Top４	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	29.4%	42.5%	34.3%	30.5%	25.1%	27.7%
Top５	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	29.3%	38.8%	36.6%	29.7%	25.1%	27.1%
Top６	穏やかな暮らしを実現することが出来る	29.2%	44.1%	37.6%	29.5%	24.7%	24.6%
Top７	やりたい仕事ができる	28.3%	37.7%	34.3%	28.6%	24.7%	26.8%
Top８	地域に同世代の人が多い	28.3%	28.3%	28.3%	28.3%	28.3%	28.3%
Top９	地産の美味しい食べ物・飲み物が多くある	26.2%	36.6%	33.7%	27.0%	22.2%	22.8%
Top１０	地域の医療体制が整っている	25.0%	31.6%	28.1%	24.1%	22.5%	26.6%

移住経験者が移住した際に影響したと回答した項目では、**「日常的な買い物などで不便がない」**、**「都市部へのアクセスがいい」**ことが上位にあがった。若年層ほどこの関心は高い傾向が確認された。
また、若年層ほど、**「自然が豊かで身近に感じられる」**、**「十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める」**、**「穏やかな暮らしが実現できる」**といった暮らしにおける心の余裕や快適さを希求していたことは特徴的であった。

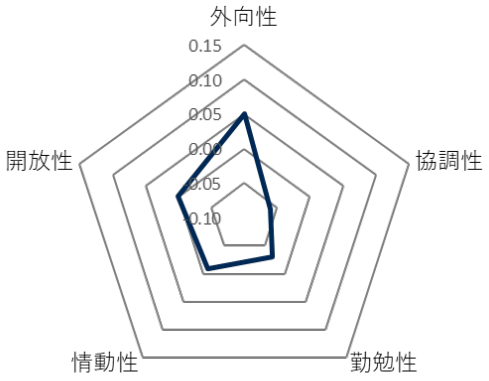
＊5件法：とても影響する、影響する、どちらでもない、影響しない、まったく影響しないで回答
「とても影響する＋影響する」の回答割合から導出

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

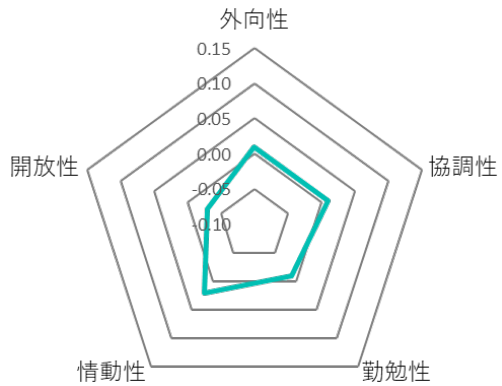
調査結果 移住者_移住タイプ別_性格特性

＊移住者平均値との差分

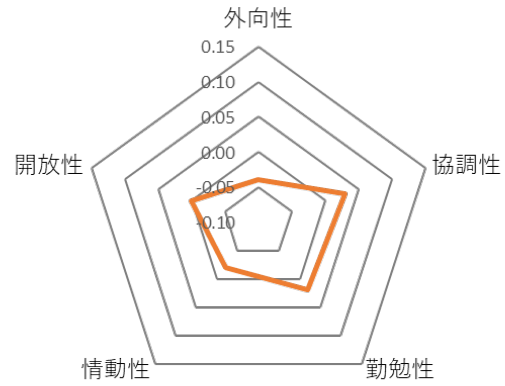
Uターン型（1,590名）



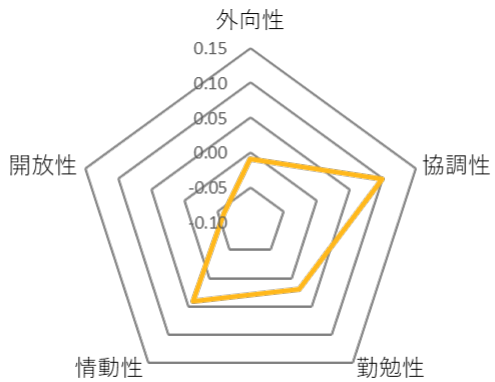
Jターン型（813名）



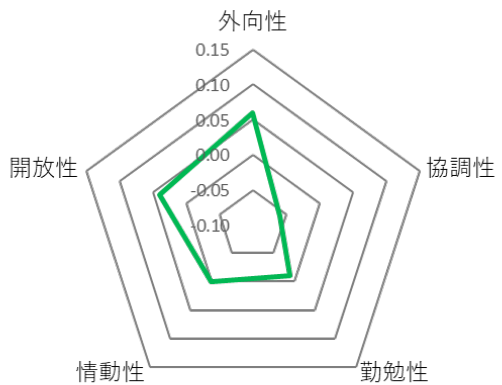
Iターン型（3,040名）



配偶者地縁（1,060名）



多拠点居住型（1,363名）



Uターン型
外向性がやや高く、
協調性・勤勉性がやや低い傾向

Jターン型
総じて平均的だが、やや情動性が
高く、やや開放性が低い傾向

Iターン型
協調性・勤勉性がやや高く、
外向性・情動性が低い傾向

配偶者地縁型
協調性・情動性が高く、
開放性が低い傾向

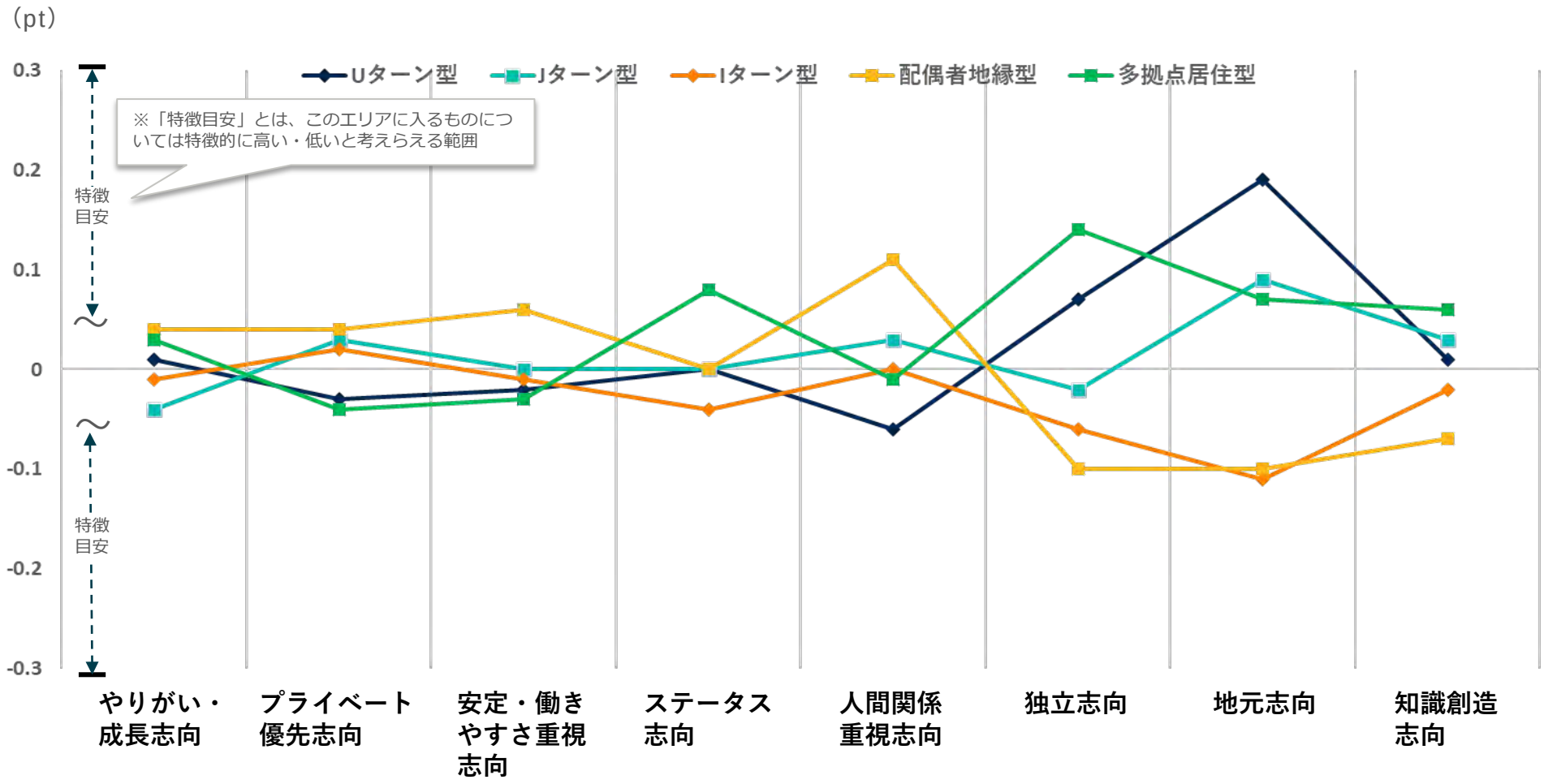
多拠点居住型
外向性・開放性が高く、
協調性が低い傾向

※５つの項目については、Appendix.の「性格的特性」を参照、以降同様。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 移住者_移住タイプ別_キャリア観

＊移住者平均値との差分



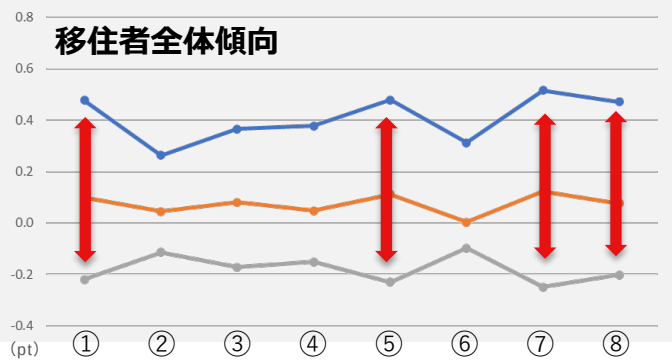
＊移住経験者：Uターン（1,590名）、Jターン（813名）、Ｉターン（3,040名）、配偶者地縁（1,060名）、多拠点（1,363名）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

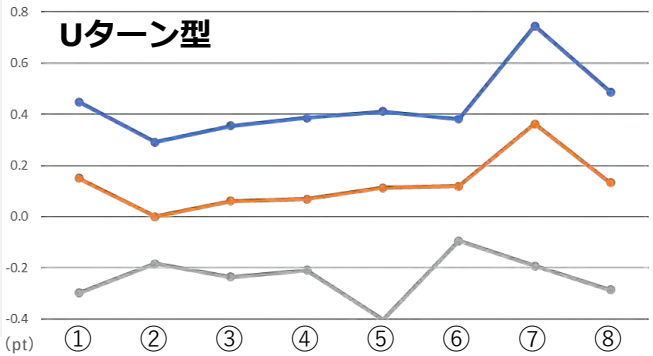
調査結果 地域生活ウェルビーイング【高中低群】キャリア観

- 地域生活の幸せ実感【高群】
- 地域生活の幸せ実感【中群】
- 地域生活の幸せ実感【低群】

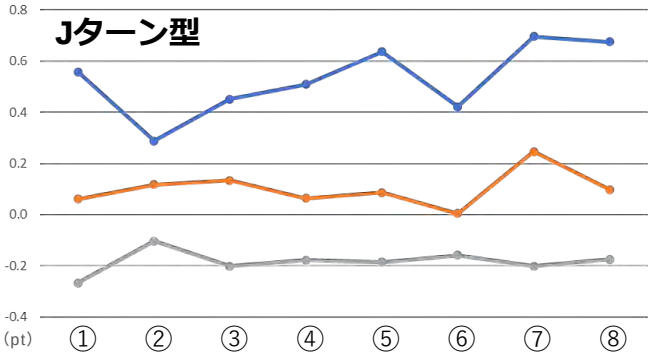
①やりがい・成長志向　②プライベート優先志向　③安定・働きやすさ重視志向　④ステータス志向
⑤人間関係重視志向　⑥独立志向　⑦地元志向　⑧知識創造志向



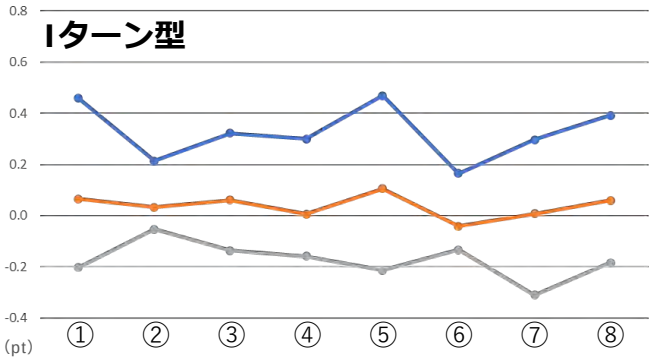
やりがい成長志向、人間関係重視志向、地元志向、知識創造志向には幸福度高群・低群の差が大きい傾向



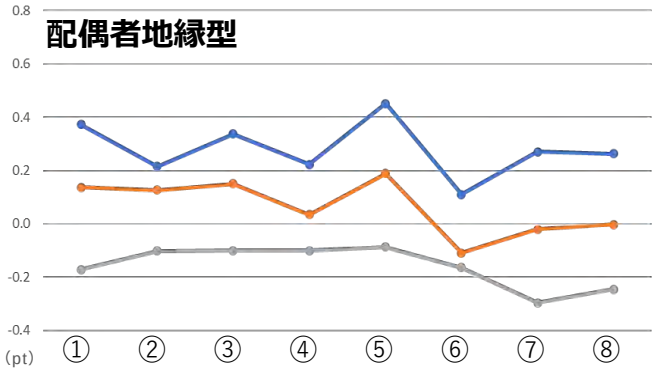
人間関係重視、地元志向、知識創造志向の差が大きい点が特徴



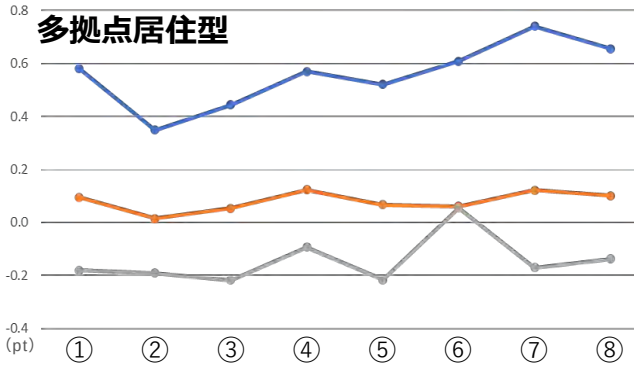
やりがい成長志向、ステータス志向、知識創造志向の差が大きい点が特徴



移住者全体の傾向に近いが、幸福度高群の知識創造志向が相対的に高いのが特徴



幸福度高群・中群の差、および低群との差も全般的に小さいのが特徴



全般的に幸福度高群と中・低群との差が大きいのが特徴（中群と低群が差が小さい）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

Uターン型移住　経験者

■移住者の特徴

・Uターン型移住は、男性は20代が多く年代を経るごとに減少、女性は40代・50代で増加する

・暮らしの評価【３指標】が最も高い傾向（20代・30代が高く、以降低下。地域愛着は年々増加する）

・職業生活の評価【3指標】は高く、はたらく上での「不幸せ実感」も年代を経るごとに低下する

・移住に伴う減収者割合はやや多いが（25.3%）、貯蓄や将来の相続資産などの経済余力が高い

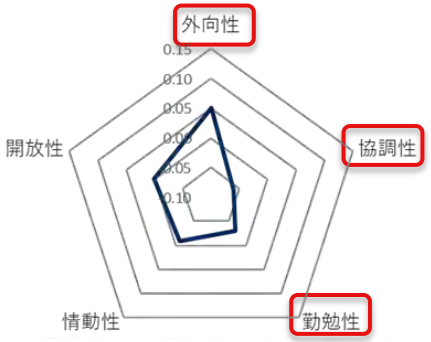
～参考～
・性格的特性：外向性がやや高く、協調性・勤勉性がやや低い傾向
・キャリア観：地元志向・独立志向が高い傾向

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 Uターン型移住　経験者（生活編）

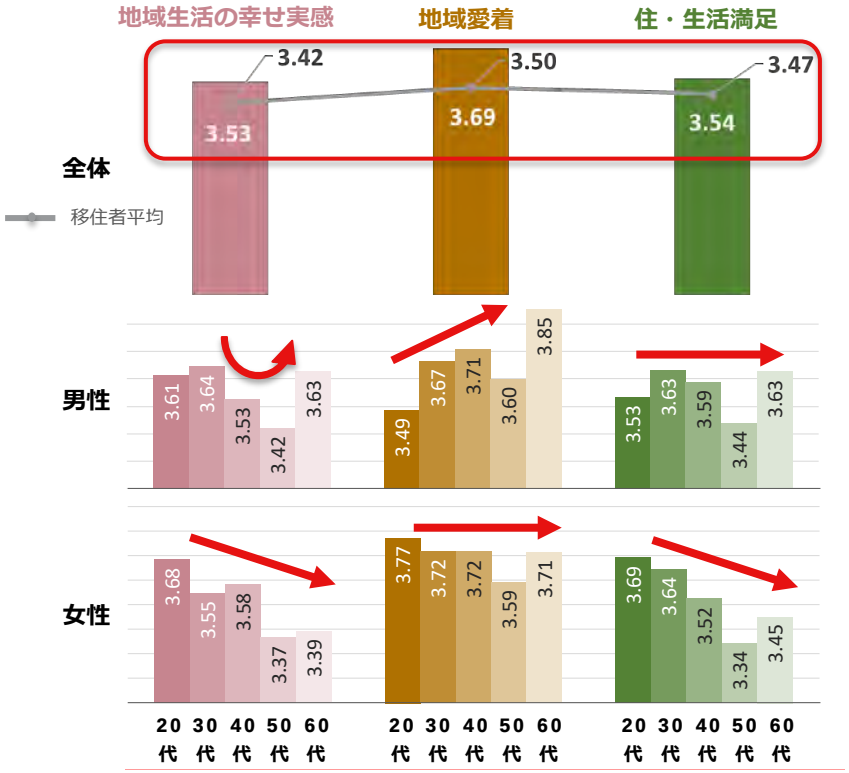
	n	Uターン型
男性２０代	(146)	24.0%
男性３０代	(621)	21.7%
男性４０代	(1587)	21.2%
男性５０代	(2399)	19.0%
男性６０代	(1204)	19.9%
男性計	5957	20.2%
女性２０代	(310)	18.4%
女性３０代	(596)	19.6%
女性４０代	(579)	21.9%
女性５０代	(346)	20.5%
女性６０代	(78)	17.9%
女性計	1909	20.2%
移住者合計	7866	20.2%

■移住者の性格的特徴 ＊参考値



パーソル総合研究所

■地域における暮らしの評価指標 (pt)



■人生・生活スタイル

- 「理想とする生活スタイルがある」割合が、他のタイプと比較してやや高い（45.7%）
- 「生活拠点を移してでもやってみたいことがある」割合がやや高い傾向（22.4%）

■居住地へのこだわり

- 「多拠点居住への関心」が、他のタイプと比較してやや高い（24.3%）

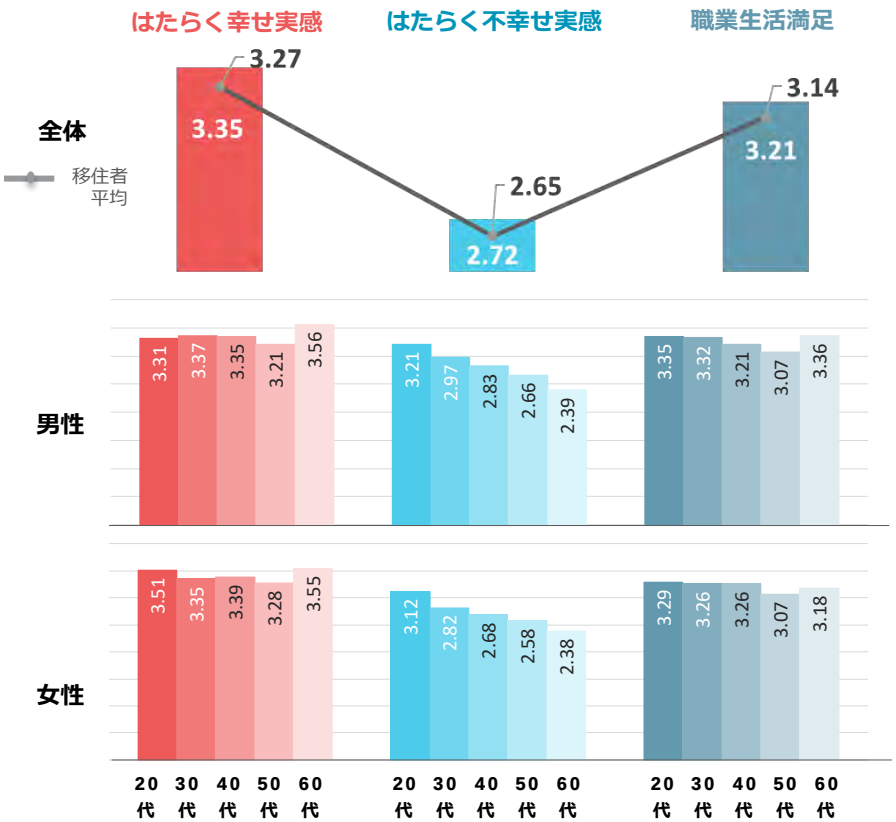
■移住した際の影響項目（TOP10）

Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	34.4%
Top２	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	32.6%
Top３	都市部へのアクセスがいい（通勤・通学、行楽など）	32.2%
Top４	穏やかな暮らしを実現することが出来る	29.9%
Top５	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	29.6%
Top６	やりたい仕事ができる	29.5%
Top７	地産の美味しい食べ物・飲み物が多くある	28.0%
Top８	自然が豊かで身近に感じられる	27.4%
Top９	事前に地域の住まいや生活に関する情報が十分に得られる	26.2%
Top10	地域の医療体制が整っている	25.3%

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

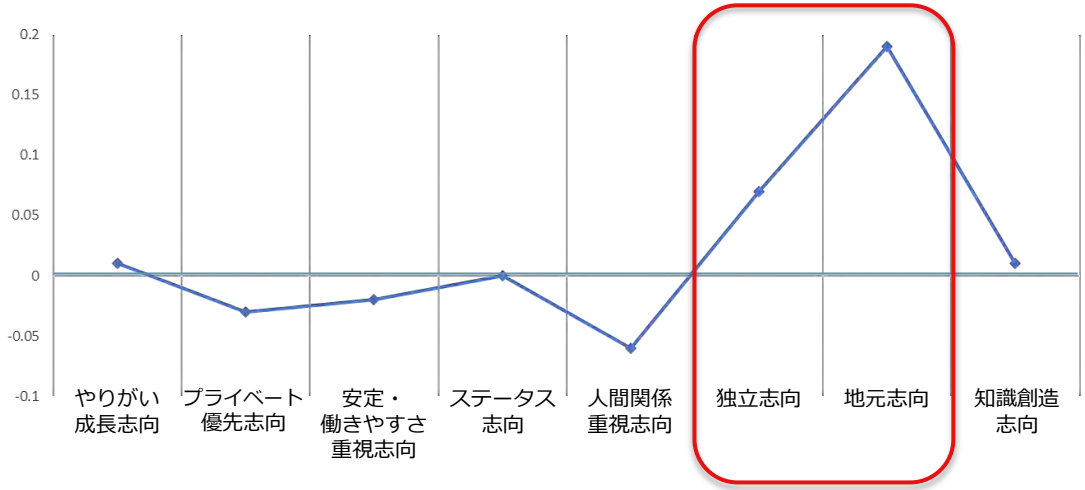
調査結果 Uターン型移住　経験者（職業生活編）

■職業生活の評価指標（pt）

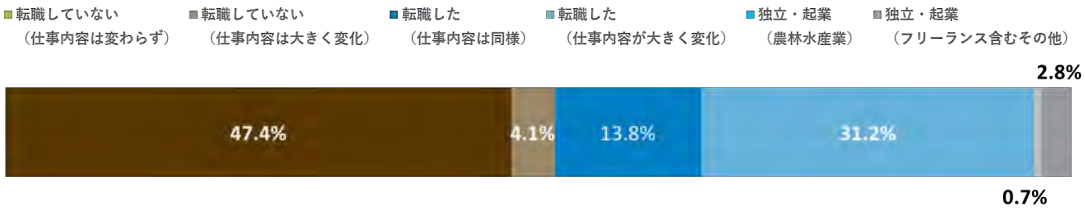


■仕事に対する考え方（キャリア観）

＊移住者平均値差分（pt）



■移住に伴う転職経験



■移住した際の収入増減

■経済状況

- 「当面やりくりできる貯蓄がある」割合は、他のタイプと比較して最も多い（33.9%）
- 「いずれ相続するであろう資産がある」割合は、他のタイプと比較して最も多い（20.5%）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

Jターン型移住　経験者

■移住者の特徴

・男性は20代が多く、30代以降は均一的に推移。女性は、60代で増加する傾向

・暮らし【3指標】・職業生活【3指標】は平均的。男性がやや低く、女性は全年代を通じて高い傾向

・「居住地にこだわる」割合は、全タイプの中で最も多い（33.4%）

・移住後の収入変動が最も少ない（62.0%が変動なし）

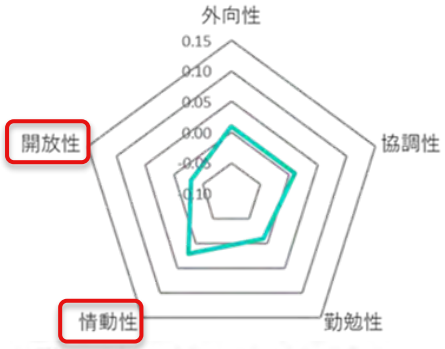
～参考～
・性格的特性：総じて平均的だが、やや情動性が高く、やや開放性が低い傾向
・キャリア観：地元志向が高い傾向

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

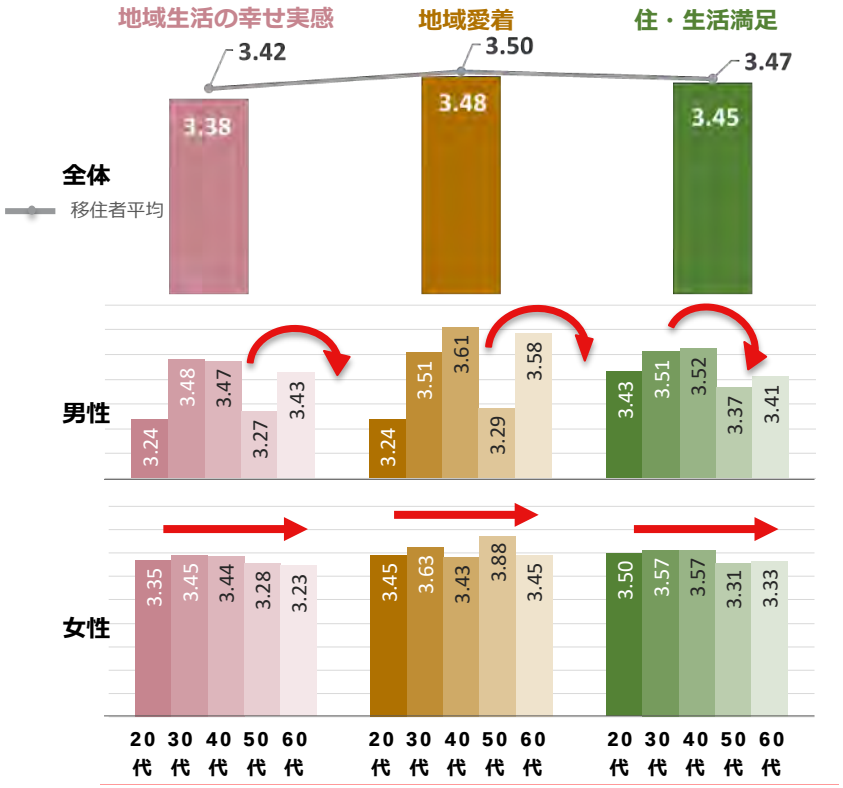
調査結果 Jターン型移住　経験者（生活編）

	n	Jターン型
男性２０代	(146)	14.4%
男性３０代	(621)	10.8%
男性４０代	(1587)	10.5%
男性５０代	(2399)	10.1%
男性６０代	(1204)	10.0%
男性計	5957	10.4%
女性２０代	(310)	12.9%
女性３０代	(596)	12.2%
女性４０代	(579)	8.1%
女性５０代	(346)	7.2%
女性６０代	(78)	14.1%
女性計	1909	10.3%
移住者合計	7866	10.3%

■移住者の性格的特徴 ＊参考値



■地域における暮らしの評価指標 (pt)



■人生・生活スタイル

- 「理想とする生活スタイル」「人生設計の明確さ」「生活拠点を移してでもやってみたいこと」のいずれも平均的

■居住地へのこだわり

- 「居住地にこだわる」割合は、全タイプの中で最も多い（33.4%）
- 「親、子供世帯との同居意向あり」割合は、平均的（35.7%）

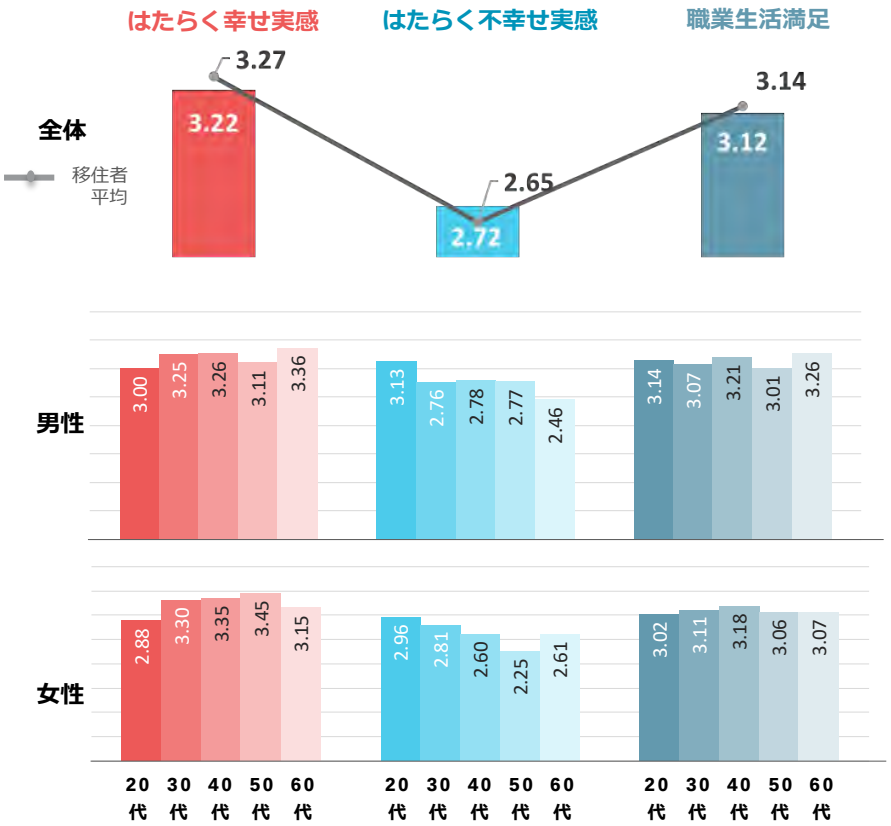
■移住した際の影響項目（TOP10）

Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	38.0%
Top２	都市部へのアクセスがいい（通勤・通学、行楽など）	34.1%
Top３	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	30.9%
Top４	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	30.8%
Top５	やりたい仕事ができる	30.4%
Top６	穏やかな暮らしを実現することが出来る	28.4%
Top７	自然が豊かで身近に感じられる	27.9%
Top８	地産の美味しい食べ物・飲み物が多くある	26.0%
Top９	生活コストを下げられる	25.0%
Top10	地域の医療体制が整っている	24.8%

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

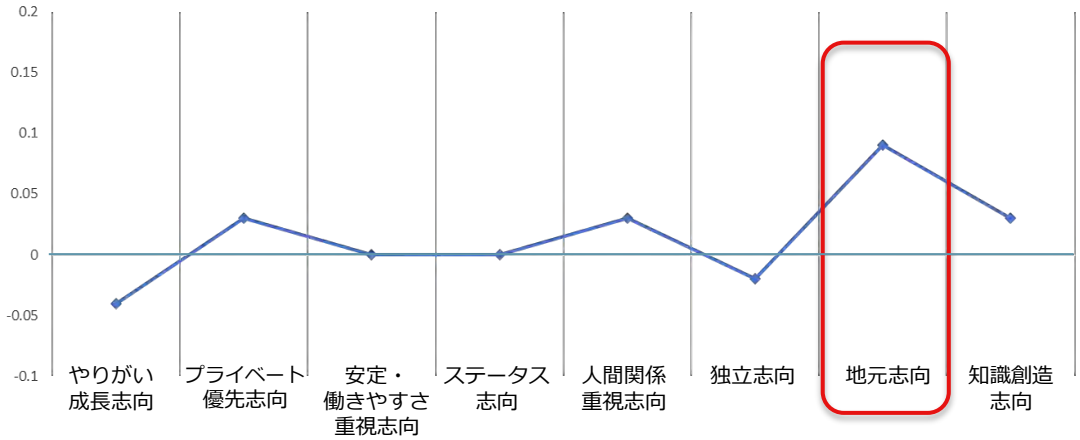
調査結果 Jターン型移住　経験者（職業生活編）

■職業生活の評価指標（pt）

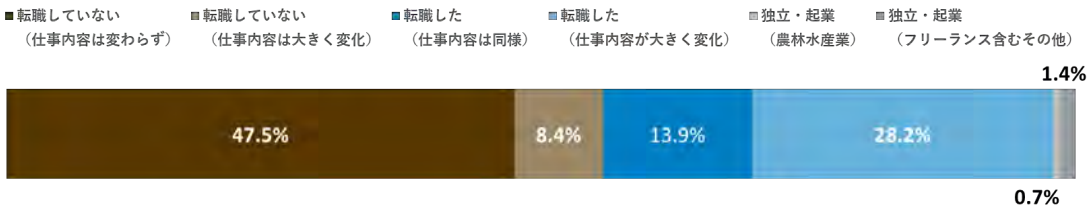


■仕事に対する考え方（キャリア観）

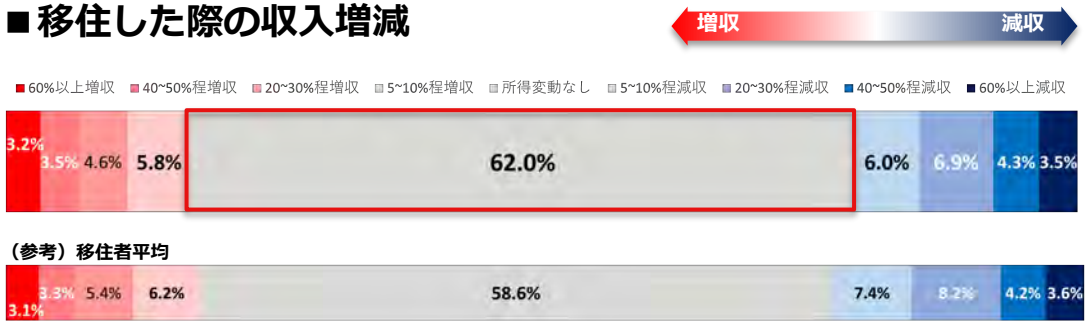
＊移住者平均値差分（pt）



■移住に伴う転職経験



■移住した際の収入増減



■経済状況

- 「当面やりくりできる貯蓄がある」割合は、平均的だがUターン型よりもIターン型に近い
- 「いずれ相続するであろう資産がある」割合は、平均的だが、Uターン型よりもIターン型に近い

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

Iターン型移住　経験者

■移住者の特徴

・移住タイプの中で最も多い形態（38.6%）であり、男女ともに年代と共に増加する

・暮らしの評価・職業生活の評価は共に平均的（若年層は高く、以降減少するもシニア層で上昇）

・「居住地にこだわらない」割合が多い（33.4%）　＊意向者は逆に少ない（19.6%）

・当面の貯蓄は少ない傾向だが、個人の将来収入の見通しはポジティブな傾向

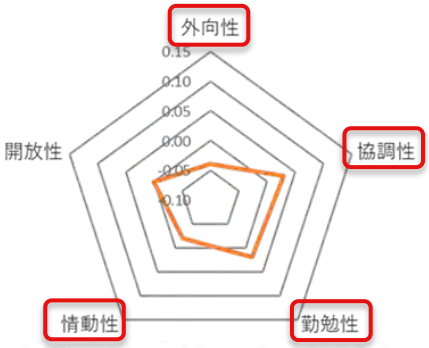
～参考～
・性格的特性：協調性・勤勉性がやや高く、外向性・情動性が低い傾向
・キャリア観：平均的だが、独立志向・地元志向が低い傾向

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 Iターン型移住 経験者（生活編）

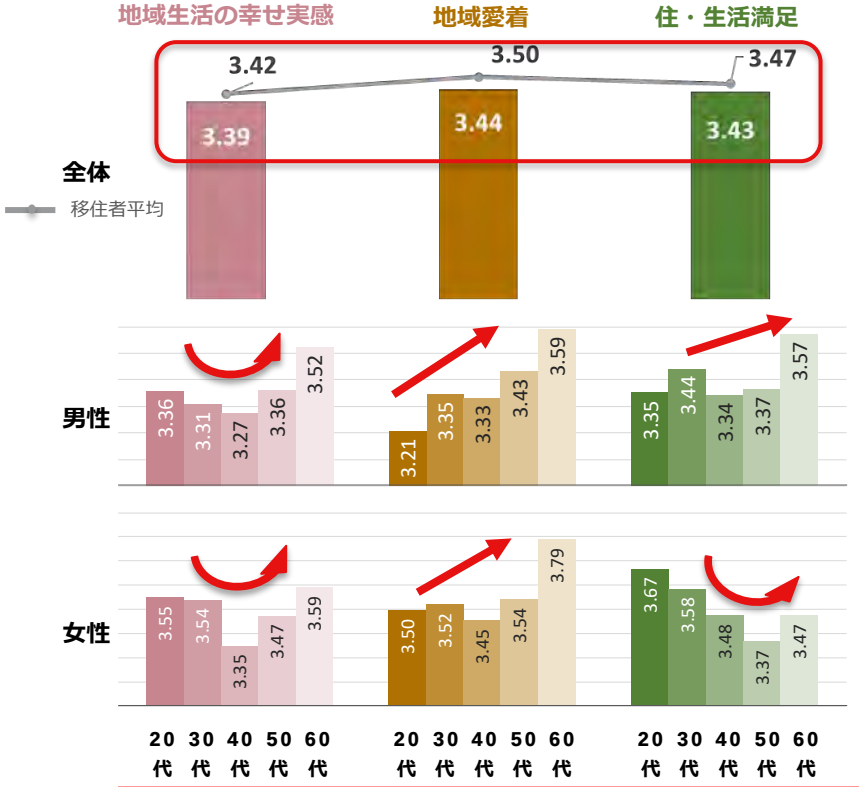
	n	Iターン型
男性２０代	(146)	36.3%
男性３０代	(621)	37.0%
男性４０代	(1587)	40.0%
男性５０代	(2399)	42.0%
男性６０代	(1204)	39.5%
男性計	5957	40.3%
女性２０代	(310)	33.2%
女性３０代	(596)	32.6%
女性４０代	(579)	33.9%
女性５０代	(346)	32.7%
女性６０代	(78)	42.3%
女性計	1909	33.5%
移住者合計	7866	38.6%

■移住者の性格的特徴 ＊参考値



パーソル総合研究所
PERSOL

■地域における暮らしの評価指標 (pt)



■人生・生活スタイル

・「理想とする生活スタイル」「人生設計の明確さ」のいずれも平均的

■居住地へのこだわり

・「居住地に**こだわらない**」割合は、2番目に多い（33.4%）が、多拠点意向は少ない（19.6%）
・「親、子供世帯との同居意向あり」割合は、配偶者地縁型に次いで多い（39.9%）

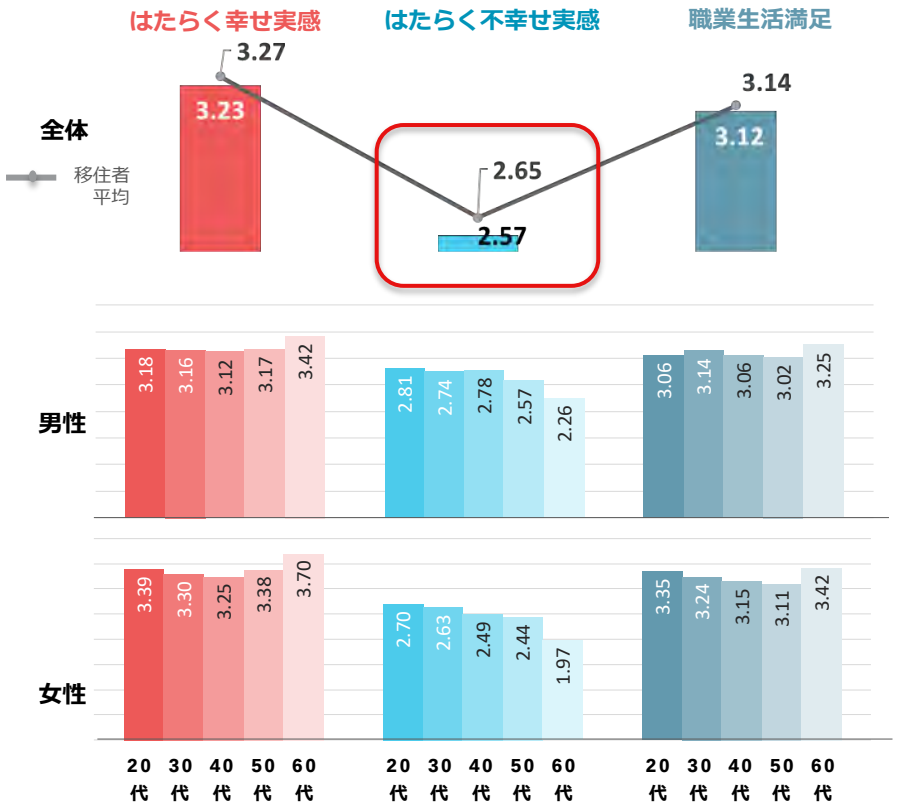
■移住した際の影響項目（TOP10）

Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	39.2%
Top２	都市部へのアクセスがいい（通勤・通学、行楽など）	36.5%
Top３	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	30.9%
Top４	自然が豊かで身近に感じられる	30.0%
Top５	穏やかな暮らしを実現することが出来る	29.6%
Top６	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	28.2%
Top７	やりたい仕事ができる	28.2%
Top８	地産の美味しい食べ物・飲み物が多くある	24.6%
Top９	近郊に娯楽施設や大型商業施設などがある	24.0%
Top10	地域の医療体制が整っている	23.8%

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

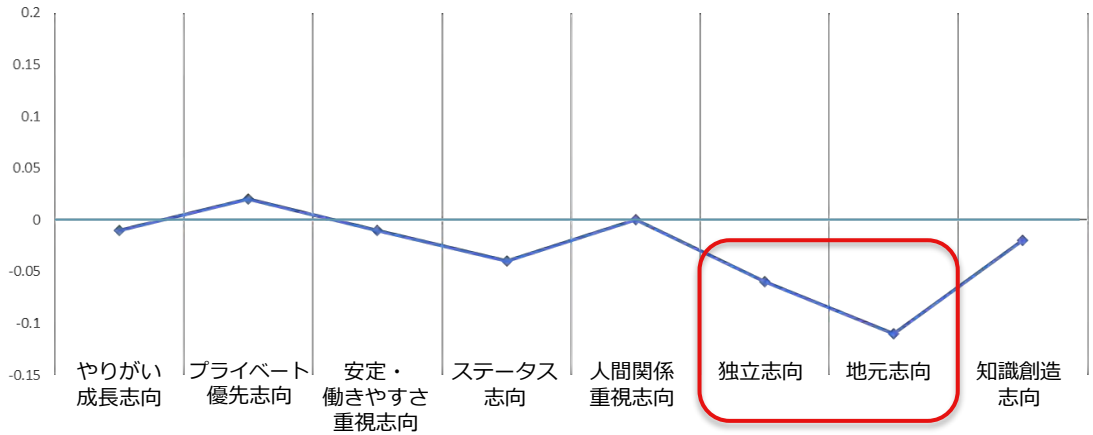
調査結果 Iターン型移住　経験者（職業生活編）

■職業生活の評価指標（pt）

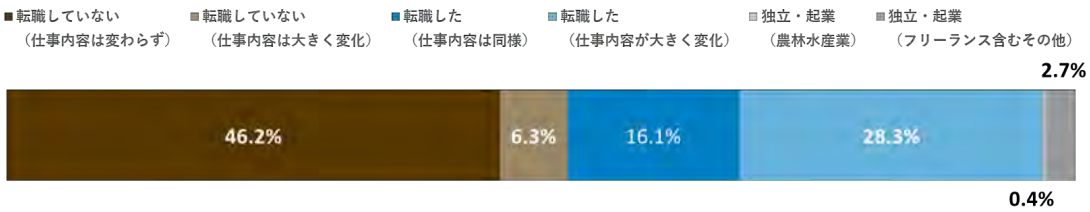


■仕事に対する考え方（キャリア観）

＊移住者平均値差分（pt）



■移住に伴う転職経験



■移住した際の収入増減

■経済状況

- 「当面やりくりできる貯蓄がある」割合は、配偶者型の次に少ない（29.2%）
- 「将来的には親の年収を超えられると思う」割合は、多拠点型、Uターン型に次いで多い（29.4%）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

配偶者地縁型移住　経験者

■移住者の特徴

・男性は、30代が最も多く以降は減少。女性は、20代から50代にかけて徐々に増加する

・男女共に若年層の暮らし評価が最も高く、以降低下するがシニア層で再上昇する

・理想とする生活スタイルは明瞭だが、移住で成し遂げたい目的は希薄な傾向（“志”移住は少ない）

・当面の貯蓄に乏しく、将来収入への見通しはネガティブな傾向

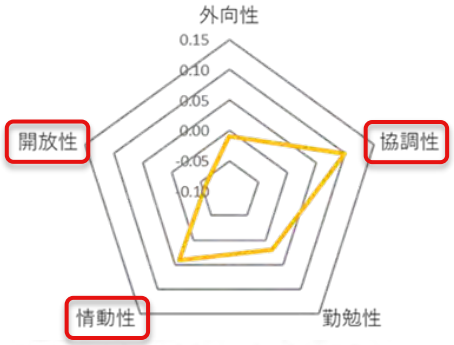
～参考～
・性格的特性：協調性・情動性が特徴的に高く、開放性が低い傾向
・キャリア観：人間関係重視志向が高く、独立志向・地元志向・知識創造志向がやや低い傾向

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　配偶者地縁型移住　経験者（生活編）

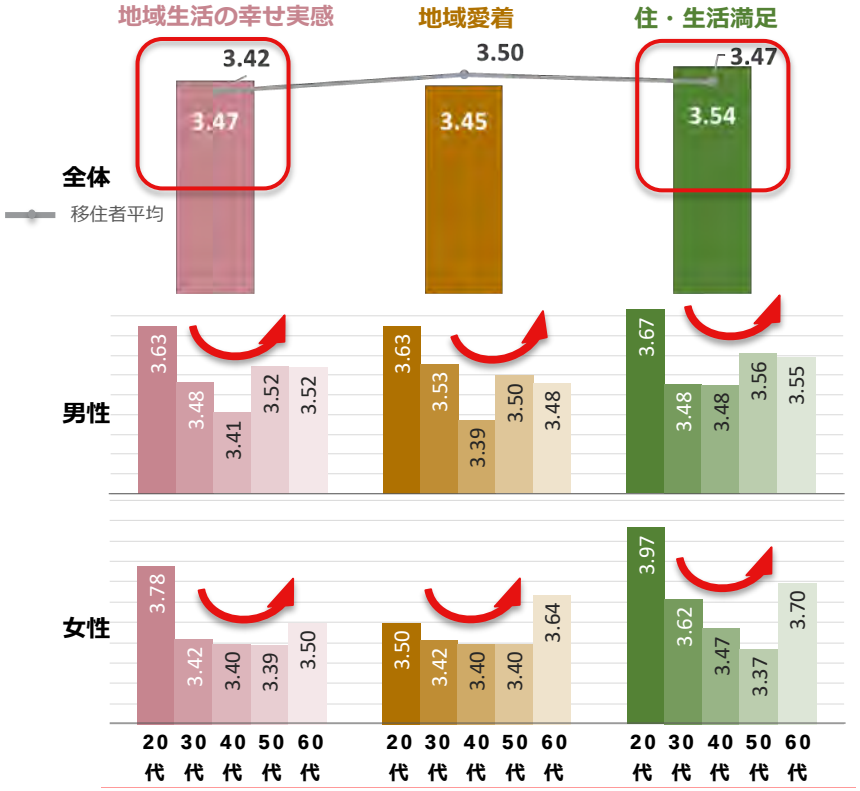
	n	配偶者地縁型
男性２０代	(146)	5.5%
男性３０代	(621)	13.7%
男性４０代	(1587)	11.7%
男性５０代	(2399)	10.5%
男性６０代	(1204)	10.5%
男性計	5957	11.0%
女性２０代	(310)	16.8%
女性３０代	(596)	21.0%
女性４０代	(579)	22.6%
女性５０代	(346)	24.0%
女性６０代	(78)	14.1%
女性計	1909	21.1%
移住者合計	7866	13.5%

■移住者の性格的特徴　＊参考値



パーソル総合研究所
PERSOL

■地域における暮らしの評価指標 (pt)



■人生・生活スタイル

- 「理想とする生活スタイルがある」割合は、全タイプ中で最も多い。（60.0%）
- 「生活拠点を移してでもやってみたいことがある」割合は、全タイプ中で最も少ない。（15.9%）

■居住地へのこだわり

- 「多拠点居住への関心」が、全タイプ中で最も低い（19.5%）

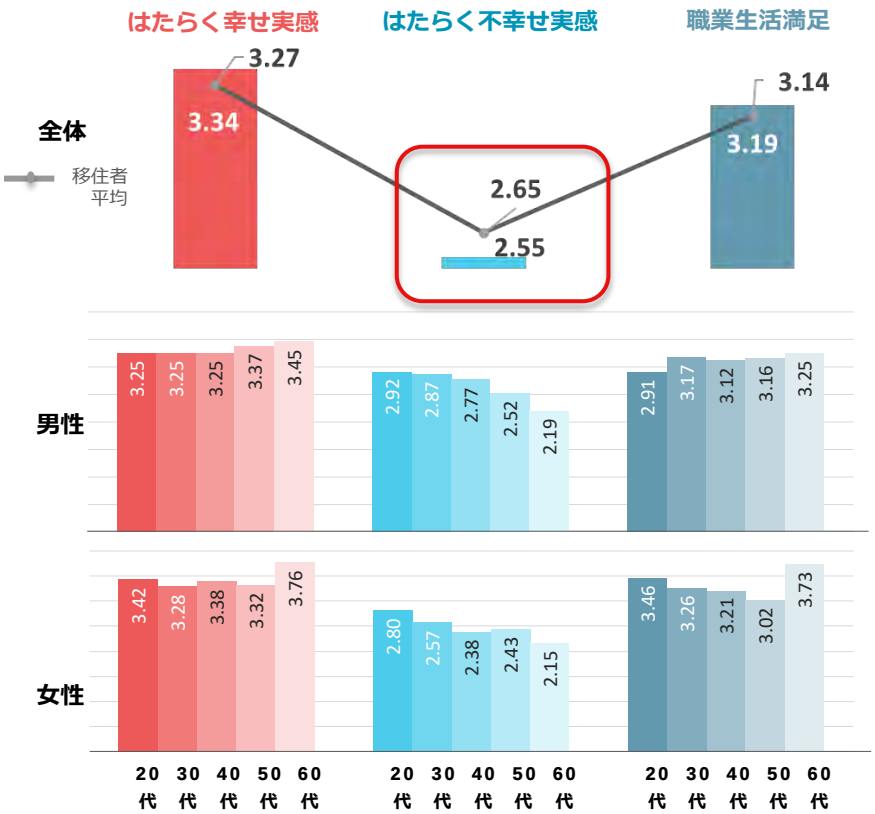
■移住した際の影響項目（TOP10）

Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	38.0%
Top２	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	35.3%
Top３	都市部へのアクセスがいい（通勤・通学、行楽など）	35.1%
Top４	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	33.8%
Top５	やりたい仕事ができる	33.0%
Top６	やりたかった仕事が実現できる	31.7%
Top７	穏やかな暮らしを実現することが出来る	29.6%
Top８	地域の医療体制が整っている	26.9%
Top９	地産の美味しい食べ物・飲み物が多くある	26.7%
Top10	自然が豊かで身近に感じられる	25.3%

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

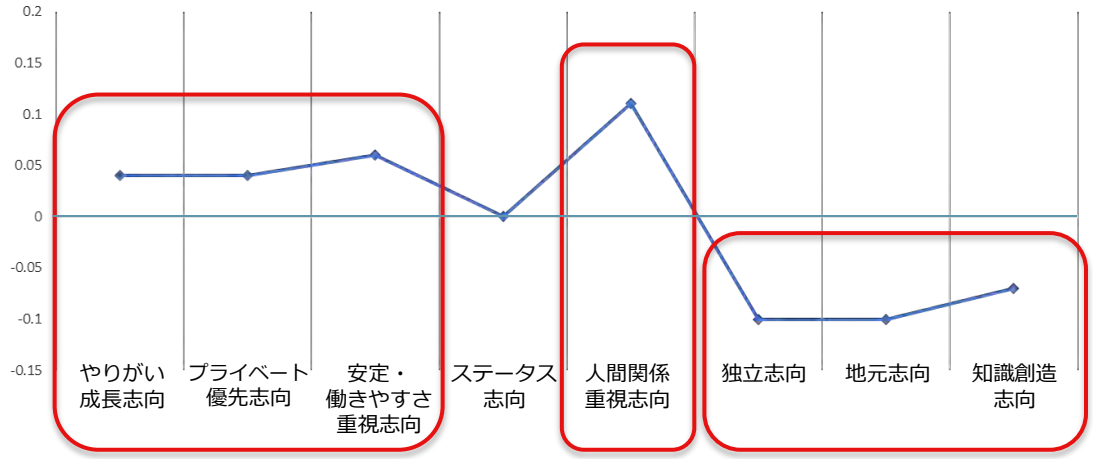
調査結果 配偶者地縁型移住　経験者（職業生活編）

■職業生活の評価指標（pt）

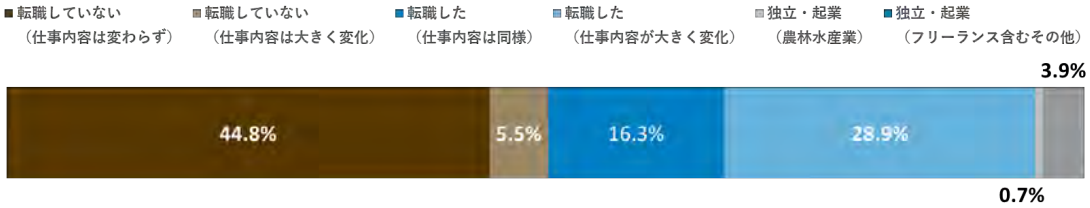


■仕事に対する考え方（キャリア観）

＊移住者平均値差分（pt）



■移住に伴う転職経験



■移住した際の収入増減

■経済状況

- 「当面やりくりできる貯蓄がある」割合は、全タイプ中で最も少ない（27.8%）
- 「将来的に親の年収を超えられると思う」割合は、最も少ない（24.9%）　＊「思わない」割合が最も多い

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

多拠点居住型移住　経験者

■移住者の特徴

・男女共に20代が多く、以降一定で推移する（男性は、シニア層で増加する）

・暮らし・職業生活ともに現在の評価は平均的（男性は若年層で高く、女性はシニア層で高い傾向）

・人生設計が明瞭で、移住で成したいことがある方が最も多い（“志”移住の典型例とも言える）

・移住した際に増収となった人の割合が多い（21.8%）

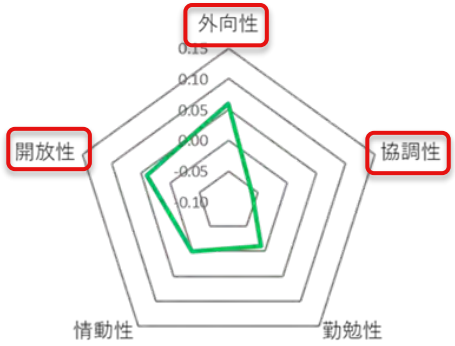
～参考～
・性格的特性：外向性・開放性が高く、協調性が低い傾向
・キャリア観：ステータス志向・独立志向がい傾向

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　多拠点居住型移住　経験者（生活編）

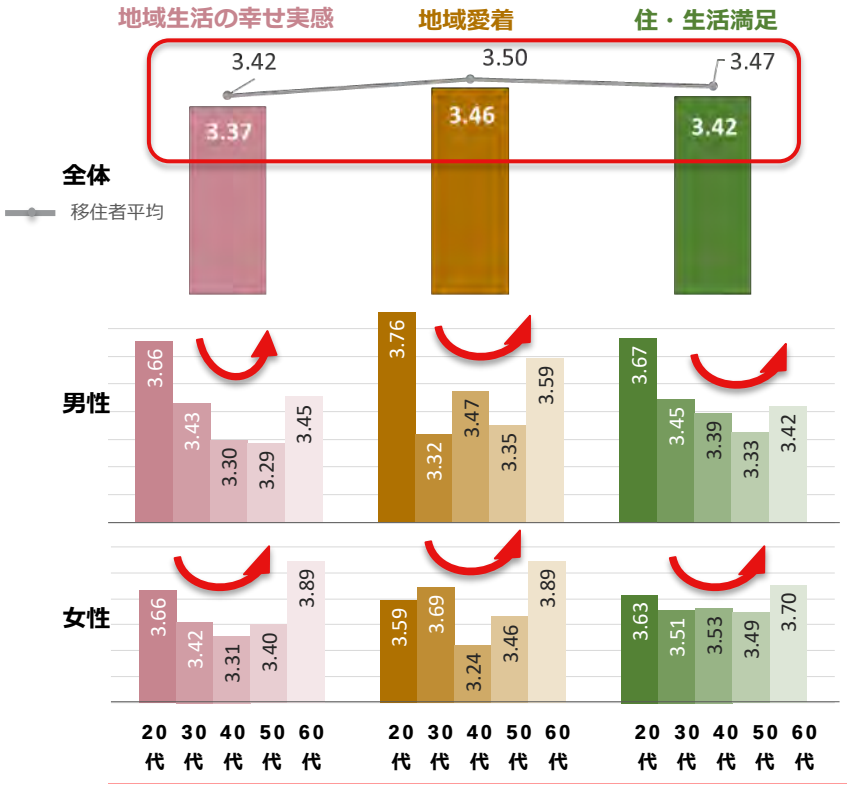
	n	多拠点居住
男性２０代	(146)	19.9%
男性３０代	(621)	16.7%
男性４０代	(1587)	16.5%
男性５０代	(2399)	18.4%
男性６０代	(1204)	20.0%
男性計	5957	18.1%
女性２０代	(310)	18.7%
女性３０代	(596)	14.6%
女性４０代	(579)	13.5%
女性５０代	(346)	15.6%
女性６０代	(78)	11.5%
女性計	1909	15.0%
移住者合計	7866	17.3%

■移住者の性格的特徴　＊参考値



パーソル総合研究所
PERSOL

■地域における暮らしの評価指標（pt）



■人生・生活スタイル

- 「理想とする生活スタイルがある」割合は平均的
- 「人生設計が明確」である割合（26.9%）と「生活拠点を移してでもやってみたいことがある」割合（24.6%）は全タイプ中最も多い

■居住地へのこだわり

- 「居住地へのこだわらない」割合は、全タイプ中最も多い（35.3%）

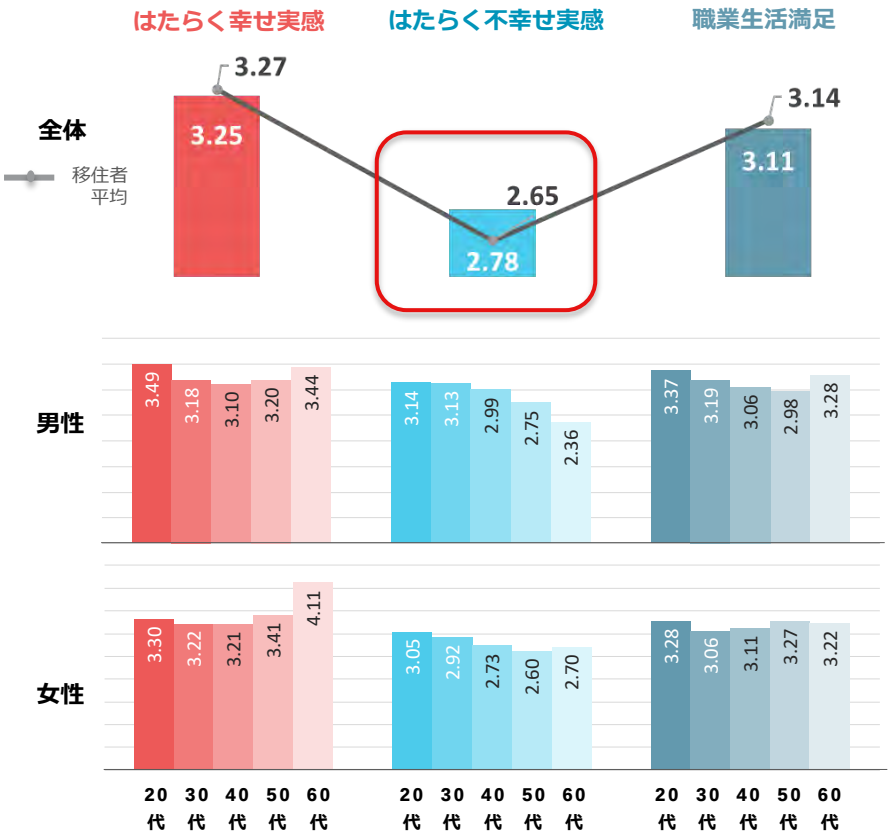
■移住した際の影響項目（TOP10）

Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	36.0%
Top２	都市部へのアクセスがいい（通勤・通学、行楽など）	35.1%
Top３	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	30.9%
Top４	自然が豊かで身近に感じられる	28.5%
Top５	穏やかな暮らしを実現することが出来る	28.0%
Top６	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	27.7%
Top７	地産の美味しい食べ物・飲み物が多くある	27.6%
Top８	やりたい仕事ができる	27.2%
Top９	生活コストを下げられる	26.6%
Top10	地域の医療体制が整っている	25.8%

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

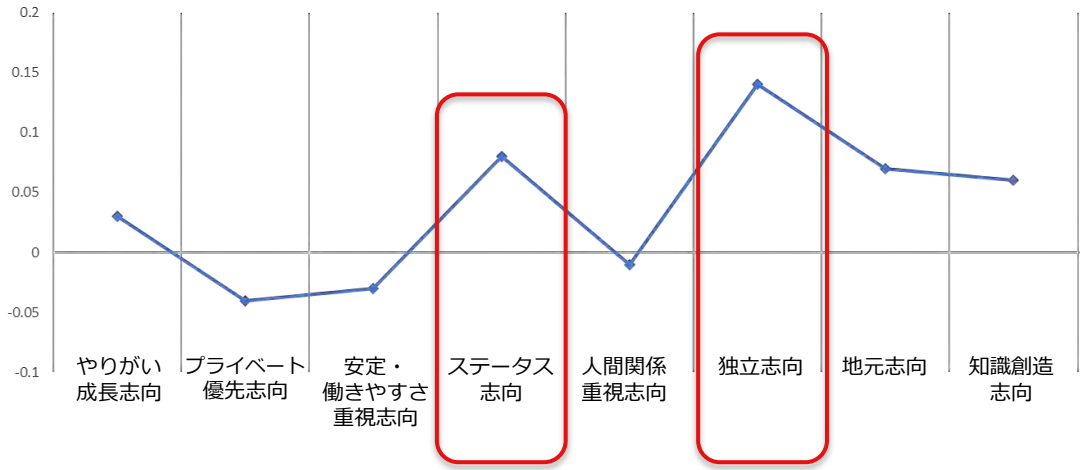
調査結果 多拠点居住型移住　経験者（職業生活編）

■職業生活の評価指標（pt）

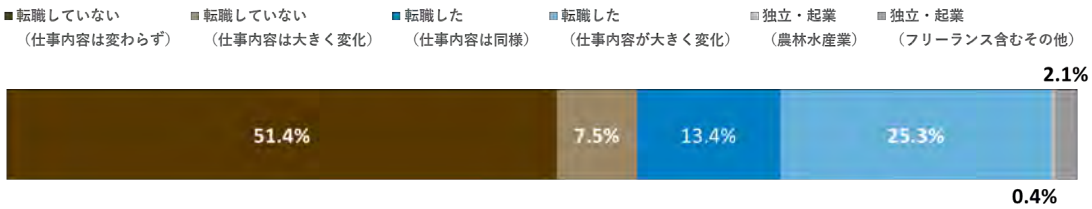


■仕事に対する考え方（キャリア観）

＊移住者平均値差分（pt）



■移住に伴う転職経験



■移住した際の収入増減

■経済状況

- 当面やりくりできる貯蓄がある割合は、Uターン型に次いで多い（32.3%）
- 「将来的には親の年収を超えられると思う」割合は、全タイプ中で最も多い（34.0%）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査２ 【移住意向者 分析編】

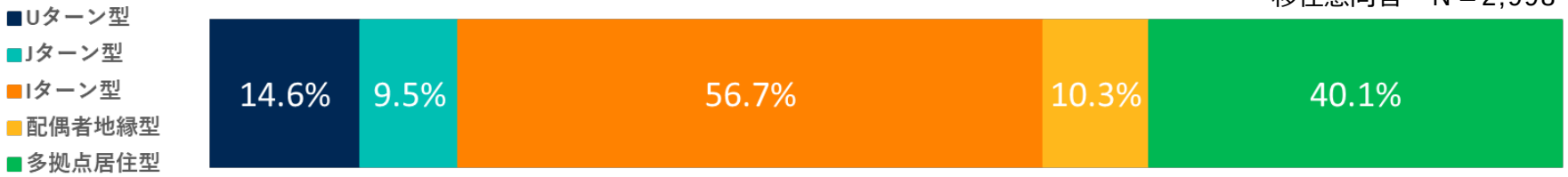
地方圏への**移住を検討している方**の暮らし方・働き方、移住時の影響要因に関する実態調査（**概要**）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

移住意向者の概要

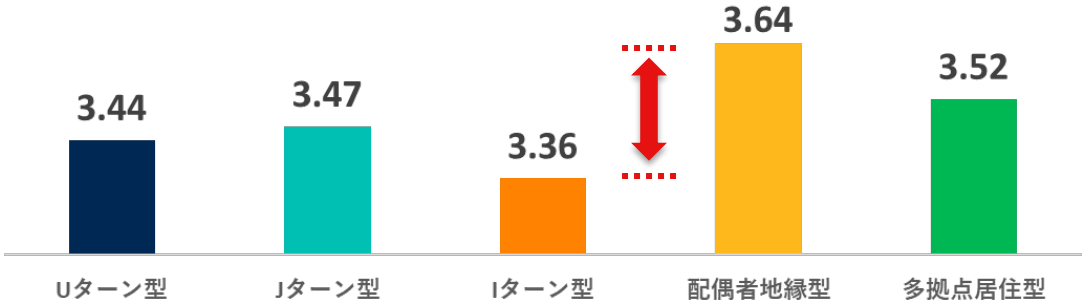
■移住意向者の検討している移住タイプ　（複数選択可）

移住意向者　N＝2,998



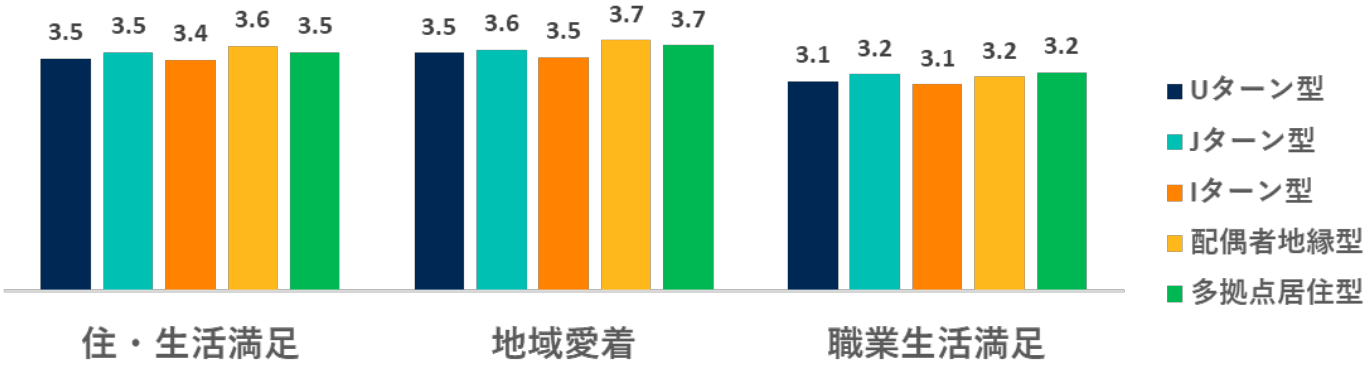
■地域生活の幸せ実感【検討中の移住タイプ別】

＊平均値（pt）



■地域生活でのウェルビーイング要因【３観点】

＊平均値（pt）



最も多く検討されている移住タイプは、**Iターン型で56.7%**であった。
次いで、多拠点居住型が多く、40.1%であった。

地域生活の幸せ実感では、**配偶者地縁型**の平均値がやや高い傾向が確認された。

要因に着目すると、配偶者地縁型は、現在居住地への愛着が高く、**住・生活満足**も相対的にやや高い傾向が確認された。

複数選択のため、タイプ別平均に大きな差はみられないが、配偶者地縁型は、現在の私生活が円満ゆえに検討されるタイプとも考えられる。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

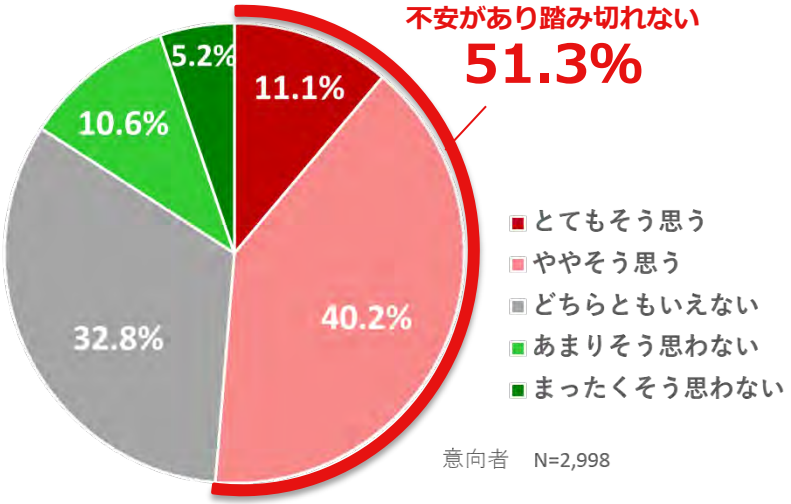
移住意向者の概要

■テレワークと移住検討段階

移住検討段階	在宅勤務が可能	遠隔地居住が可能
5年以内で計画（478）	54.6%	12.6%
10年以内で計画（361）	52.4%	10.0%
時期未定（2,159）	43.5%	7.1%
無関心者（2,981）	32.7%	2.8%

＊移住意向者＝5年以内で計画、10年以内で計画、時期未定の3層。無関心者は比較参考。

■移住に踏み切れない不安がある人の割合

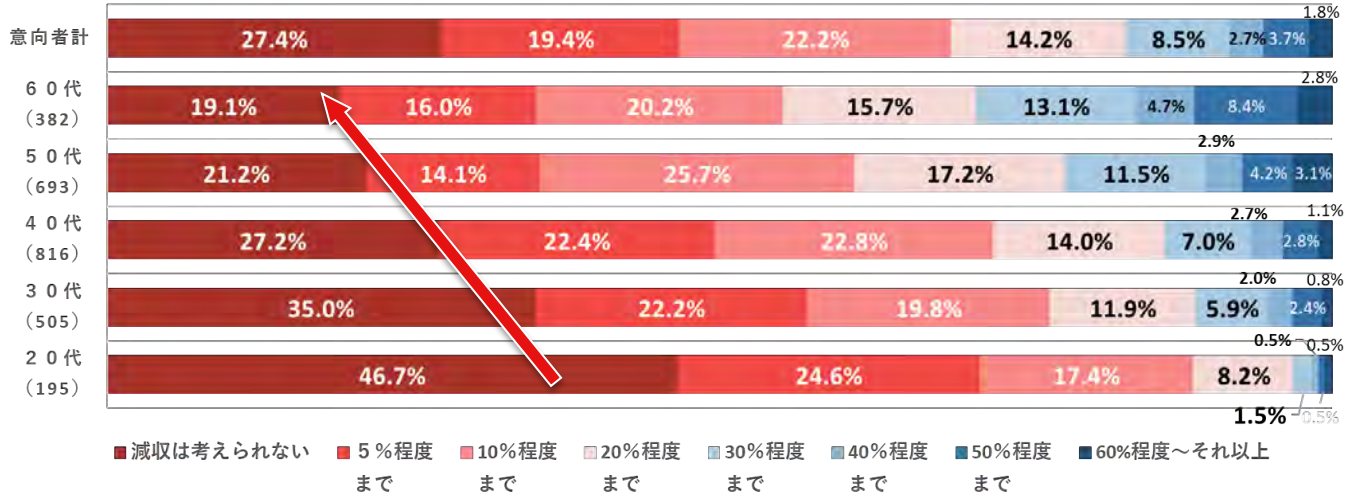


テレワーク（在宅勤務や遠隔居住）が可能な人ほど、移住を具体的に検討していることが確認された。
また、意向者の51.3%は、何らかの不安があり移住に踏み切れずにいる状態が確認された。

移住時の年収減少への覚悟を確認したところ、**20代では、46.7%が「考えられない」**と回答し、減収を許容していない。しかし、**年代を経るごとに減収を許容する傾向**が確認された。

■移住に際する年収減額の許容幅

＊「答えたくない」「わからない」回答を除く
移住意向者　N＝2,998



Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 移住意向者_年代別_移住時影響項目

移住意向者　N＝2,988

		全体	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代
Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	76.4%	82.7%	79.0%	74.1%	75.8%	76.1%
Top２	地域の医療体制が整っている	75.0%	77.3%	75.6%	71.6%	75.2%	80.1%
Top３	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	72.2%	81.4%	76.6%	70.2%	70.2%	69.8%
Top４	穏やかな暮らしを実現することが出来る	72.1%	76.4%	74.5%	70.4%	71.6%	71.1%
Top５	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	71.6%	75.9%	74.2%	69.3%	71.3%	71.6%
Top６	事前に地域の住まいや生活に関する情報が十分に得られる	69.0%	70.5%	70.6%	67.8%	68.8%	68.8%
Top７	地域の防災対策に安心感がある	68.4%	75.9%	70.9%	66.2%	67.3%	68.2%
Top８	移住者に対して、地域住民が支援的である	66.9%	66.8%	67.0%	66.9%	67.0%	66.8%
Top９	自然が豊かで身近に感じられる	66.5%	62.3%	63.9%	63.8%	69.5%	72.5%
Top１０	生活コストを下げられる	66.3%	73.6%	69.4%	66.5%	65.1%	60.5%

移住意向者が検討時に影響すると回答した項目では、**「日常の買い物で不便がない」**、**「地域の医療体制が整っている」**といった項目が上位となった。また、**「街並みの雰囲気が好み」「穏やかな暮らしが実現できる」**といった曖昧で主観的な項目が確認された。
移住に際しては、生活上必要な具体的条件（都市・生活基盤の担保）だけでなく、移住候補地に対してポジティブな印象や期待感が抱けるといった情緒的な側面も重視されているようだ。

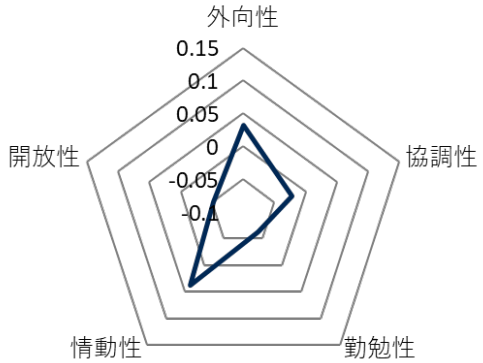
＊5件法：とても影響する、影響する、どちらでもない、影響しない、まったく影響しないで回答
「とても影響する＋影響する」の回答割合から導出

パーソル総合研究所 PERSOL
Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

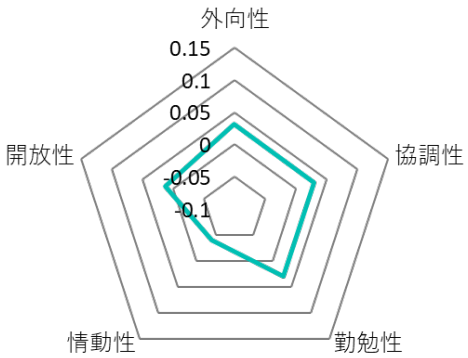
調査結果 検討中の移住タイプ別_性格特性

＊移住意向者平均値との差分

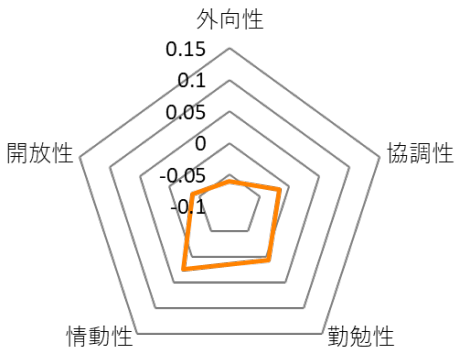
Uターン型（439名）



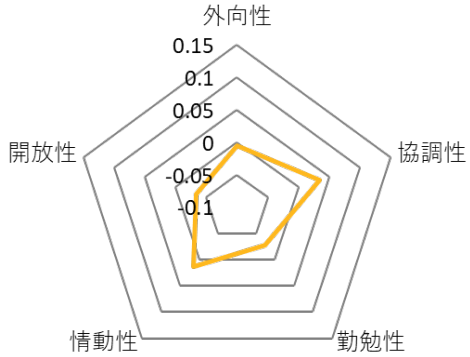
Jターン型（285名）



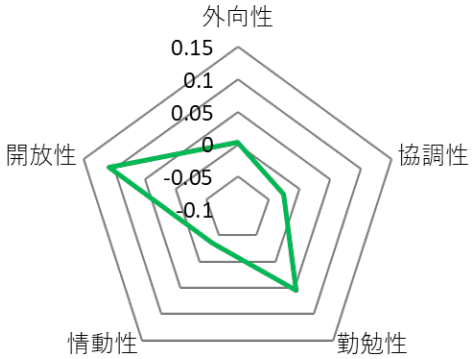
Iターン（1,700名）



配偶者地縁型（309名）



多拠点居住型（1,202名）



Uターン型
外向性・情動性がやや高く、
開放性・勤勉性が低い傾向

Jターン型
外向性・協調性・開放性が高く、
情動性が低い傾向

Iターン型
情動性がやや高く、外向性・
開放性が低い傾向

配偶者地縁型
協調性が高く、開放性・勤勉性
がやや低い傾向

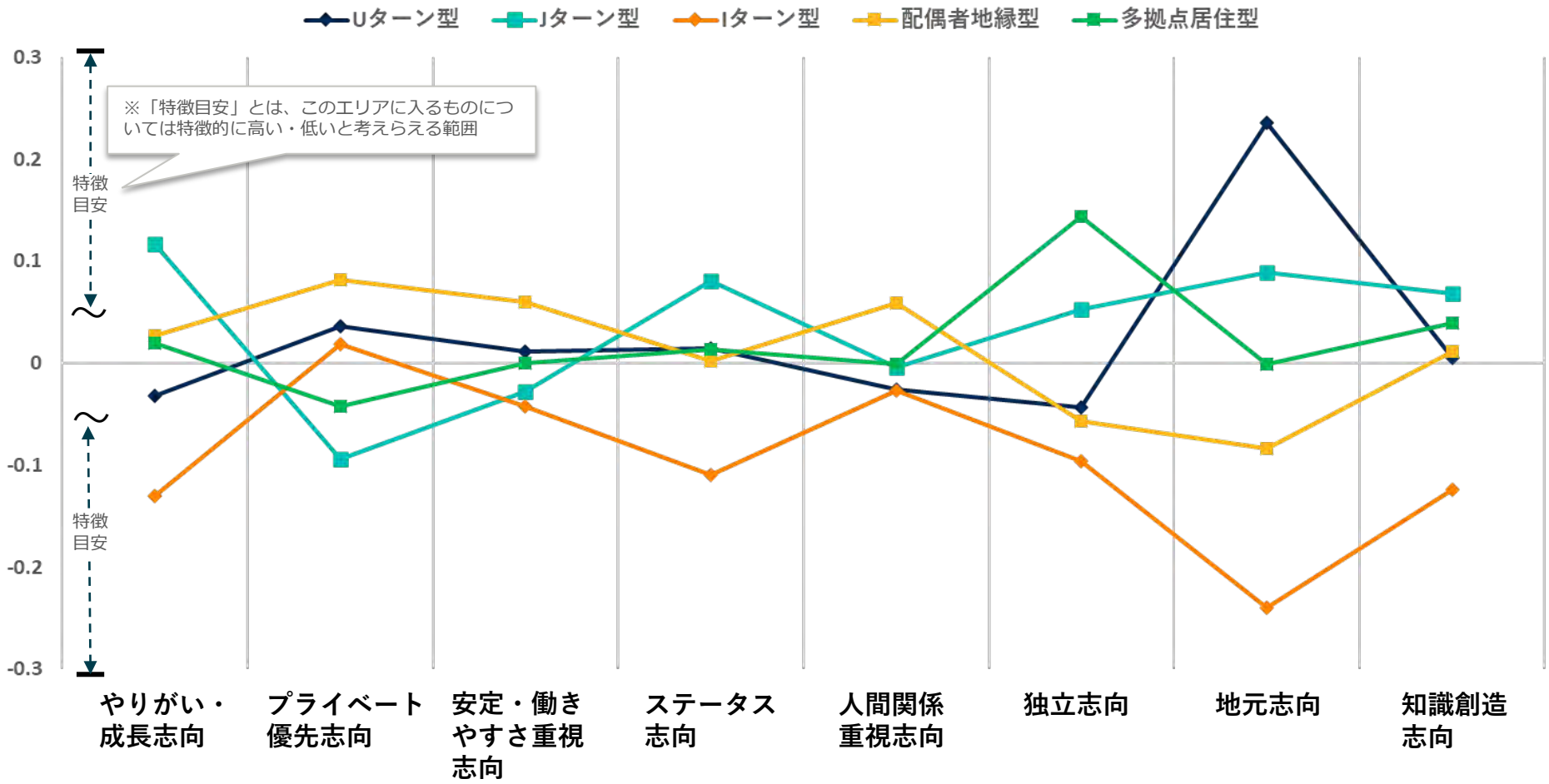
多拠点居住型
開放性・勤勉性が高く、情動性
が低い傾向

※５つの項目については、Appendix.の「性格的特性」を参照、以降同様。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 検討中の移住タイプ別_キャリア観

＊移住意向者平均値との差分



＊移住意向者：Uターン（439名）、Jターン（285名）、Ｉターン（1,700名）、配偶者地縁（309名）、多拠点（1,202名）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

Uターン型移住　意向者

■意向者の特徴

・男性は30代、女性は40代が多く、5年以内計画者においては60代で増加する傾向

・現在の暮らしの評価は平均的、職業生活においては「不幸せ実感」がやや高い傾向（2.71pt）

・当面の貯蓄や将来の相続資産などを保有する割合が多い（貯蓄40.8%、相続資産23.5%）

・親、子供世帯との同居意向が最も高い（31.7%）

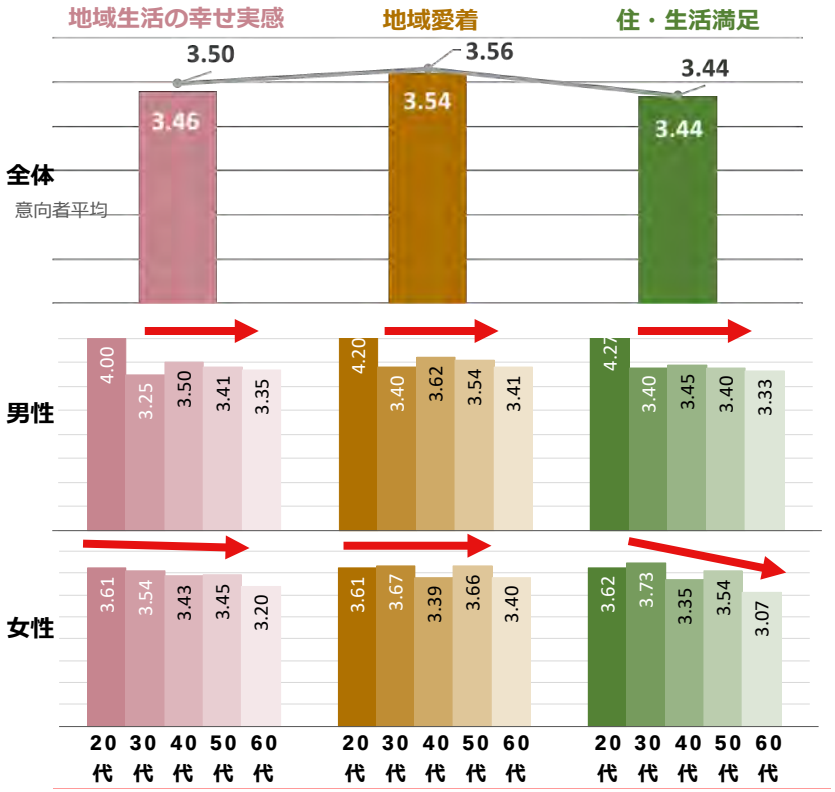
～参考～
・性格的特性：外向性・情動性がやや高く、開放性・勤勉性が低い傾向
・キャリア観：地元志向が高い

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 Uターン型移住　意向者（生活編）

	(n)	Uターン型意向者	5年以内	10年以内	時期未定
男性２０代	(40)	12.5%	20.0%	14.3%	8.7%
男性３０代	(276)	18.8%	32.3%	17.2%	14.6%
男性４０代	(621)	16.7%	18.7%	20.7%	15.7%
男性５０代	(622)	12.7%	15.6%	13.4%	11.5%
男性６０代	(407)	11.3%	23.6%	3.1%	10.0%
男性計	(1966)	**14.5%**	20.9%	14.9%	12.9%
女性２０代	(180)	12.8%	21.7%	—	11.7%
女性３０代	(309)	14.6%	17.4%	25.0%	13.2%
女性４０代	(304)	16.8%	18.9%	7.1%	17.6%
女性５０代	(203)	14.3%	12.5%	21.1%	13.7%
女性６０代	(36)	13.9%	66.7%	—	9.7%
女性計	(1032)	**14.8%**	19.6%	12.0%	14.3%
合計	(2998)	**14.6%**	20.5%	14.1%	13.4%

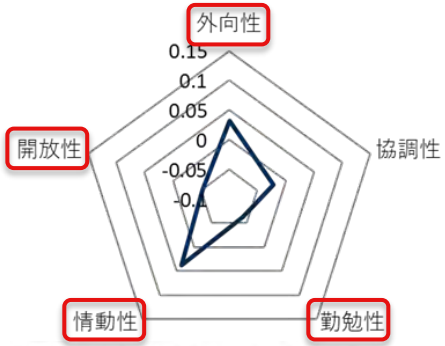
■地域における暮らしの評価指標 (pt)



■移住検討への影響項目（TOP10）

Top１	地域の医療体制が整っている	76.3%
Top２	地域での日常的な買い物などで不便がない	75.6%
Top３	穏やかな暮らしを実現することが出来る	72.4%
Top４	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	69.7%
Top５	生活コストを下げられる	69.2%
Top６	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	69.0%
Top７	事前に地域の住まいや生活に関する情報が十分に得られる	67.7%
Top８	地域の防災対策に安心感がある	66.7%
Top９	地域での豊かな生活を思い描け、期待できる	66.3%
Top10	自然が豊かで身近に感じられる	66.1%

■意向者の性格的特徴 ＊参考値



■人生・生活スタイル

・「理想とする生活スタイル」「人生設計の明確さ」
「生活拠点を移してでもやってみたいこと」のいずれも平均的

■居住地へのこだわり

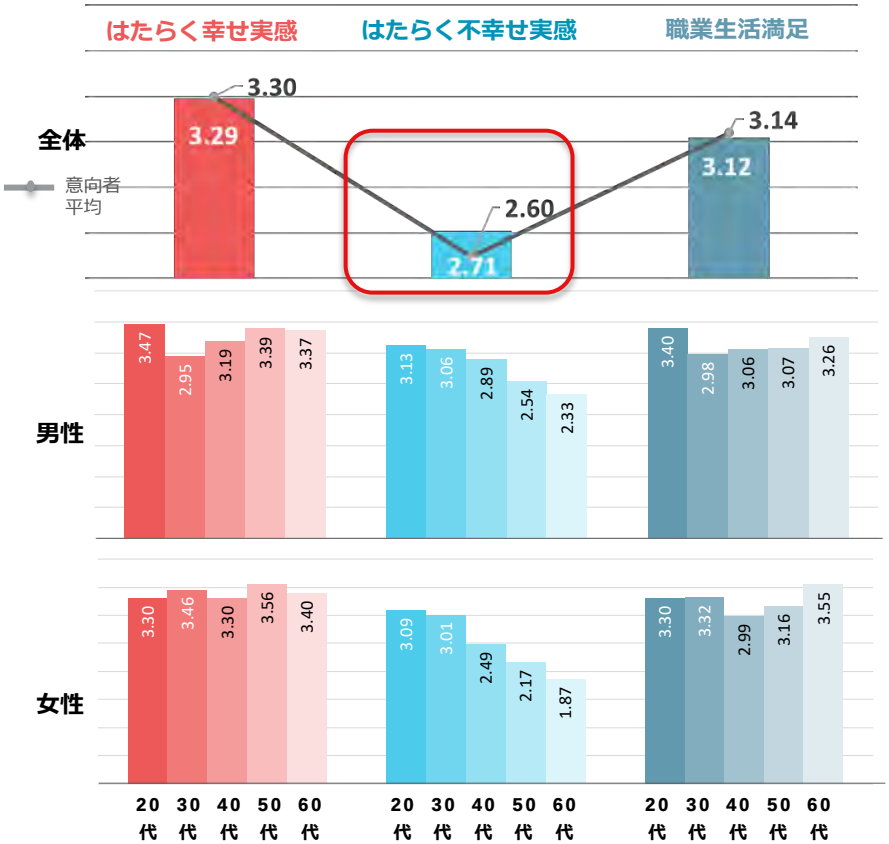
・「多拠点居住への関心」が、他のタイプと比較してやや高い
（「とてもそう思う」9.1%）
・親、子供世帯との同居意向が最も高い（31.7%）

パーソル総合研究所

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

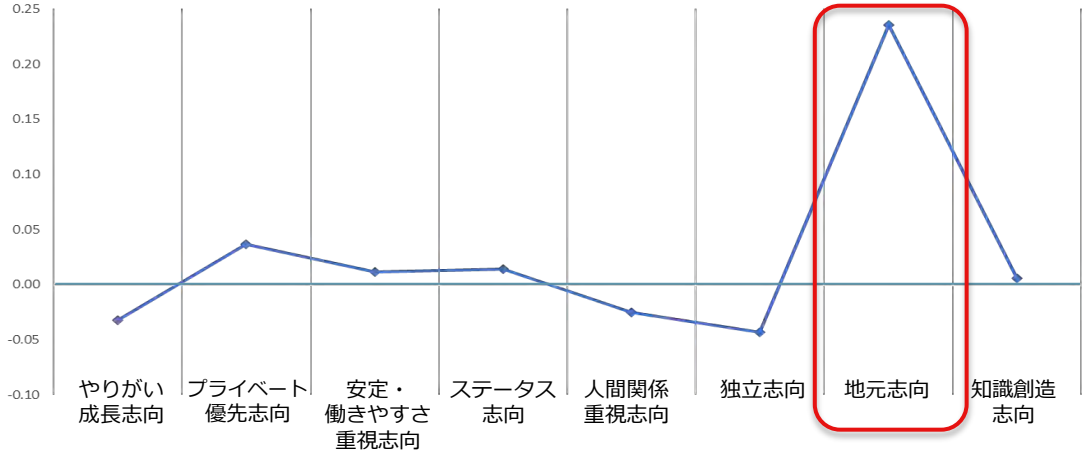
調査結果 Uターン型移住　意向者（職業生活編）

■職業生活の評価指標 （pt）



■仕事に対する考え方（キャリア観）

＊意向者平均値差分



■移住に際する年収減額の許容幅

＊「答えたくない」「わからない」回答を除く

	(n)	減収は考えられない	5%程度まで	10%程度まで	20%程度まで	30%程度まで	40%程度まで	50%程度まで	60%程度まで	60%以上も許容
20代	26	34.6%	30.8%	26.9%	3.8%	3.8%	-	-	-	-
30代	89	29.2%	24.7%	19.1%	6.7%	12.4%	3.4%	3.4%	-	1.1%
40代	140	30.7%	22.1%	22.1%	13.6%	6.4%	2.9%	1.4%	0.7%	-
50代	95	18.9%	14.7%	32.6%	10.5%	12.6%	3.2%	5.3%	-	2.1%
60代	46	23.9%	15.2%	19.6%	15.2%	13.0%	2.2%	8.7%	-	2.2%
	396	27.0%	20.7%	24.0%	10.9%	9.8%	2.8%	3.5%	0.3%	1.0%

■経済状況

- 当面やりくりできる貯蓄がある割合は、他のタイプと比較してやや多い（40.8%）
- いずれ相続するであろう資産の有無は、他のタイプと比較して最も多い（23.5%）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

Jターン型移住　意向者

■意向者の特徴

・男性は30代が多く、以降は減少。女性は20代・30代で多い傾向

・現在の暮らし評価はやや高く、職業生活評価は特徴的に高い傾向（はたらく幸せ実感：3.43pt）

・貯蓄や相続資産等、経済的な余裕がある傾向（当面の貯蓄がある（44.9%）割合が最も多い）

・移住に際する減収許容度が最も高い（「減収は考えられない」回答が24.0%と最も少ない）

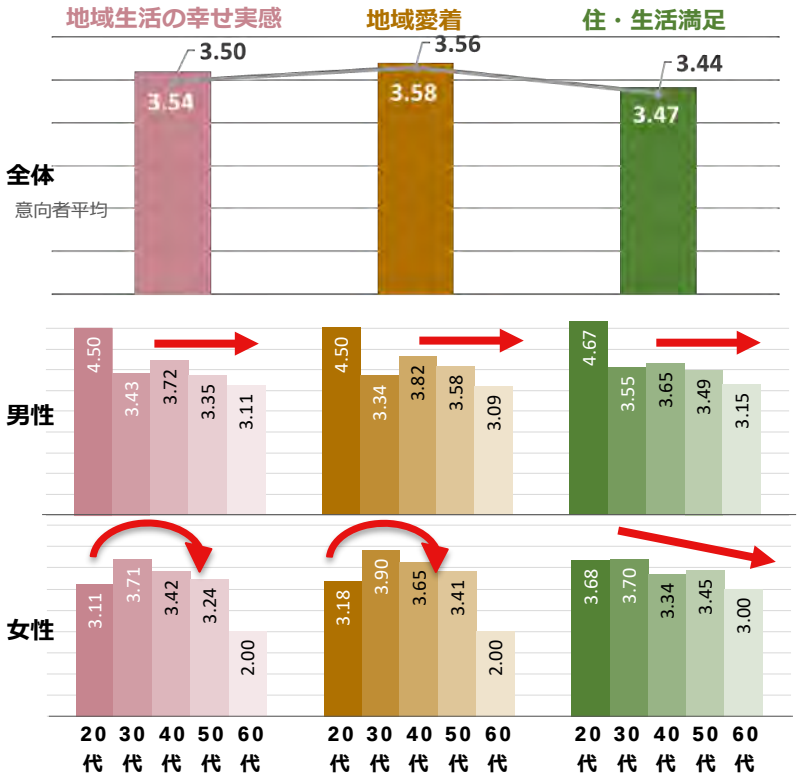
～参考～
・性格的特性：外向性・協調性・勤勉性が高く、情動性が低い傾向
・キャリア観：プライベート志向が低く、やりがい成長志向・ステータス志向・地元志向が高い傾向
（独立志向は相対的に高い）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 Jターン型移住　意向者（生活編）

	(n)	Jターン型意向者	5年以内	10年以内	時期未定
男性２０代	(40)	5.0%	10.0%	―	4.3%
男性３０代	(276)	12.7%	19.4%	17.2%	9.7%
男性４０代	(621)	10.5%	18.7%	17.1%	8.0%
男性５０代	(622)	7.7%	8.6%	9.2%	6.9%
男性６０代	(407)	5.4%	10.9%	3.1%	4.7%
男性計	(1966)	**8.7%**	13.3%	11.5%	7.1%
女性２０代	(180)	12.2%	8.7%	―	12.6%
女性３０代	(309)	13.6%	15.2%	30.0%	11.9%
女性４０代	(304)	10.2%	13.5%	7.1%	10.0%
女性５０代	(203)	8.4%	6.3%	15.8%	7.7%
女性６０代	(36)	2.8%	―	―	3.2%
女性計	(1032)	**10.9%**	11.5%	12.0%	10.2%
合計	(2998)	**9.5%**	12.8%	12.7%	8.2%

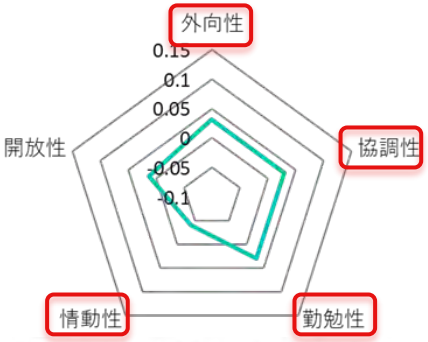
■地域における暮らしの評価指標 (pt)



■移住検討への影響項目（TOP10）

Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	80.0%
Top２	地域の医療体制が整っている	74.4%
Top３	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	73.0%
Top４	穏やかな暮らしを実現することが出来る	72.3%
Top５	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	72.3%
Top６	地域での豊かな生活を思い描け、期待できる	71.2%
Top７	事前に地域の住まいや生活に関する情報が十分に得られる	69.1%
Top８	地域の防災対策に安心感がある	68.8%
Top９	自然が豊かで身近に感じられる	68.1%
Top10	移住者に対して、地域住民が支援的である	67.7%

■意向者の性格的特徴 ＊参考値



パーソル総合研究所
PERSOL

■人生・生活スタイル

- 「理想とする生活スタイルがある」割合は、全タイプ中で最も多い。（60.0%）
- 「生活拠点を移してでもやってみたいことがある」割合は、全タイプ中で最も多い。（32.3%）

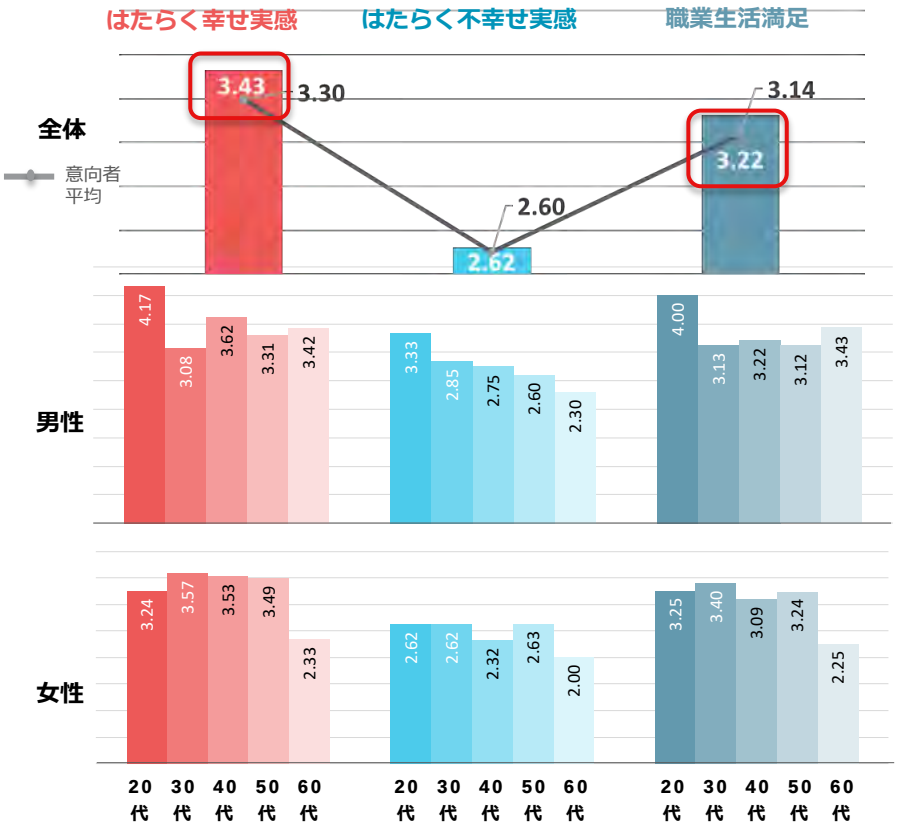
■居住地へのこだわり

- 「多拠点居住への関心」が、全タイプ中で最も高い（36.8%）
  ＊多拠点居住意向者は除く

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

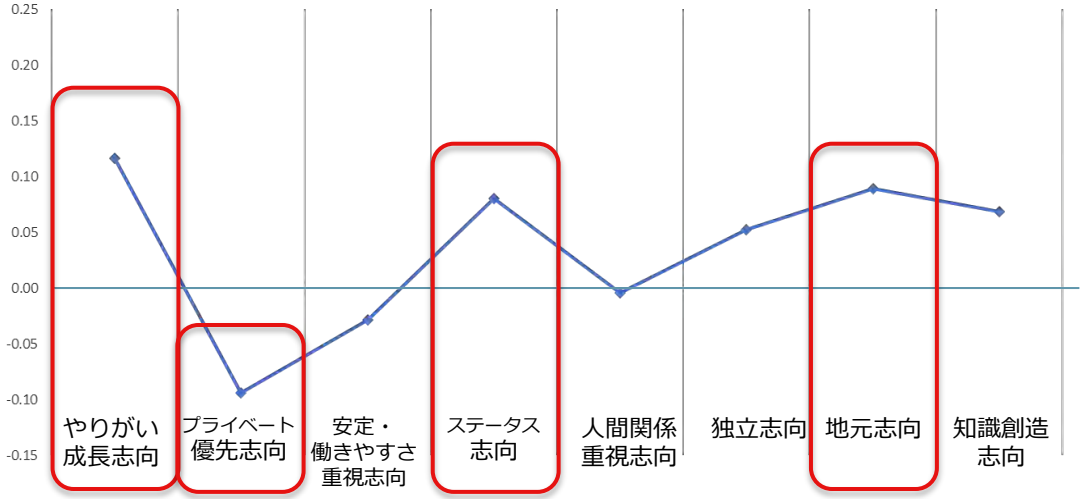
調査結果 Jターン型移住　意向者（職業生活編）

■職業生活の評価指標 (pt)



■仕事に対する考え方（キャリア観）

＊意向者平均値差分



■移住に際する年収減額の許容幅

＊「答えたくない」「わからない」回答を除く

	(n)	減収は考えられない	5%程度まで	10%程度まで	20%程度まで	30%程度まで	40%程度まで	50%程度まで	60%程度まで	60%以上も許容
20代	20	40.0%	35.0%	20.0%	-	5.0%	-	-	-	-
30代	69	20.3%	31.9%	20.3%	15.9%	4.3%	1.4%	4.3%	-	1.4%
40代	87	23.0%	24.1%	21.8%	17.2%	9.2%	-	3.4%	-	1.1%
50代	57	24.6%	15.8%	17.5%	17.5%	14.0%	5.3%	3.5%	1.8%	-
60代	21	23.8%	4.8%	28.6%	9.5%	23.8%	9.5%	-	-	-
	254	24.0%	23.6%	20.9%	15.0%	9.8%	2.4%	3.1%	0.4%	0.8%

■経済状況

- 当面やりくりできる貯蓄がある割合は、他のタイプと　比較して最も多い（44.9%）
- 「将来的には親の年収を超えられると思う」割合は、他のタイプと比較して最も多い（38.3%）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

Iターン型移住　意向者

■意向者の特徴

・男性は20代で特徴的に多く、以降は高い水準で推移する（男女共に40代以降で上昇する）

・現在の暮らしの評価が最も低く、職業生活の評価も低い（特に20代の男性の暮らし評価が低い）

・理想とする生活スタイル・人生設計の明確さが最も低く、将来の親子同居意向が最も低い（15.0%）

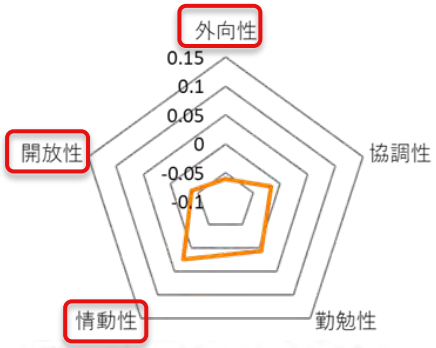
～参考～
・性格的特性：外向性・開放性が低く、情動性がやや高い傾向
・キャリア観：やりがい成長・ステータス・地元志向が低い傾向

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

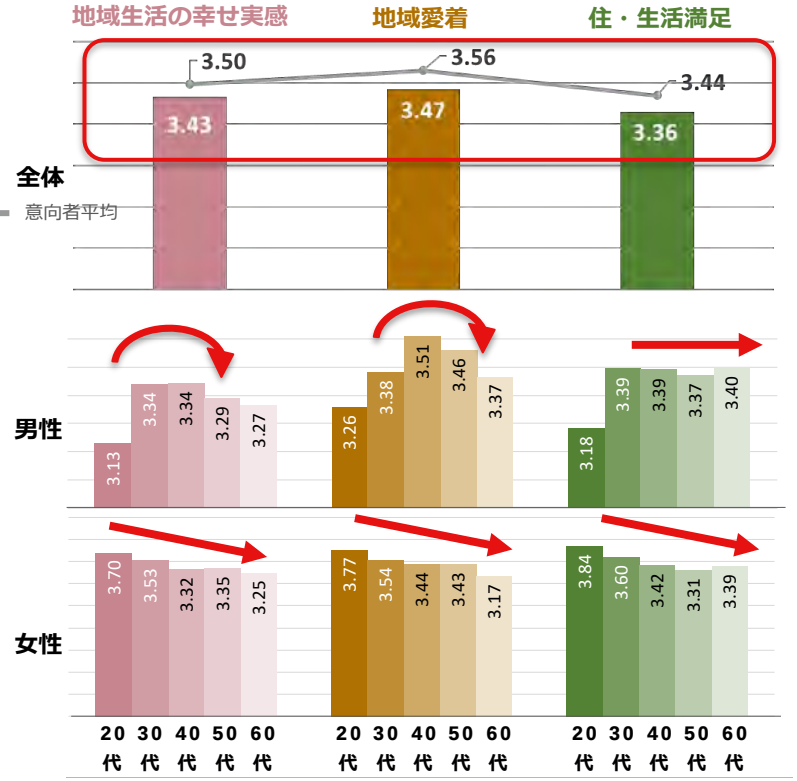
調査結果 Iターン型移住　意向者（生活編）

	(n)	Iターン型意向者	5年以内	10年以内	時期未定
男性２０代	(40)	77.5%	70.0%	71.4%	82.6%
男性３０代	(276)	54.0%	46.8%	44.8%	57.8%
男性４０代	(621)	57.2%	56.0%	58.5%	57.1%
男性５０代	(622)	58.5%	60.2%	55.5%	58.9%
男性６０代	(407)	50.9%	41.8%	62.5%	51.3%
男性計	(1966)	**56.3%**	53.9%	56.5%	56.8%
女性２０代	(180)	66.7%	54.3%	－	70.3%
女性３０代	(309)	55.0%	43.5%	50.0%	57.6%
女性４０代	(304)	58.2%	62.2%	60.7%	57.3%
女性５０代	(203)	53.7%	62.5%	47.4%	53.6%
女性６０代	(36)	50.0%	33.3%	－	51.6%
女性計	(1032)	**57.6%**	53.4%	39.1%	58.2%
合計	(2998)	**56.7%**	53.8%	57.1%	57.3%

■意向者の性格的特徴 ＊参考値



■地域における暮らしの評価指標 (pt)



■人生・生活スタイル

・「理想とする生活スタイルがある」（50.5%）
「人生設計が明確である」（20%）と、いずれの割合も全タイプ中で最も少ない

■居住地へのこだわり

・親、子供世帯との同居意向が最も低い（15.0%）

■移住検討への影響項目（TOP10）

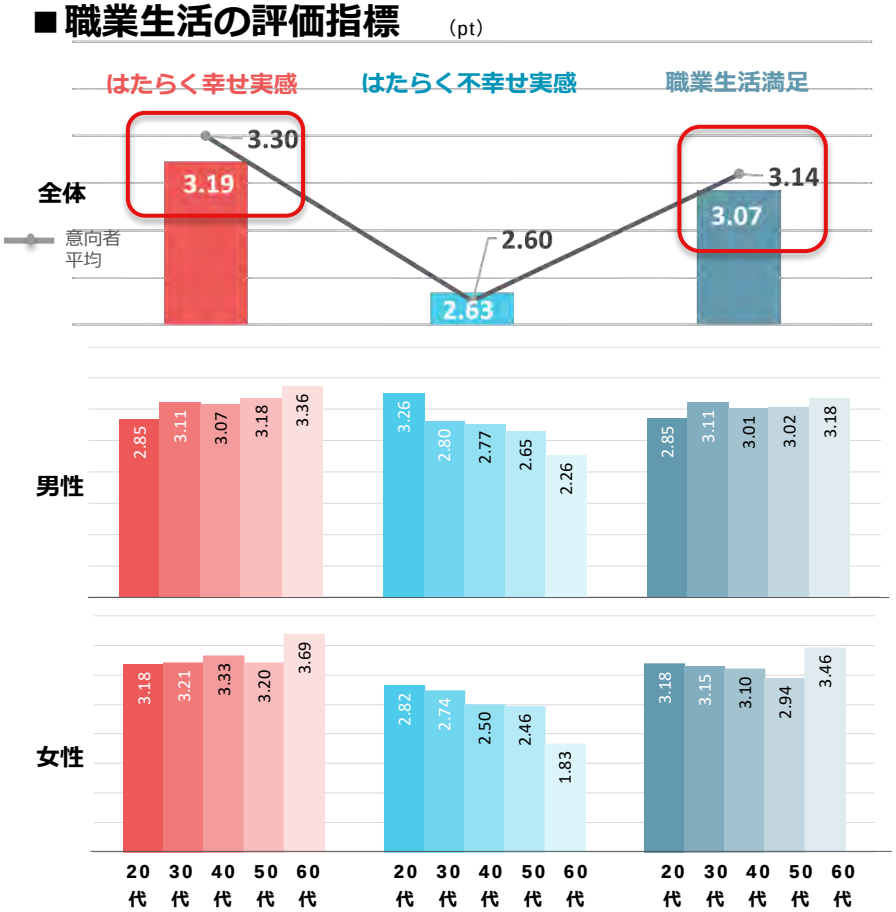
Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	77.8%
Top２	地域の医療体制が整っている	75.4%
Top３	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	73.8%
Top４	穏やかな暮らしを実現することが出来る	73.8%
Top５	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	73.4%
Top６	事前に地域の住まいや生活に関する情報が十分に得られる	69.6%
Top７	地域の防災対策に安心感がある	69.5%
Top８	生活コストを下げられる	69.4%
Top９	移住者に対して、地域住民が支援的である	68.1%
Top10	魅力的な土地を割安で得ることができる（宅地・農地など）	67.1%

パーソル総合研究所 PERSOL

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

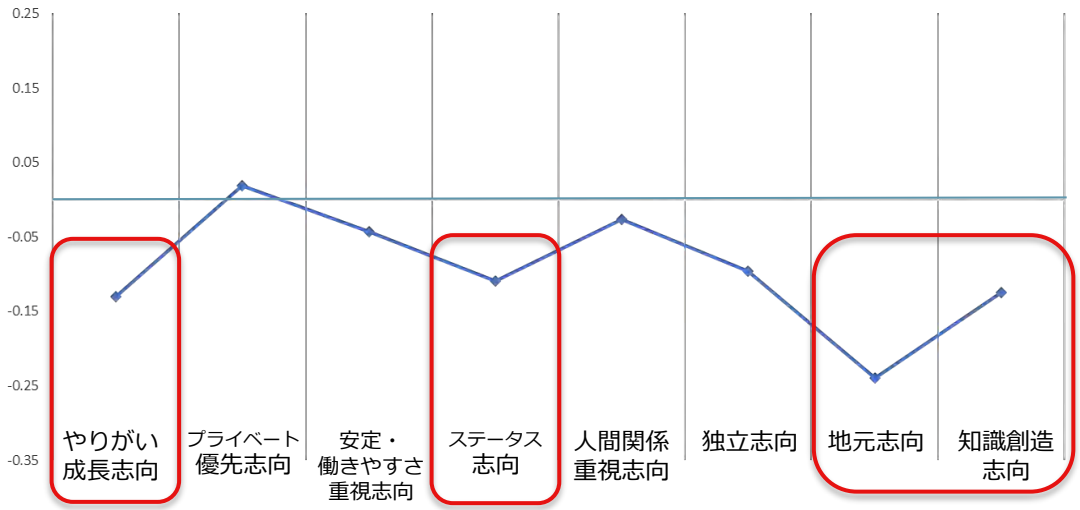
Iターン型移住　意向者（職業生活編）

■職業生活の評価指標



■仕事に対する考え方（キャリア観）

＊意向者平均値差分



■移住に際する年収減額の許容幅

＊「答えたくない」「わからない」回答を除く

	(n)	減収は考えられない	5％程度まで	10%程度まで	20%程度まで	30%程度まで	40%程度まで	50%程度まで	60%程度まで	60%以上も許容
２０代	131	47.3%	27.5%	15.3%	7.6%	0.8%	-	0.8%	-	0.8%
３０代	271	35.8%	19.9%	20.3%	12.9%	6.3%	2.6%	1.8%	-	0.4%
４０代	473	24.9%	20.9%	24.3%	14.0%	8.7%	2.3%	3.6%	0.2%	1.1%
５０代	395	18.2%	14.2%	25.6%	21.8%	10.1%	2.5%	3.8%	1.0%	2.8%
６０代	195	17.4%	17.9%	21.0%	14.4%	11.8%	4.1%	9.7%	-	3.6%
	1465	26.1%	19.1%	22.7%	15.4%	8.3%	2.5%	3.9%	0.3%	1.7%

■経済状況

- 「当面やりくりできる**貯蓄がない**」割合は、全タイプ中で最も多い（35.8%）　＊「貯蓄がある」割合も少ない
- 「将来的に親の年収を**超えられると思えない**」割合は、全タイプ中最も多い（34.4%）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

配偶者地縁型移住　意向者

■意向者の特徴

・男性は30代が最も多く、女性は20代が最も多い（5年以内計画者では、40代女性も多い傾向）

・現在の暮らしの評価が最も高い（幸せ実感3.64pt、住・生活満足3.64pt）

・移住での関心項目では、唯一「都市部へのアクセスがいい」が上位（Top8）に入る

・移住に際する減収許容度が最も低い（「減収は考えられない」回答が31.0%と最も多い）

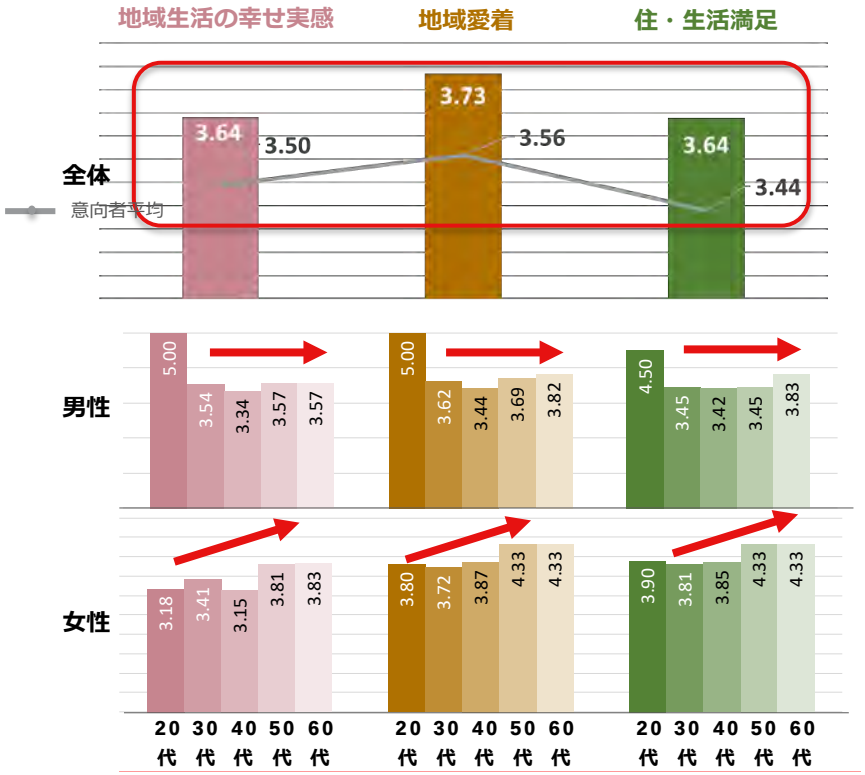
～参考～
・性格的特性：協調性が高く、開放性・勤勉性がやや低い傾向
・キャリア観：プライベート・人間関係志向が高く、地元志向が低い傾向

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 配偶者地縁型移住　意向者（生活編）

	(n)	配偶者地縁型意向者	5年以内	10年以内	時期未定
男性２０代	(40)	5.0%	10.0%	14.3%	―
男性３０代	(276)	13.4%	21.0%	13.8%	10.8%
男性４０代	(621)	9.8%	10.7%	12.2%	9.3%
男性５０代	(622)	9.3%	8.6%	11.8%	8.8%
男性６０代	(407)	6.9%	5.5%	15.6%	6.3%
男性計	(1966)	**9.5%**	10.9%	12.6%	8.5%
女性２０代	(180)	16.7%	19.6%	―	16.2%
女性３０代	(309)	15.2%	15.2%	15.0%	15.2%
女性４０代	(304)	11.2%	18.9%	14.3%	9.6%
女性５０代	(203)	4.4%	12.5%	5.3%	3.6%
女性６０代	(36)	8.3%	―	―	9.7%
女性計	(1032)	**11.9%**	16.9%	8.7%	11.0%
合計	(2998)	**10.3%**	12.8%	12.5%	9.4%

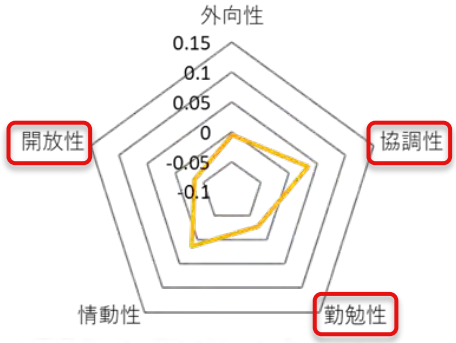
■地域における暮らしの評価指標 (pt)



■移住検討への影響項目（TOP10）

Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	80.9%
Top２	地域の医療体制が整っている	80.6%
Top３	穏やかな暮らしを実現することが出来る	78.3%
Top４	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	77.3%
Top５	事前に地域の住まいや生活に関する情報が十分に得られる	75.4%
Top６	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	73.8%
Top７	移住者に対して、地域住民が支援的である	73.1%
Top８	都市部へのアクセスがいい（通勤・通学、行楽など）	72.8%
Top９	地域の防災対策に安心感がある	71.5%
Top10	地域での豊かな生活を思い描け、期待できる	71.5%

■意向者の性格的特徴 ＊参考値



■人生・生活スタイル

・「理想とする生活スタイル」「人生設計の明確さ」「生活拠点を移してでもやってみたいこと」のいずれも平均的

■居住地へのこだわり

・「多拠点居住への関心」が、全タイプ中で最も少ない（そう思わない：37.6%）
・親、子供世帯との同居意向は、Iターン型に次いで低い（19.8%）

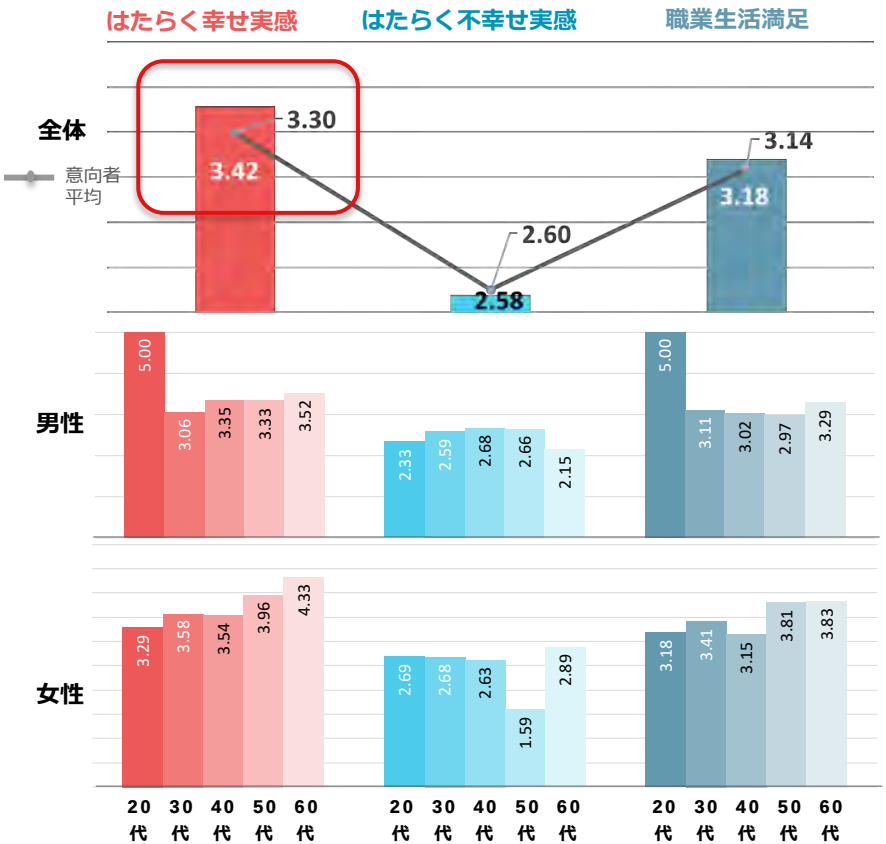
パーソル総合研究所 PERSOL

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

配偶者地縁型移住　意向者（職業生活編）

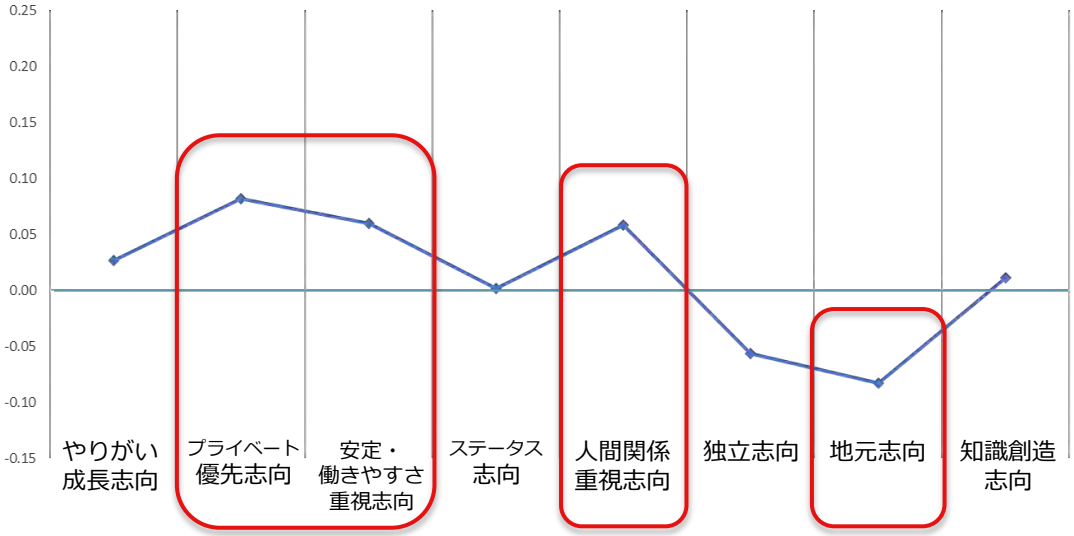
■職業生活の評価指標

（pt）



■仕事に対する考え方（キャリア観）

＊意向者平均値差分



■移住に際する年収減額の許容幅

＊「答えたくない」「わからない」回答を除く

	(n)	減収は考えられない	5%程度まで	10%程度まで	20%程度まで	30%程度まで	40%程度まで	50%程度まで	60%程度まで	60%以上も許容
20代	28	53.6%	25.0%	14.3%	7.1%	-	-	-	-	-
30代	74	39.2%	16.2%	29.7%	8.1%	4.1%	2.7%	-	-	-
40代	79	22.8%	26.6%	17.7%	17.7%	6.3%	2.5%	3.8%	1.3%	1.3%
50代	58	27.6%	10.3%	25.9%	15.5%	12.1%	5.2%	1.7%	-	1.7%
60代	29	17.2%	13.8%	10.3%	20.7%	10.3%	10.3%	13.8%	3.4%	-
	268	31.0%	18.7%	21.6%	13.8%	6.7%	3.7%	3.0%	0.7%	0.7%

■経済状況

- 「当面やりくりできる貯蓄がある」割合は、全タイプ中最も少ない（34.9%）
- 「将来的に親の年収を**超えられると思えない**」割合は、Iターン型に次いで多い（33.3%）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

多拠点居住型移住　意向者

■意向者の特徴

・男女共に30代以降で増加する（男女共に20代、女性60代では意向者が少ない）

・現在の暮らし評価は配偶者地縁型に次いで高い傾向

・ 職業生活の評価が最も高い傾向（はたらく幸せ実感はJターンと同等だが、不幸せ実感がより低い）

・当面やりくりできる貯蓄保有割合が高く（42.7%）、将来の収入見通しはポジティブな傾向

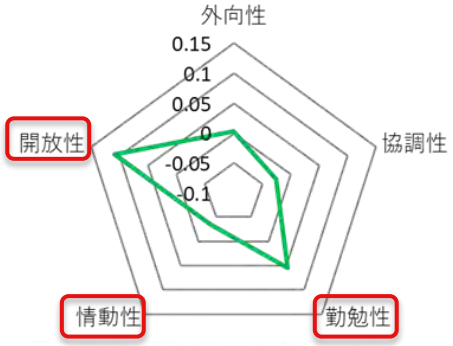
～参考～
・性格的特性：開放性・勤勉性が高く、情動性が低い傾向
・キャリア観：独立志向が高い傾向

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　多拠点居住型移住　意向者（生活編）

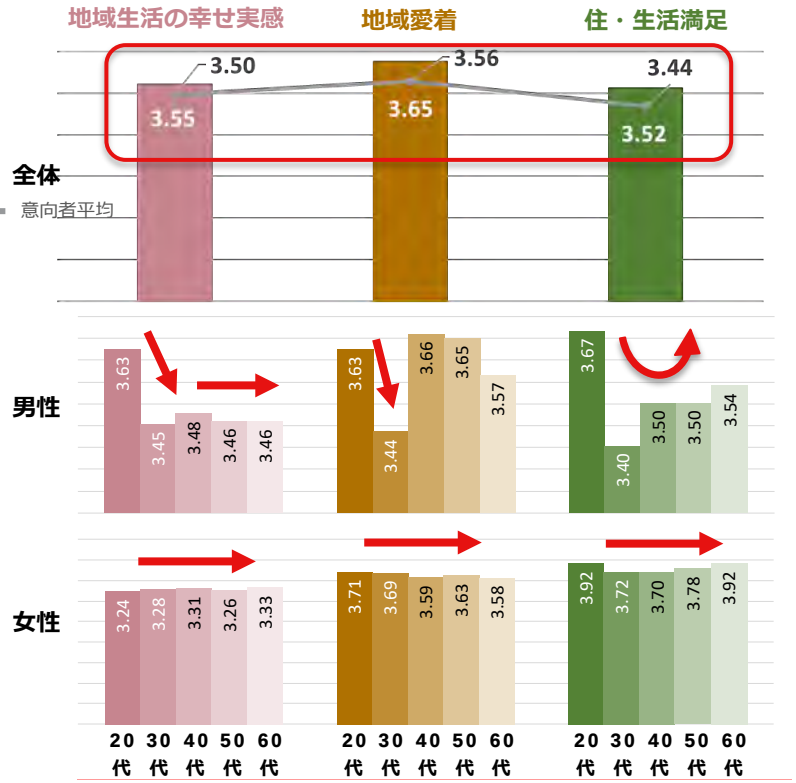
	(n)	多拠点居住型意向者	5年以内	10年以内	時期未定
男性２０代	(40)	20.0%	10.0%	28.6%	21.7%
男性３０代	(276)	42.4%	45.2%	37.9%	42.2%
男性４０代	(621)	40.3%	44.0%	43.9%	39.0%
男性５０代	(622)	40.5%	37.5%	37.0%	42.7%
男性６０代	(407)	44.7%	43.6%	46.9%	44.7%
男性計	(1966)	**41.1%**	40.6%	40.1%	41.5%
女性２０代	(180)	27.2%	34.8%	—	26.1%
女性３０代	(309)	39.8%	45.7%	30.0%	39.5%
女性４０代	(304)	39.8%	40.5%	42.9%	39.3%
女性５０代	(203)	43.3%	43.8%	42.1%	43.5%
女性６０代	(36)	33.3%	—	—	35.5%
女性計	(1032)	**38.1%**	39.9%	28.3%	38.3%
合計	(2998)	**40.1%**	40.4%	38.5%	40.3%

■意向者の性格的特徴　＊参考値



パーソル総合研究所
PERSOL

■地域における暮らしの評価指標（pt）



■人生・生活スタイル

- 「理想とする生活スタイルがある」「人生設計が明確」である割合は、平均的
- 「生活拠点を移してでもやってみたいことがある」割合は、Jターン型に次いで多い。（31.9%）

■居住地へのこだわり

- 「居住地へのこだわらない」割合は、Iターン型、配偶者地縁型に次いで3番目に多い（36.8%）

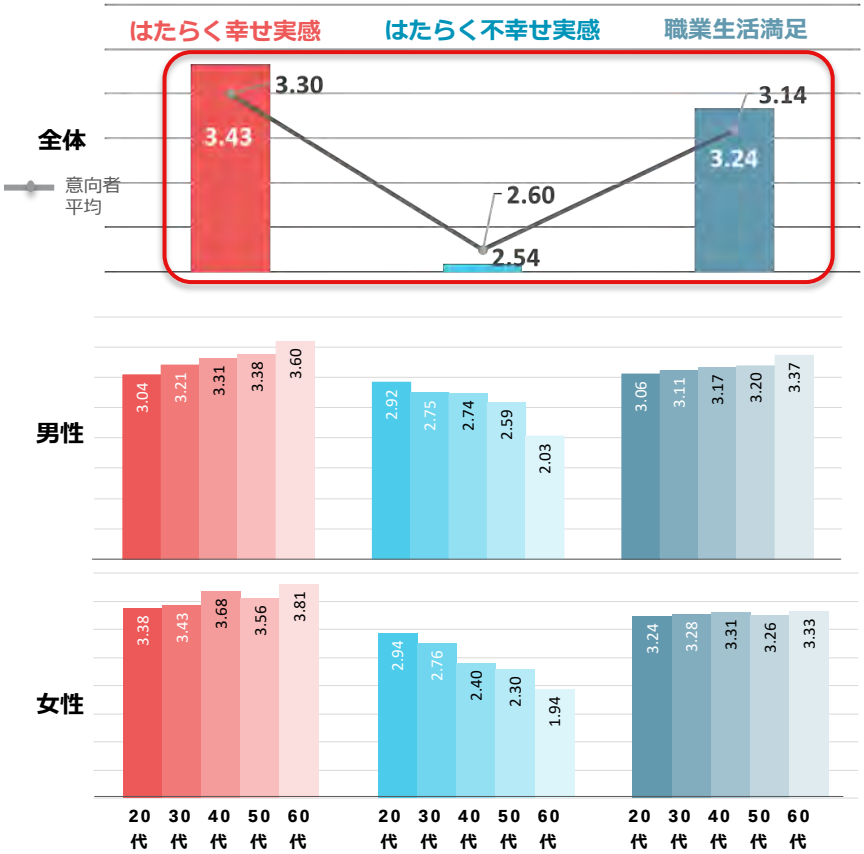
■移住検討への影響項目（TOP10）

Top１	地域での日常的な買い物などで不便がない	78.0%
Top２	地域の医療体制が整っている	78.0%
Top３	街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	76.5%
Top４	穏やかな暮らしを実現することが出来る	74.6%
Top５	十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	74.0%
Top６	事前に地域の住まいや生活に関する情報が十分に得られる	72.8%
Top７	地域の防災対策に安心感がある	72.1%
Top８	移住者に対して、地域住民が支援的である	70.7%
Top９	地産の美味しい食べ物・飲み物が多くある	70.4%
Top10	地域での豊かな生活を思い描け、期待できる	70.1%

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

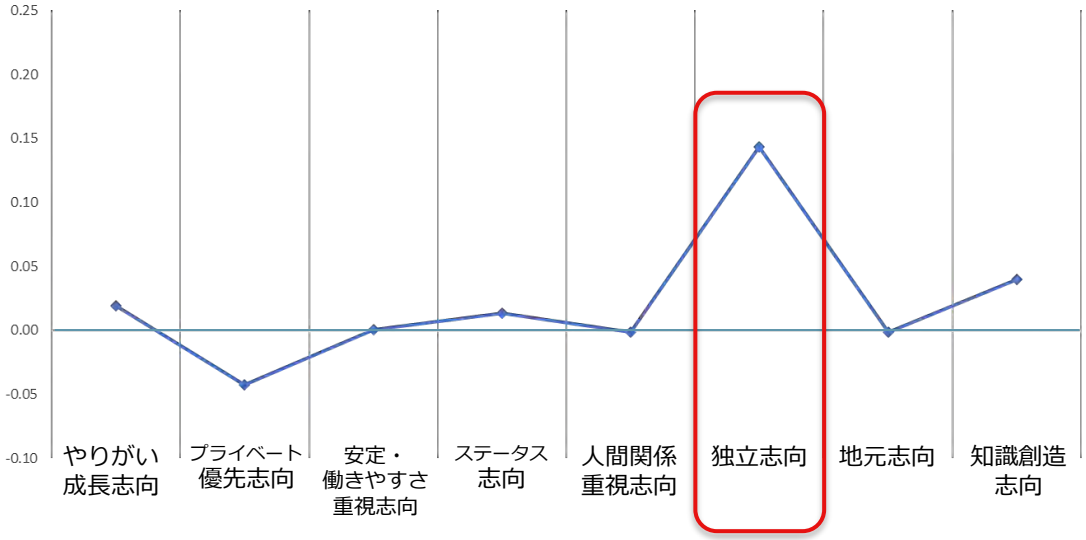
調査結果 多拠点居住型移住　意向者（職業生活編）

■職業生活の評価指標 （pt）



■仕事に対する考え方（キャリア観）

＊意向者平均値差分



■移住に際する年収減額の許容幅

＊「答えたくない」「わからない」回答を除く

	(n)	減収は考えられない	5％程度まで	10%程度まで	20%程度まで	30%程度まで	40%程度まで	50%程度まで	60%程度まで	60%以上も許容
２０代	47	40.4%	14.9%	25.5%	12.8%	2.1%	2.1%	2.1%	-	-
３０代	203	36.5%	21.2%	19.2%	10.3%	6.9%	1.0%	3.4%	-	1.5%
４０代	324	26.9%	24.7%	22.2%	13.6%	7.1%	2.8%	1.9%	0.3%	0.6%
５０代	280	23.2%	12.5%	25.0%	17.1%	11.1%	2.1%	5.0%	0.7%	3.2%
６０代	164	17.1%	12.8%	18.9%	16.5%	16.5%	6.7%	7.9%	1.2%	2.4%
	1018	26.8%	18.3%	22.0%	14.3%	9.4%	2.8%	4.0%	0.5%	1.8%

■経済状況

・当面やりくりできる貯蓄がある割合は、Jターン型に次いで多い（42.7%）
・「将来的に親の年収を超えられると思う」割合は、U・Jターン型に次いで多い（35.9%）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

移住意思決定要因分析

私たちを取り巻く社会は、ネットワークと称されるものに満ちている。ネットワークの分析とは、ある変数とある変数が織りなす関係のパターンを構造的に捉え、記述・分析する方法論である。

ネットワークの構造（メカニズム）を明らかにすることができれば、ある結果に対して原因となる事象をたどることができる。つまり、好ましい結果のために効果的に介入するための観点を明らかにすることなどに応用できる。

本研究は、「ある行為を決定するのは、行為者を取りまく環境要因とその構造に影響される」との立場から、要因構造の可視化を試みたものである。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査概要

調査名称	**パーソル総合研究所「地方移住に関する実態調査」（Phase1）　移住の意思決定要因分析**
調査目的	地方圏へ移住する際の意思決定に影響を与える要因構造の可視化
調査手法	インターネット調査会社パネルを用いたアンケート調査、要因分析ツール「CALC」*による解析
調査時期	2021年3月25日～3月31日
調査対象者	【地方移住経験者】 ●サンプル数 ：移住経験者 1696名　＊5年以内の移住経験者 【内訳】Uターン型 298名、Jターン型 165名、Iターン型 705名、配偶者地縁型 260名、多拠点居住型 268名 ●調査エリア ：日本・47都道府県 ●対象条件　：20代～ 60代の就業者（パート・アルバイト除く）、地方移住経験者 【地方移住意向者】 ●サンプル数 ：移住意向者　670名　＊5年以内の移住計画者 【内訳】Uターン型 98名、Jターン型 61名、Iターン型 257名、配偶者地縁型 61名、多拠点居住型 193名 ●調査エリア ：東京23 区、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、大阪市、京都市、神戸市 ●対象条件　：20代～ 60代の就労者（パート・アルバイト除く）、地方移住検討者
実施主体	株式会社パーソル総合研究所　　【分析協力】 クウジット株式会社

＊CALCはソニー株式会社の登録商標です。
＊CALCは株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所(ソニーCSL)が開発した技術で、株式会社電通国際情報サービス(ISID)、ソニーCSL、クウジットの3社による業務提携に基づき提供されています。

引用について

本調査を引用いただく際は出所を明示してください。出所の記載例：**パーソル総合研究所「地方移住に関する実態調査」（Phase1）**

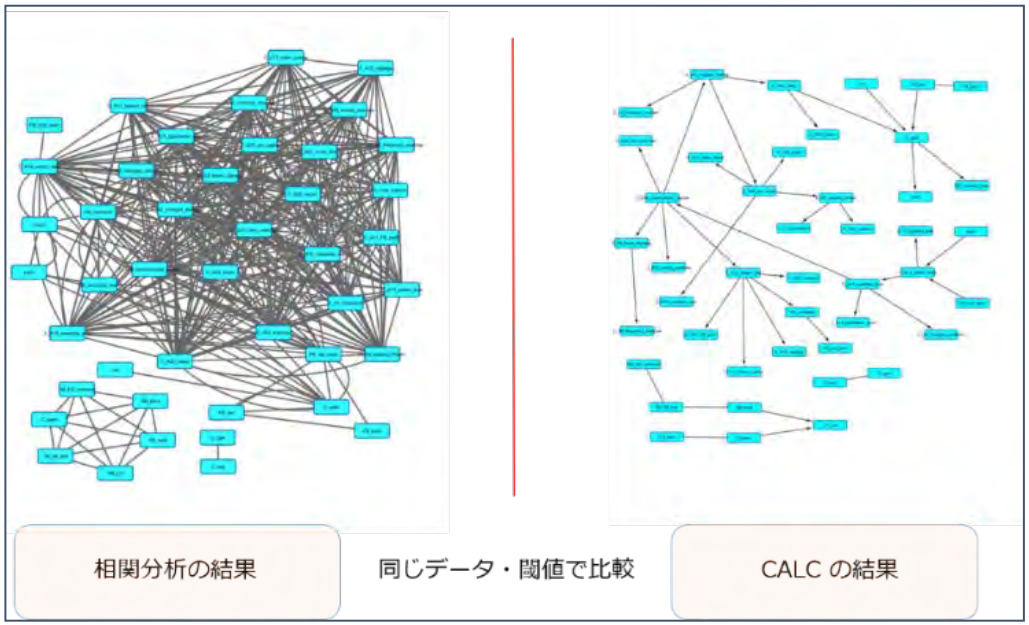
Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

参考資料　要因分析ツール CALC とは

近年、機械学習によるパターン認識の精度は大きく進展し、産業界でも広く用いられるようになっています。識別・分類・予測といった応用領域では、深層学習（ディープラーニング）などのブラックボックス型（システムが何故その結果を出すに至ったのかなどの説明が困難とされる）の手法の有用性が知られています。

一方、データを用いてその背後にある世界を理解したいとの要求に対しては、伝統的な相関や類似性だけでは理解が難しい現象も多々あります。そのため、複雑な要素間ネットワークに対し、**<u>因果モデルを推定する</u>**というアプローチがあります。**「CALC分析*」**は、因果モデルを推定し、介入の観点を示唆する有用な分析アプローチであり、因果推定分析領域において高い評価を得ている手法です。

CALC分析では、**直接的な要因になっていない相関（偽相関）**を推定し、**直接的な要因と推定された相関関係**だけが線として残る関係グラフを出力します。



＊CALCはソニー株式会社の登録商標です。
＊CALCは株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所(ソニーCSL)が開発した技術で、
株式会社電通国際情報サービス(ISID)、ソニーCSL、クウジットの3社による業務提携に基づき提供されています。

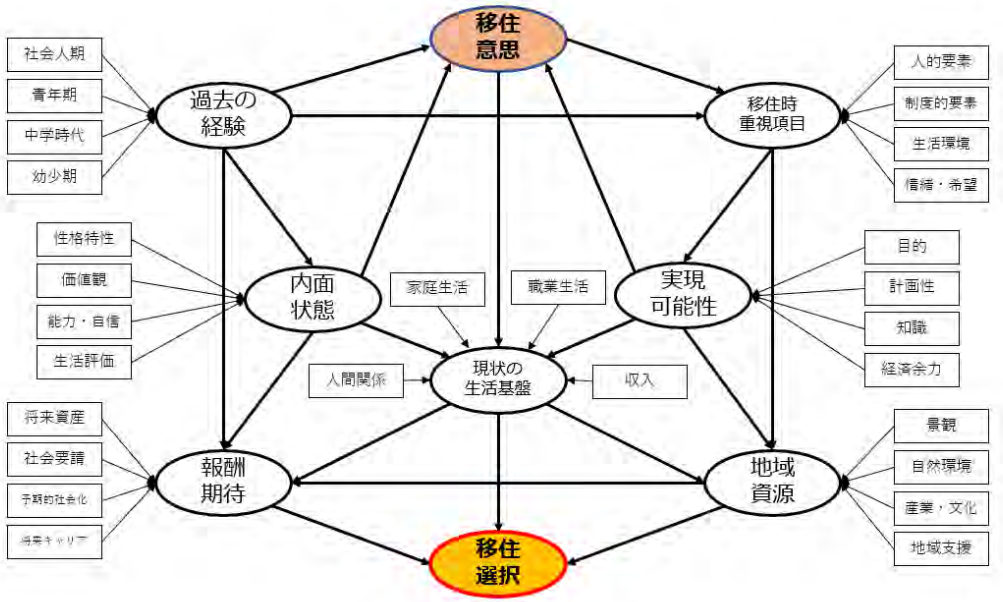
出所：SONY CSL　「PROJECTS　CALC」ホームページより図表等を一部引用
https://www.sonycsl.co.jp/tokyo/7593/　（最終閲覧日：2022年2月20日）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

移住意思決定_仮説モデル・投入変数

人の意思決定には、個々に異なる価値観や性格的特性、思考特性（ファスト思考/スロー思考）、技能、年齢、思い描く生活スタイル、現在の収入・貯蓄、家族や仕事との関係など様々な要素が複雑に介在している。

本研究では、個人を取り巻く状況下における意思決定（行動選択）を、多数の要素への価値計算（重みづけ）と限定的な情報に基づく行動選択と仮定し、以下の仮説モデルを構築して検証を行った。



個人要因

・年齢・性別・性格的特性・出身地・家族構成・親族関係
・収入・世帯収入・現在居住地・居住形態・学歴・未既婚
・子供有無（人数・学齢）・友人関係
・過去の経験（社会人、青年期、中学時代、幼少期）・家庭環境
・学習歴・転職経験・人生設計・キャリア観・理想の生活スタイル
・現在の生活評価（幸/不幸感・地域愛着）・健康状態・雇用形態
・勤続年数・業種・職種・職位・保有能力・その他心的状態

地域要因

■有形資源
・街並み/景観・自然環境・医療体制・防災体制・教育環境・商業施設
・娯楽・産業・ﾗﾝﾄﾞﾏｰｸ・交通インフラ・都市部アクセス等

■無形資源
・歴史/伝統・祭り（イベント）・人的交流機会・地域政治
・行政/移住支援施策・住民への評価・気候・治安・街の印象

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

CALCの考察Point

1．**変数どうしのつながり：**ある変数【A】に直接つながった変数は、変数【A】に直接的に影響を与えている因子と考えられる

この接続状態と変数間の作用関係を調べることで、全体的な関係性をモデルとして解釈できる

2．**直接的な相関量の指標：**数値が大きいほど2つの変数間の関係がより強い

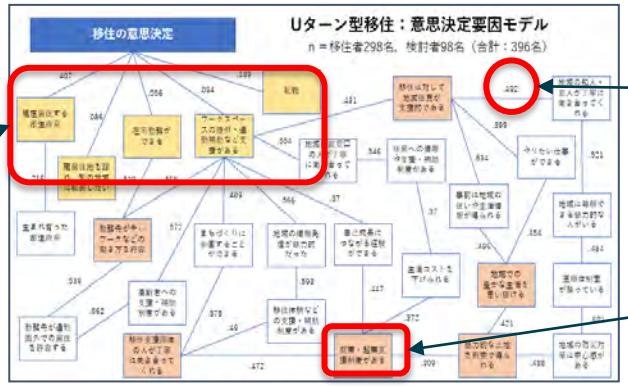
変数間を結ぶ線上の数値：**0.01 で弱い相関、0.1～0.4で相関あり、0.4を超えると強い相関**

＊一般的な線形相関係数（相関係数）とは異なり、負の値はなく、逆に、1を超えることがあり得ます。
＊CALCでは、値の大きな相関関係の線が残るとは限らず、0.01 などの弱い相関であっても直接的要因として推測された線が残ります。
たとえ大きな値でも直接的な要因関係が推定されなかった場合には、その関係を表す線は残りません。

3．**入出力数　：**媒介要因としての重要性を示唆

ある変数を起点にどれほどの変数がつながっているかを考察する観点

1．変数どうしのつながり
（距離・接続状態）



2．直接的な相関量の指標
（数値）

3．入出力数
（数量）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　移住意思決定に影響する要因（概要）

移住タイプ	直接要因*	媒介要因	考察
Uターン型	●　転職 ○　ﾜｰｸｽﾍﾟｰｽの提供・通勤補助など支援がある ●　在宅勤務ができる	・　就業・起業支援がある ・　移住に対して地域住民が支援的である ・　魅力的な土地が割安で得られる	安定収入を確保したうえで、移住後の豊かな生活を思い描くことができるかが影響すると考えられる。
Jターン型	○　ﾜｰｸｽﾍﾟｰｽの提供・通勤補助など支援がある ●　在宅勤務ができる	・　住居への情報や支援・補助制度がある ・　行政や移住支援団体の方が丁寧に向き合ってくれる ・　仲間がいる ・　防災・医療・教育環境が充実している	現在の生活の利便性を損なわず、より豊かな都市生活が送れることを重視していると考えられる。
Iターン型	●　転職 ○　移住に対して地域住民が支援的である	・　勤務先がテレワークを許容する ・　割安な土地、快適な住居に住める ・　尊敬できる魅力的な人がいる ・　地域の情報発信が魅力的 ・　街並みの雰囲気が好みに合っている ・　地域生活情報が事前に入手できる ・　移住支援が丁寧、移住体験・補助制度	新たな地域生活への期待感のみならず、移住体験等で地域生活情報の事前入手し、リスクを低減できることが影響していると考えられる。
配偶者地縁型	○　移住に対して地域住民が支援的である ●　転職 ●　在宅勤務ができる	・　就業・起業支援がある ・　住居への情報や支援・補助制度がある	新たな生活基盤を築くための仕事と住居を確保し、近隣住民との関係性など地域での具体的な生活が思い描けることが影響していると考えられる。
多拠点居住型	・　移住体験など支援や補助がある ●　転職 ●　在宅勤務ができる ・　世帯年収	・　勤務先がテレワークを許容する ・　ﾜｰｸｽﾍﾟｰｽの提供・通勤補助がある ・　魅力的な土地が割安に得られる ・　移住支援団体が丁寧に向き合ってくれる ・　移住に対して地域住民が支援的である	家計において現在の生活水準が維持できる算段がついたうえで、より豊かな生活が送れることを重視していると考えられる。

*直接的な相関を示している要因を以下、「直接要因」と称する
●：４タイプに共通　○：２タイプに共通

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

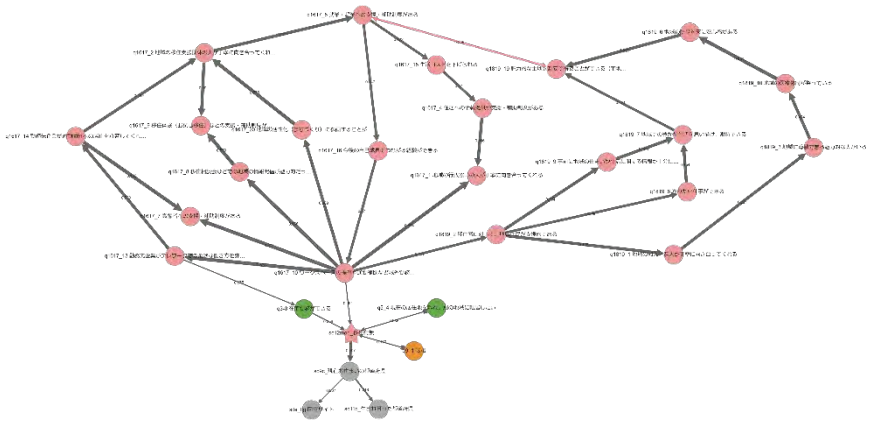
調査結果 移住意思決定要因モデル 【Uターン型】

直接要因*	直接相関量*
現在居住する都道府県	0.407
転職	0.139
ワークスペースの提供・通勤補助などの支援がある	0.094
他の地域に転居したい（転出意向）	0.086
在宅勤務ができる	0.056

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
就業・起業支援制度がある	4
移住に対して地域住民が支援的である	4
勤務先がテレワークなどの働き方を許容してくれる	3
移住支援団体の人が丁寧に向き合ってくれる	3
魅力的な土地を割安で得られる	3
地域での豊かな生活が思い描ける	3

Uターン型移住 意思決定要因モデル



n ＝5年以内移住者298名，5年以内検討者98名（N：396名）

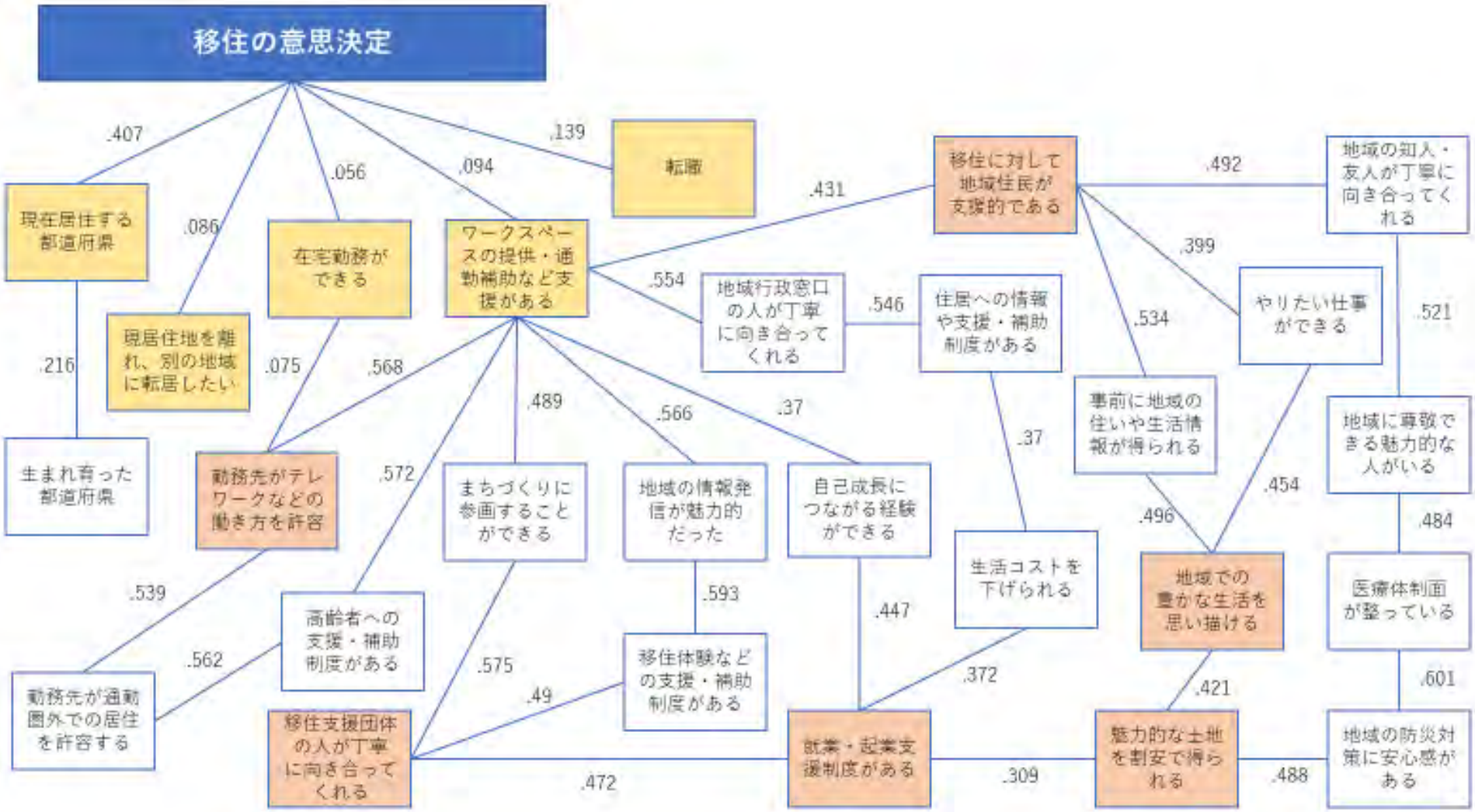
直接要因として特筆すべきは、「転職」、「ワークスペースの提供・通勤補助など支援がある」、「在宅勤務ができる」といった仕事要因であった。
媒介要因では、「就業・起業支援」、「地域住民が支援的である」ことや「魅力的な土地を割安で得られる」などが確認された。

Uターン型移住では、安定した収入が担保されたうえで、地縁ある地域において、人間関係を含めて移住後の豊かな生活を思い描けるかどうかが影響するものと考えられる。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 移住意思決定要因モデル 【Uターン型】

n ＝5年以内移住者298名，5年以内検討者98名（N：396名）



＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

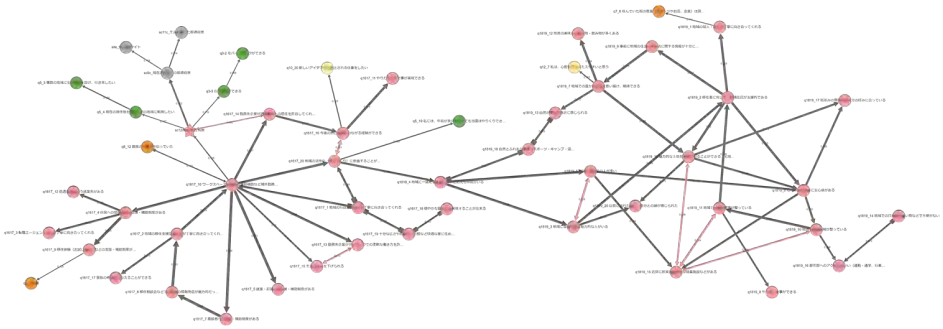
調査結果 移住意思決定要因モデル 【Jターン型】

直接要因*	直接相関量*
現在居住する都道府県	0.402
ワークスペースの提供・通勤補助などの支援がある	0.168
在宅勤務ができる	0.119

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
移住に対して地域住民が支援的である	6
まちづくりに参画することができる	5
住居への情報や支援・補助制度がある	4
一緒に事を成したいと思える仲間がいる	4
医療体制面が整っている	4
移住支援団体の人が丁寧に向き合ってくれる	3
地域行政窓口の人が丁寧に向き合ってくれる	3
地域での豊かな生活が思い描ける	3
地域に尊敬できる魅力的な人がいる	3
地域の防災対策に安心感がある	3
地域での教育環境が整っている	3

Jターン型移住 意思決定要因モデル



n＝5年以内移住者165名，5年以内検討者61名（N：226名）

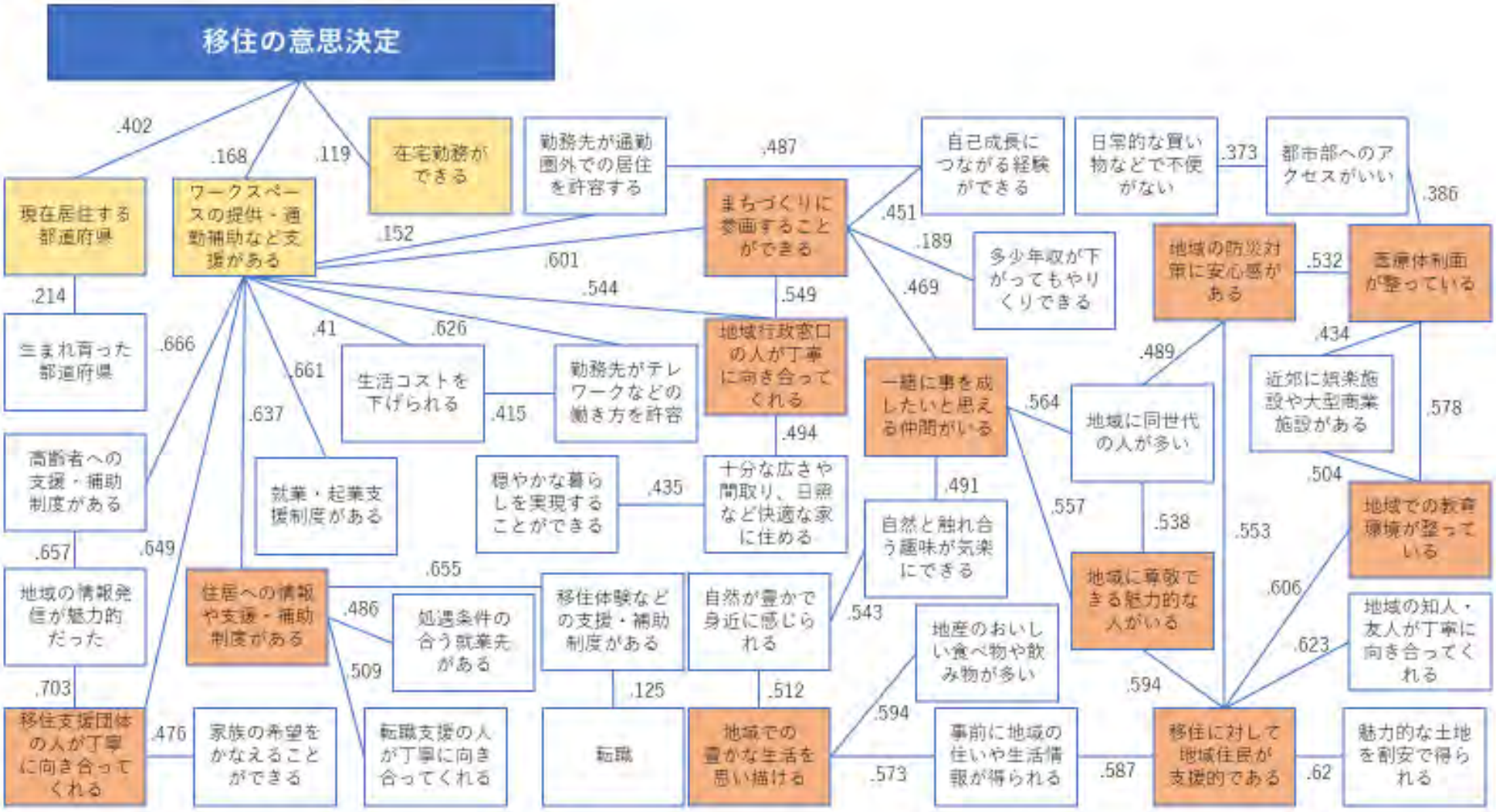
直接要因として特筆すべきは、「ワークスペースの提供・通勤補助など支援がある」、「在宅勤務ができる」といった仕事要因であった。
媒介要因は多様だが、「地域住民が支援的である」ことをはじめ、「住居への情報や支援・補助」、「行政や移住支援団体の支援対応」、「仲間や尊敬できる人」、「防災・医療・教育環境の充実」などが確認された。

Jターン型移住では、現在の生活の利便性を損なうことなく、新たな環境でのより豊かな生活を思い描けることが影響していると考えられる。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　移住意思決定要因モデル　【Jターン型】

n ＝5年以内移住者165名，5年以内検討者61名（N：226名）



＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

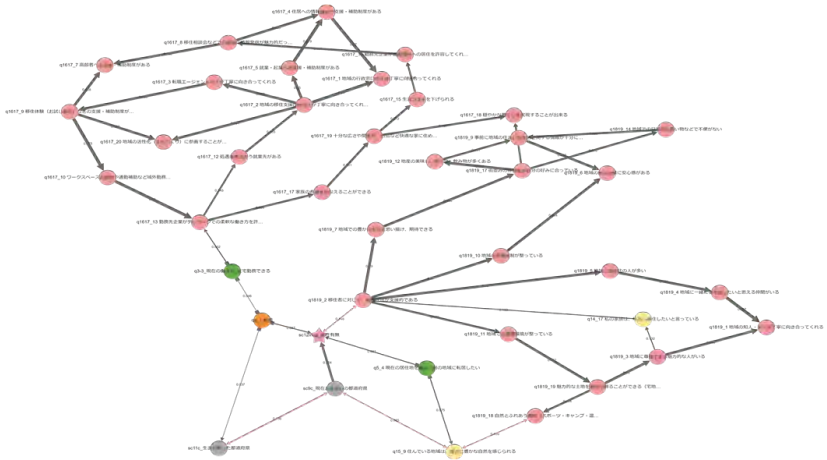
調査結果 移住意思決定要因モデル 【Iターン型】

直接要因*	直接相関量*
転職	0.354
移住に対して地域住民が支援的である	0.146
現在居住する都道府県	0.087

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
勤務先がテレワークなどの働き方を許容してくれる	4
移住支援団体の人が丁寧に向き合ってくれる	4
街並みの雰囲気が好みに合っている	4
地域の情報発信が魅力的だった	4
移住体験などの支援・補助制度がある	4
魅力的な土地を割安で得られる	3
地域に尊敬できる魅力的な人がいる	3
十分な広さや間取り、日照など快適な家に住める	3
事前に地域の住まいや生活情報が得られる	3

Iターン型移住 意思決定要因モデル



n ＝5年以内移住者705名，5年以内検討者257名（N：962名）

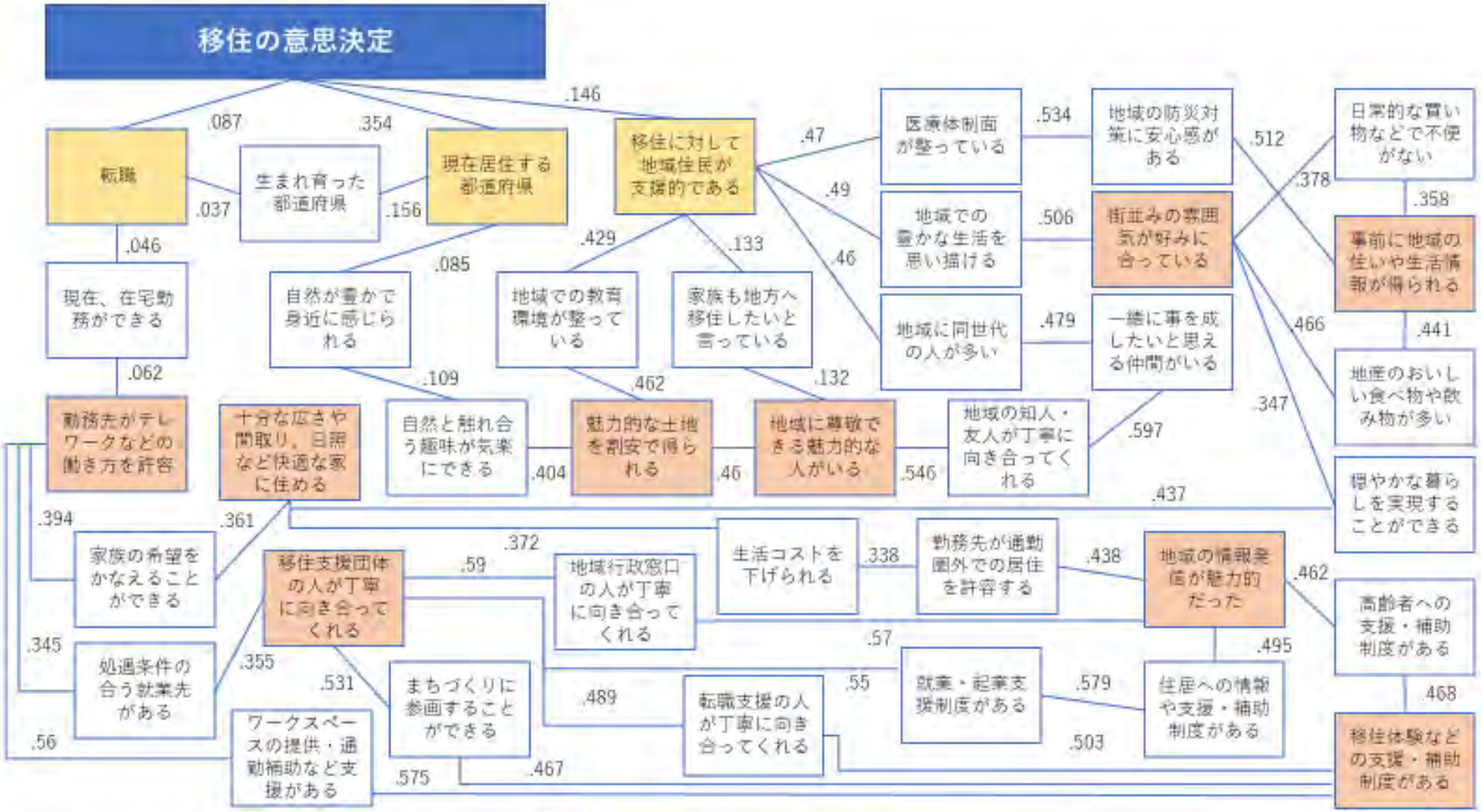
直接要因として特筆すべきは、「移住に対して地域住民が支援的である」ことであった。
その他の媒介要因は多様だが、「勤務先のテレワークの許容」、「快適な住居」、「魅力的な仲間」、「魅力的な地域の情報発信」、「街並みの雰囲気が好み」といった新たな地域生活への期待感と共に「地域生活情報が事前入手できる」、「移住体験・補助制度」などが確認された。

Iターン型移住では、移住に際する具体的なメリットと共に移住後のリスク低減につながる要素が影響していると考えられる。また、地域の雰囲気との相性など曖昧で主観的な要素の影響も特徴的であった。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　移住意思決定要因モデル　【Iターン型】

n ＝5年以内移住者705名，5年以内検討者257名（N：962名）



＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

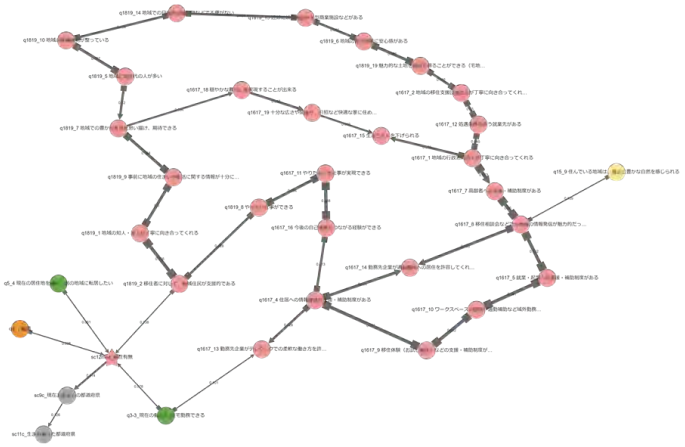
調査結果 移住意思決定要因モデル【配偶者地縁型】

配偶者地縁型移住意思決定要因モデル

直接要因*	直接相関量*
現在居住する都道府県	0.314
移住に対して地域住民が支援的である	0.138
転職	0.980
在宅勤務ができる	0.078
他の地域に転居したい（転出意向）	0.061

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
住居への情報や支援・補助制度がある	4
地域行政窓口の人が丁寧に向き合ってくれる	3
就業・起業支援制度がある	3
地域での豊かな生活が思い描ける	3



n＝5年以内移住者260名，5年以内検討者61名（N：321名）

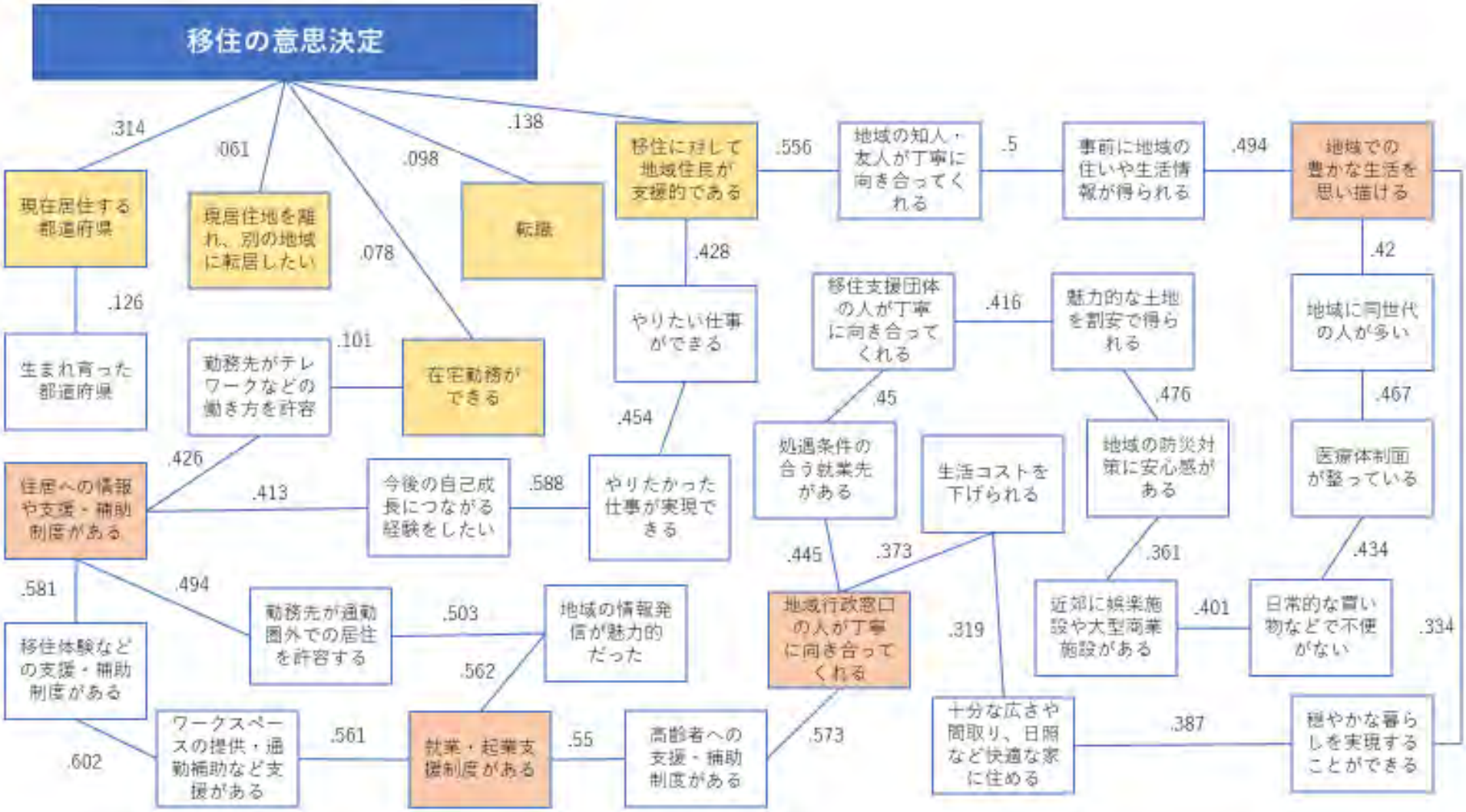
直接要因として特筆すべきは、「転職」、「在宅勤務ができる」といった仕事要因と共に、「移住に対して地域住民が支援的である」ことであった。
媒介要因では、「住居への情報や支援・補助制度」、「行政窓口の支援」、「就業・起業支援」などが確認された。

配偶者地縁型移住では、自身にとっては必ずしも地縁が深くない地域にゆえ、生活基盤を築くための仕事と住居を確保し、かつ、近隣住民との関係など移住後の具体的な生活が思い描けることが影響していると考えられる。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 移住意思決定要因モデル【配偶者地縁型】

n ＝5年以内移住者260名，5年以内検討者61名（N：321名）



＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

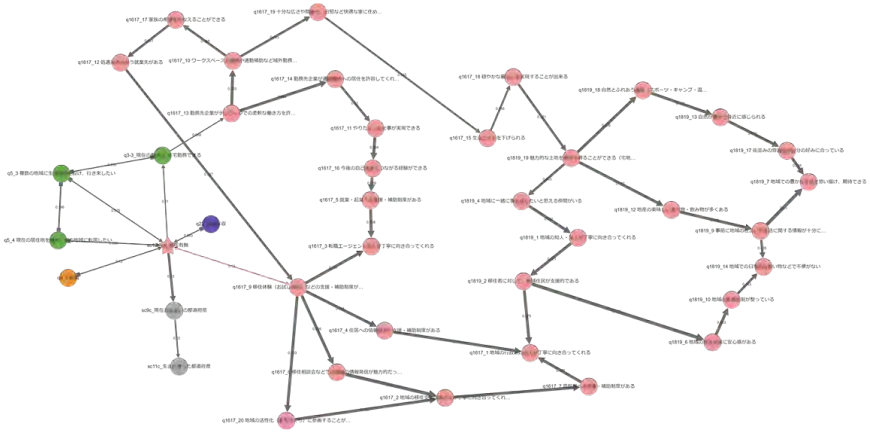
調査結果 移住意思決定要因モデル【多拠点居住型】

直接要因*	直接相関量*
現在居住する都道府県	0.430
移住体験などの支援・補助制度がある	0.130
転職	0.120
在宅勤務ができる	0.110
他の地域に転居したい（転出意向）	0.086
複数の生活拠点を設け、行き来したい	0.076
世帯年収	0.065

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
魅力的な土地を割安で得られる	4
勤務先がテレワークなどの働き方を許容してくれる	3
ワークスペースの提供・通勤補助などの支援がある	3
移住支援団体の人が丁寧に向き合ってくれる	3
事前に地域の住まいや生活情報が得られる	3
移住に対して地域住民が支援的である	3

多拠点居住型移住 意思決定要因モデル



n＝5年以内移住者268名，5年以内検討者193名（N：461名）

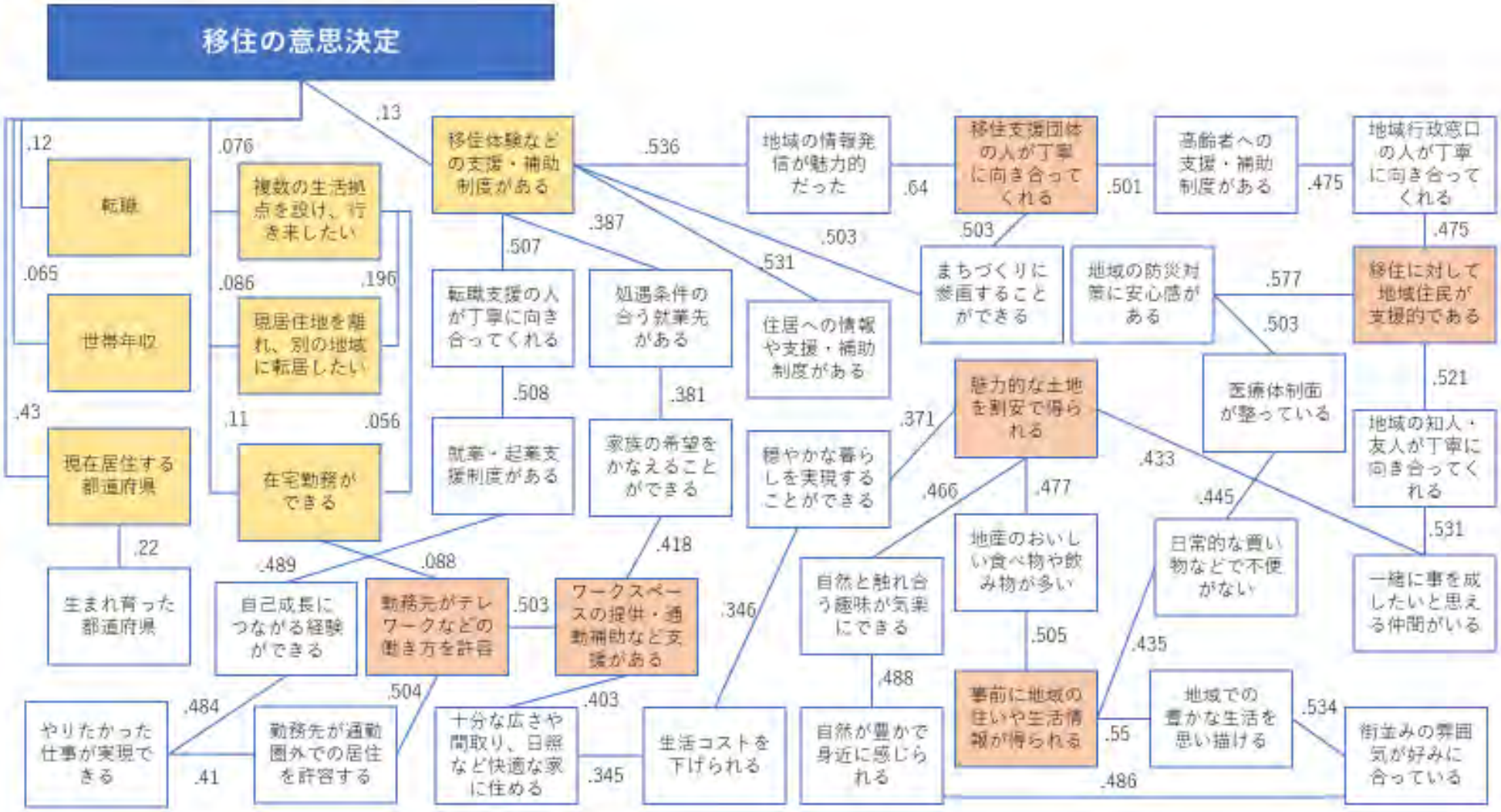
直接要因として特筆すべきは、「転職」、「世帯年収」、「在宅勤務ができる」といった仕事要因と共に「移住体験など支援・補助がある」ことであった。
媒介要因では、「テレワーク許容」、「ワークスペースの提供・通勤補助」、「魅力的で割安な土地」、「移住支援団体の対応」、「地域住民が支援的」などが確認された。

多拠点居住型移住では、現在の仕事を継続するなど経済的に生活を維持できる算段がついており、移住によって獲得できる具体的なメリットがあること。また、きっかけとなる支援的要因が影響していると考えられる。

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 移住意思決定要因モデル【多拠点居住型】

n ＝5年以内移住者268名，5年以内検討者193名（N：461名）



＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

移住者の住・生活満足要因分析

－　県別サンプルを用いた要因構造可視化の試み　－

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査概要

調査名称	**パーソル総合研究所 「地方移住に関する実態調査」（Phase1） 移住者の住・生活満足要因分析**
調査目的	地方圏へ移住した方の住・生活満足度に影響を与える要因構造の可視化
調査手法	インターネット調査会社パネルを用いたアンケート調査、要因分析ツール「CALC」*による解析
調査時期	2021年3月25日～3月31日
調査対象者	【地方移住経験者】 ●対象条件 ：20代～ 60代の就業者（パート・アルバイト除く）、地方移住経験者
実施主体	株式会社パーソル総合研究所 【分析協力】 クウジット株式会社

	移住者（n）	Uターン型	Jターン型	Iターン型	配偶者地縁型	多拠点居住型 （%）
1 **秋田県**	270	30.0	17.4	24.4	15.2	13.0
2 **北関東**（群馬県・栃木県・茨城県）	600	16.8	8.2	39.2	16.3	19.5
3 **長野県**	335	24.8	8.7	37.6	12.2	16.7
4 **新潟県**	100*	30.0	10.0	35.0	8.0	17.0
5 **石川県**	426	19.7	11.5	36.4	18.5	13.8
6 **富山県**	100*	37.0	9.0	27.0	8.0	19.0
7 **京都府**（郊外のみ）	100*	13.1	14.1	40.4	14.1	18.2
8 **広島県**	280	20.7	12.1	35.7	12.5	18.9
9 **熊本県**	270	21.5	11.5	39.6	11.9	15.6
10 **沖縄県**	300	16.3	4.7	52.0	12.0	15.0

* 新潟・富山・京都府は、サンプル数が少ないため参考値として掲載　　*石川県は、いしかわ就職・定住総合サポートセンター（ILAC）の協力のもと回収したデータを統合

＊CALCはソニー株式会社の登録商標です。
＊CALCは株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所(ソニーCSL)が開発した技術で、株式会社電通国際情報サービス(ISID)、ソニーCSL、クウジットの3社による業務提携に基づき提供されています。

引用について

本調査を引用いただく際は出所を明示してください。出所の記載例：**パーソル総合研究所 「地方移住に関する実態調査」（Phase1）**

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

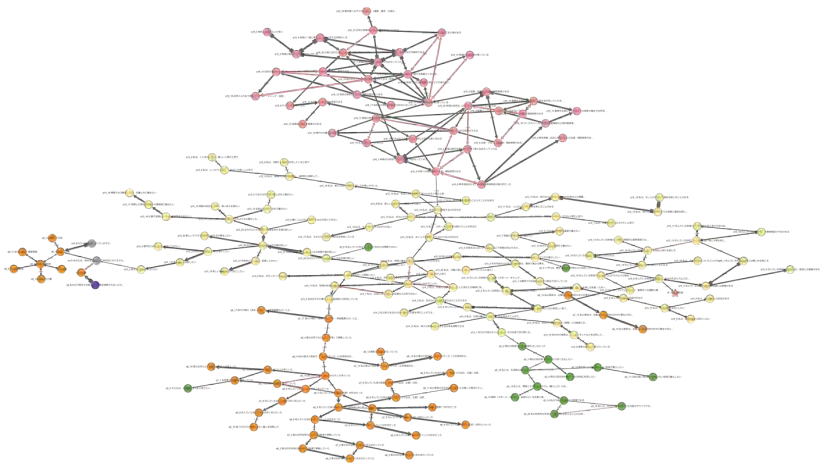
調査結果 住・生活満足度要因モデル【秋田県】

直接要因*	直接相関量*
地域の雰囲気は自分の生活リズムにあっている	0.231
直接要因（第二水準）	**直接相関量***
地域の街並みや景観には愛着がある	0.398
地産のおいしい食べ物や飲み物が多い	0.275
地元・実家に近いところで仕事がしたい	0.193

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
日常の暮らしの中に楽しみを見いだせる	4
地域の情報発信が魅力的だった	4
住居への情報や支援・補助制度がある	4
キャンプや温泉などに出かけるのが好き	3
地元の仲間と一緒に仕事がしてみたい	3
何らかの形で地元に貢献したい	3
自分のアイデアを表に出せる場が欲しい	3
移住支援団体の人が丁寧に向き合ってくれる	3

秋田県＿移住者
住・生活満足要因モデル

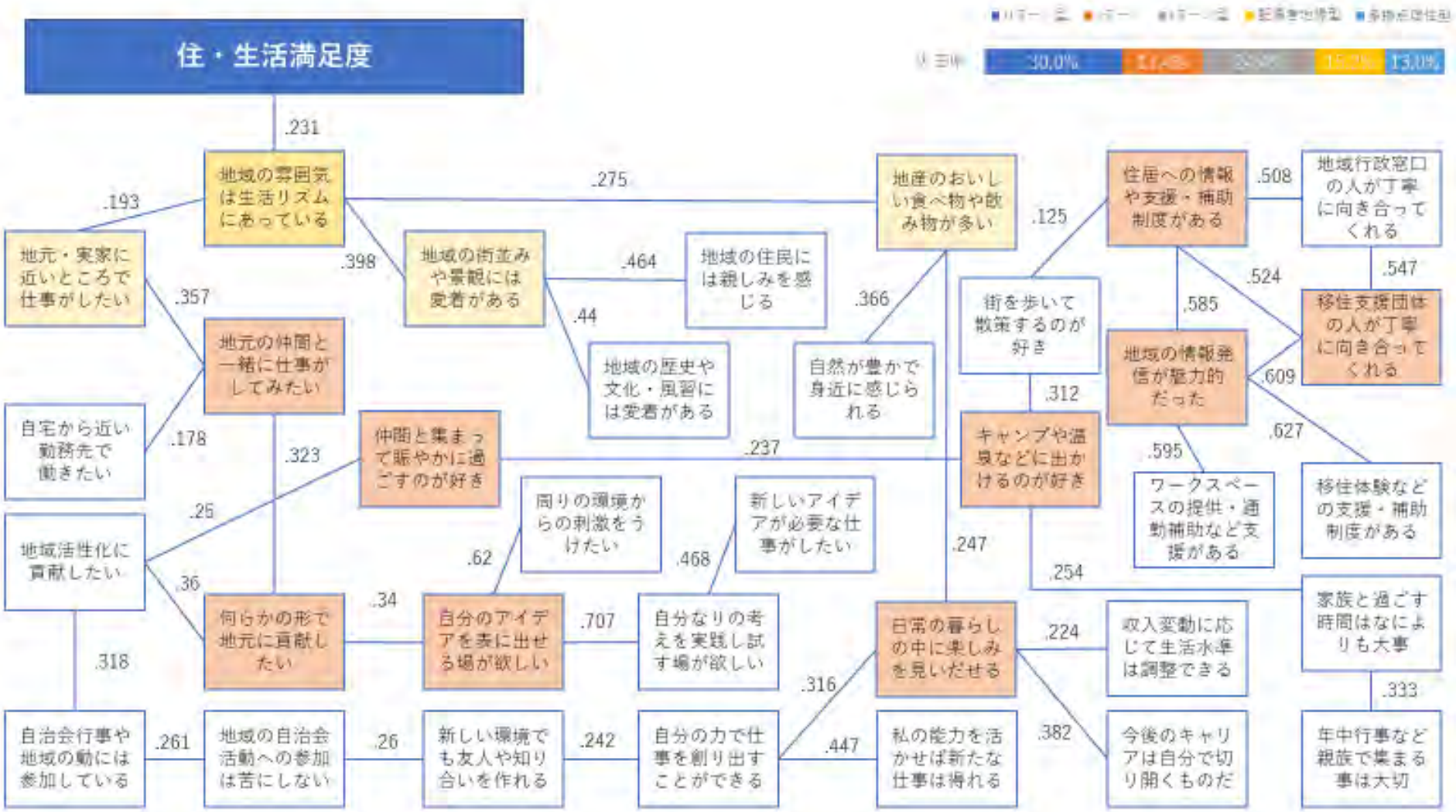


移住者ｎ＝270

・直接要因：「地域の雰囲気は自分の生活リズムにあっている」
・実家や家の近くで、地元の仲間と共に仕事をし、地域に貢献できていると感じられる
・地産のおいしい食べ物を楽しみ、日々の暮らしの中に楽しみを見いだせている
・仲間と集まって、キャンプや温泉に出かけることを楽しんでいる
・自治体や移住支援団体からの地域の情報発信が魅力的だと感じていた

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　住・生活満足度要因モデル【秋田県】



移住者ｎ＝270

＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

＊CALC出力結果より、主要な要因項目を用いて図表化しています

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

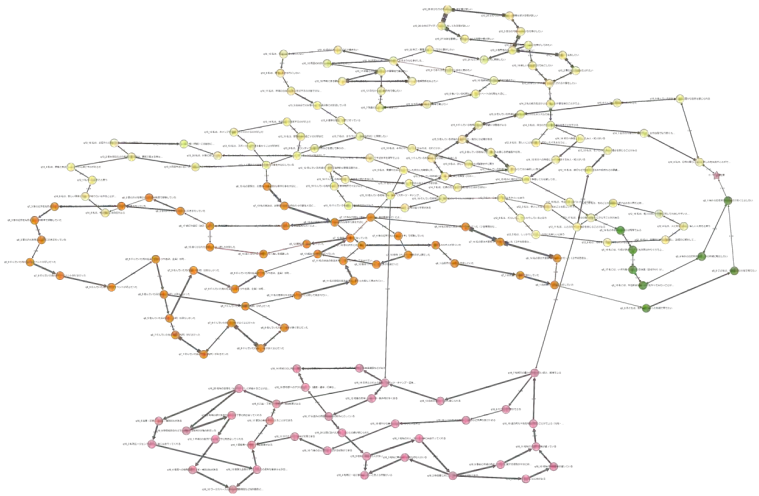
調査結果 住・生活満足度要因モデル【北関東3県】

北関東3県＿移住者
住・生活満足要因モデル

直接要因*	直接相関量*
日常の暮らしの中に楽しみを見いだせる	0.145
直接要因（第二水準）	**直接相関量***
今後のキャリアは自分で切り開くものだと思う	0.255
自然が豊かで身近に感じられる	0.164

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
自分の力で仕事を創り出すことができる	4
新しいアイデアが必要な仕事がしたい	4
地域での豊かな生活を思い描ける	4
地域の歴史や文化・風習には愛着がある	3
見慣れた街のちょっとした変化に気づく	3



移住者ｎ＝600

・直接要因：「日常の暮らしの中に楽しみを見いだせる」
・自然が豊かで身近に感じられ、地域の気候や地域の歴史や文化に愛着がある
・自分のキャリアは自ら切り開き、新たなアイディアが試せるやりたい仕事ができている
・見慣れた街のちょっとした変化にも気づき、日々の暮らしに楽しみを見出せている
・豊かな自然環境の中、快適な家に住み、やりたい仕事をしつつ穏やかな生活を期待していた

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果 住・生活満足度要因モデル 【北関東3県】

＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

＊CALC出力結果より、主要な要因項目を用いて図表化しています

移住者ｎ＝600

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

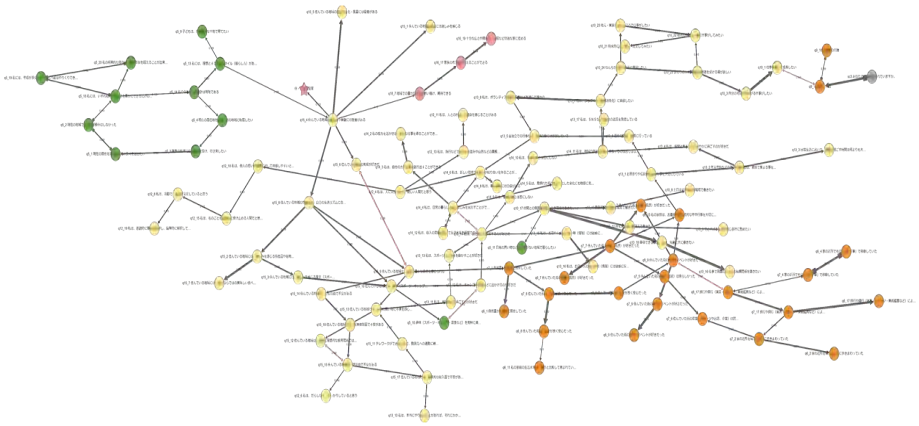
調査結果 住・生活満足度要因モデル【長野県】

直接要因*	直接相関量*
地域の街並みや景観には愛着がある	0.163
直接要因（第二水準）	**直接相関量***
地域の歴史や文化・風習には愛着がある	0.488
地域の雰囲気は自分の生活リズムにあっている	0.378
地域の住民には親しみを感じる	0.334
地域の気候が好きだ	0.283
地域での豊かな生活を思い描ける	0.150
理想の生活スタイルがある	0.128

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
街を歩いて散策するのが好き	4
地域には親しみを感じる特産品がある	3
地域では、趣味が気楽に楽しめる	3
自然が豊かで身近に感じられる	3
日常の暮らしの中に楽しみを見いだせる	3
地域の自治会活動への参加は苦にしない	3

長野県＿移住者
住・生活満足要因モデル

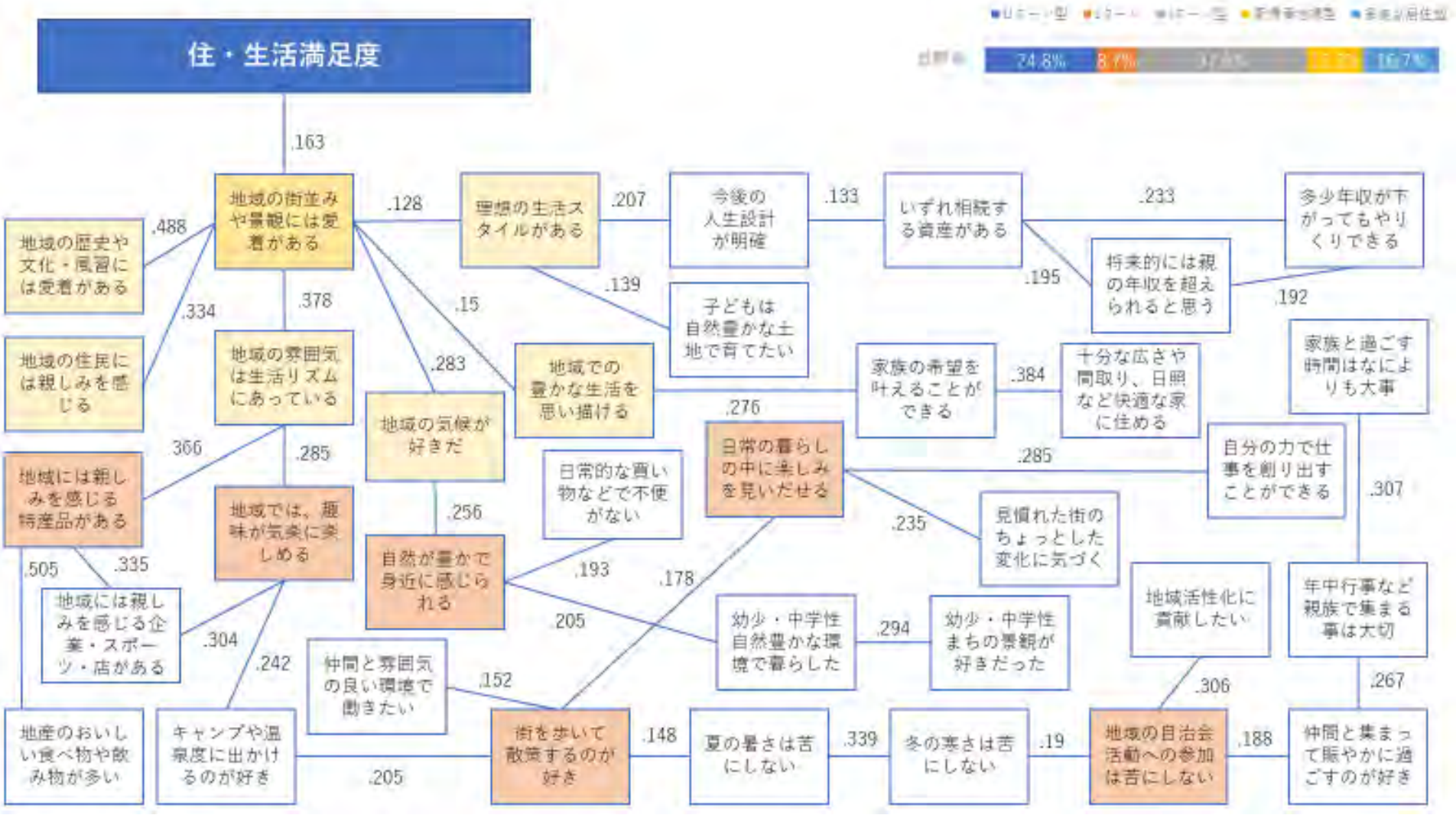


移住者ｎ＝335

・直接要因：「地域の街並みや景観には愛着がある」
・自分なりの生活スタイルや人生設計が明確である
・地域の生活リズムが自分に合っていると感じている
・地域の歴史や文化風習、特産品、気候などに愛着を持っている
・街を散策し、自治体活動を苦にせず、日常の中に楽しみを見出せている

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　住・生活満足度要因モデル【長野県】



移住者ｎ＝335

＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

＊CALC出力結果より、主要な要因項目を用いて図表化しています

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

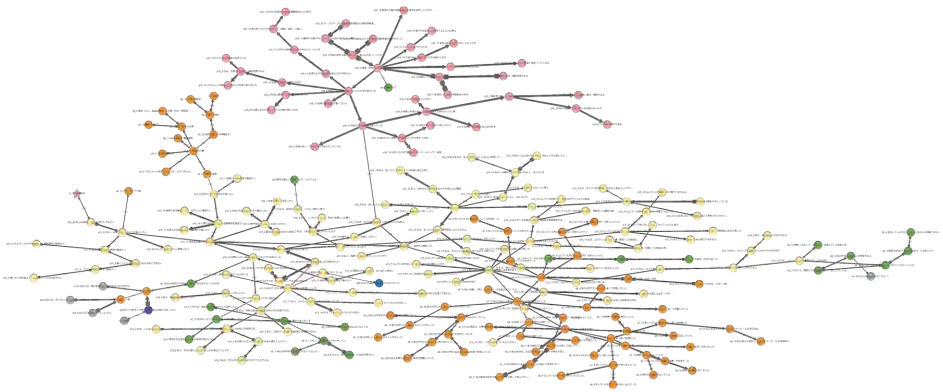
調査結果 住・生活満足度要因モデル【新潟県】

新潟県＿移住者
住・生活満足要因モデル

直接要因*	直接相関量*
地元の仲間と一緒に仕事がしてみたい	0.237
直接要因（第二水準）	**直接相関量***
地元・実家に近いところで仕事がしたい	0.053

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
地域の街並みや景観には愛着がある	7
知識を蓄えたり、考えをまとめる時間や場所が欲しい	6
勤務時間が柔軟な職場で働きたい	3
専門性の高いスキルを身につけたい	3

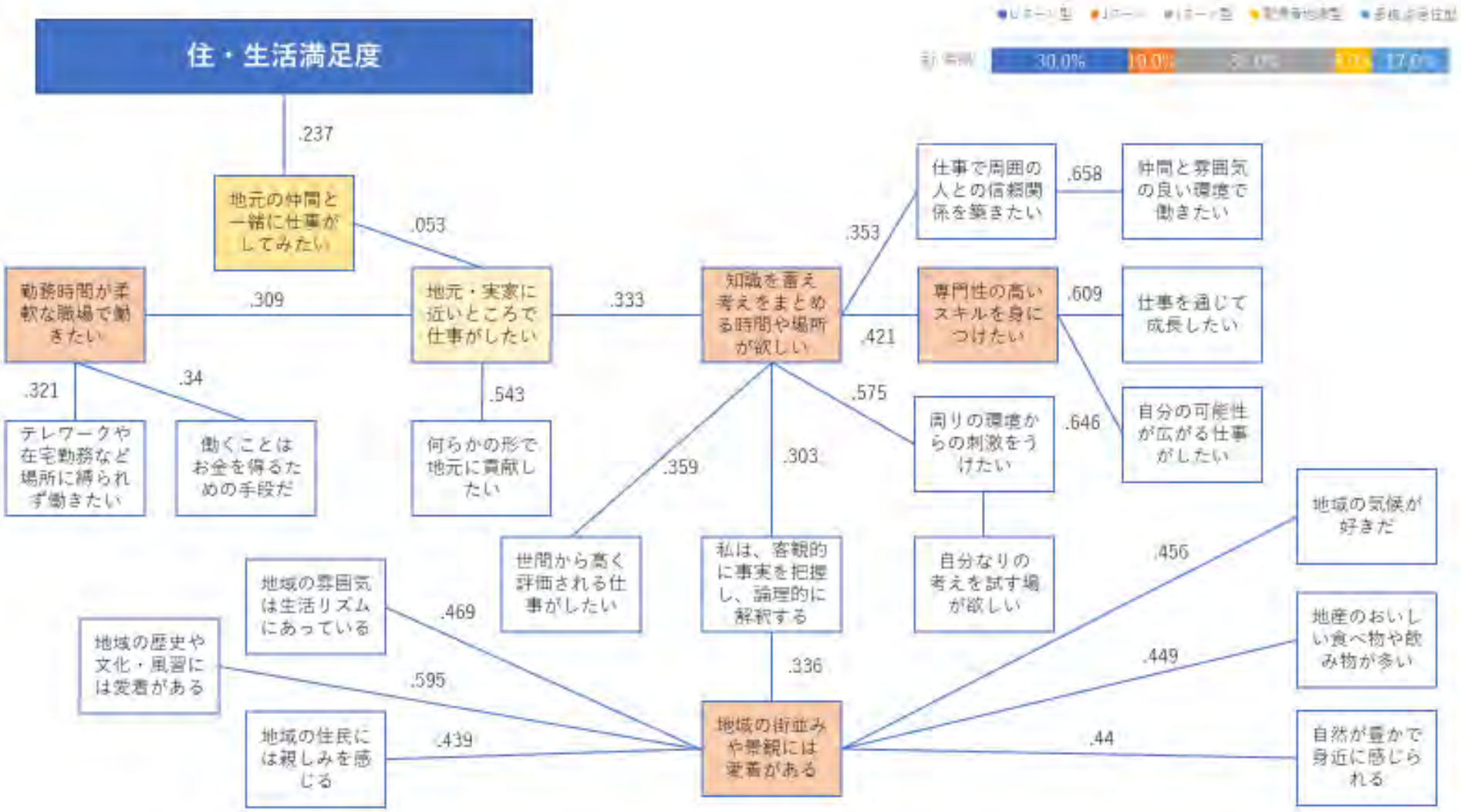


移住者ｎ＝１００　＊サンプル数が少ないため参考まで

・直接要因：「地元の仲間と一緒に仕事がしてみたい」
・実家や家の近くで仕事ができ、勤務時間などが柔軟な働き方ができている
・新しい知識や専門性の高いスキルが獲得でき、発揮する場がある
・地域の街並みや景観、気候、文化風習、食べ物などに愛着が抱けている

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　住・生活満足度要因モデル【新潟県】



移住者ｎ＝１００

＊サンプル数が少ないため参考まで

＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

＊CALC出力結果より、主要な要因項目を用いて図表化しています

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

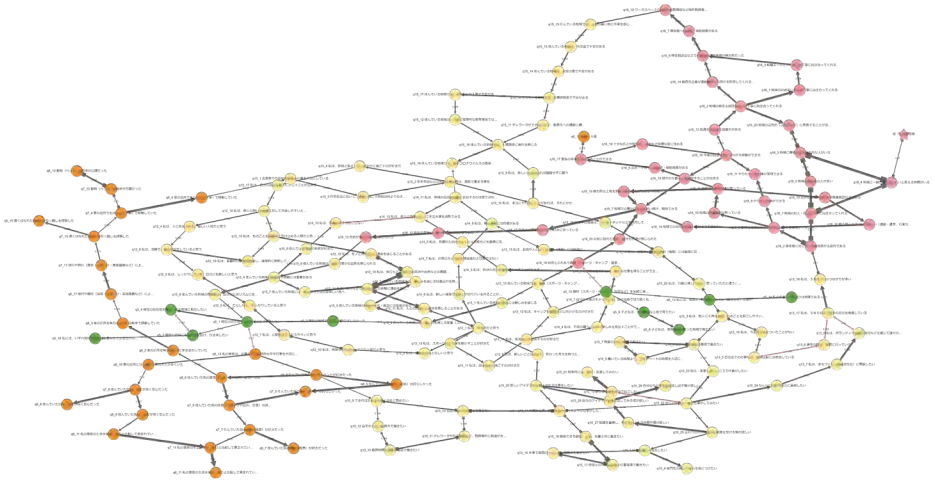
調査結果 住・生活満足度要因モデル【石川県】

石川県＿移住者
住・生活満足要因モデル

直接要因*	直接相関量*
一緒に事を成したいと思える仲間がいる	0.070
直接要因（第二水準）	**直接相関量***
地域に尊敬できる魅力的な人がいる	0.669
地域の知人・友人が丁寧に向き合ってくれる	0.574

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
事前に地域の住いや生活情報が得られる	5
地域での豊かな生活を思い描ける	5
移住支援団体の人が丁寧に向き合ってくれる	4
自己成長につながる経験ができる	4
地域での教育環境が整っている	4



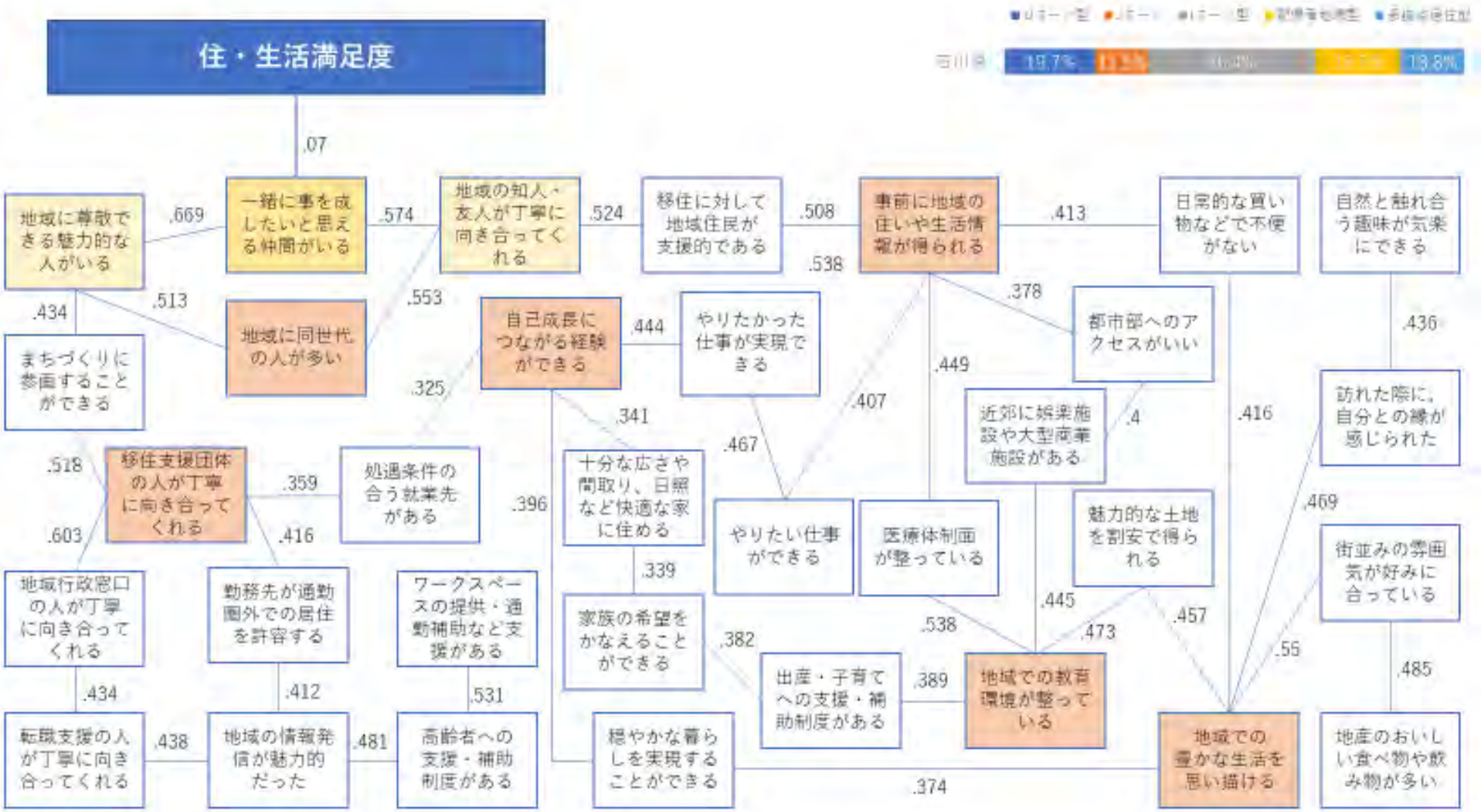
移住者ｎ＝426

＊調査協力：ILAC石川県

・直接要因：「一緒に事を成したいと思える仲間がいる」
・地域には尊敬できる魅力的な人や同世代の人が多い
・移住に際して、支援団体や地域の知人らが丁寧に向き合ってくれた
・遠隔地居住など柔軟な勤務や、処遇条件のいい仕事を通じて、自己成長ができている
・移住前に地域の生活情報が多く得られており、都市部や大規模商業施設へアクセスしやすい

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　住・生活満足度要因モデル【石川県】



移住者ｎ＝426

調査協力：ILAC石川県

＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

＊CALC出力結果より、主要な要因項目を用いて図表化しています

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

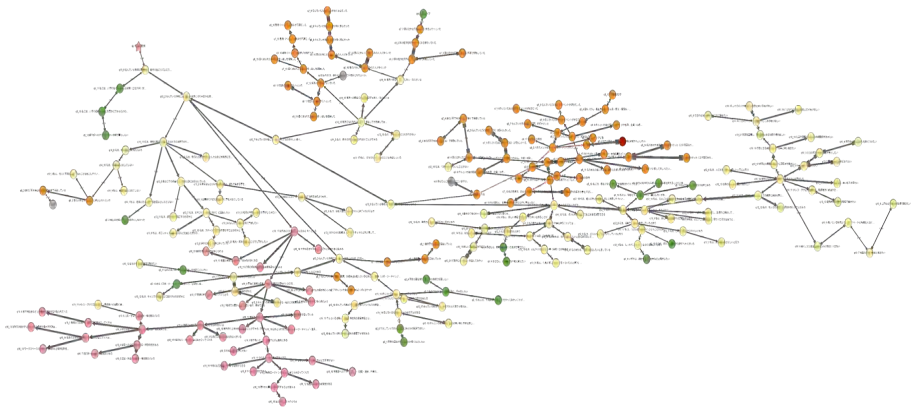
調査結果 住・生活満足度要因モデル【富山県】

直接要因*	直接相関量*
地域の雰囲気は自分の生活リズムにあっている	0.245
直接要因（第二水準）	**直接相関量***
地域には親しみを感じる特産品がある	0.447
いずれ継ぐことになる家業がある	0.272

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
事前に地域の住いや生活情報が得られる	6
地域の自治会活動への参加は苦にしない	5
移住体験などの支援・補助制度がある	5
街並みの雰囲気が自分の好みに合っている	5
一緒に事を成したいと思える仲間がいる	4
地域での教育環境が整っている	4
地元ならではのおいしい飲食物がある	3
勤務先が通勤圏外での居住を許容してくれる	3

富山県＿移住者
住・生活満足要因モデル

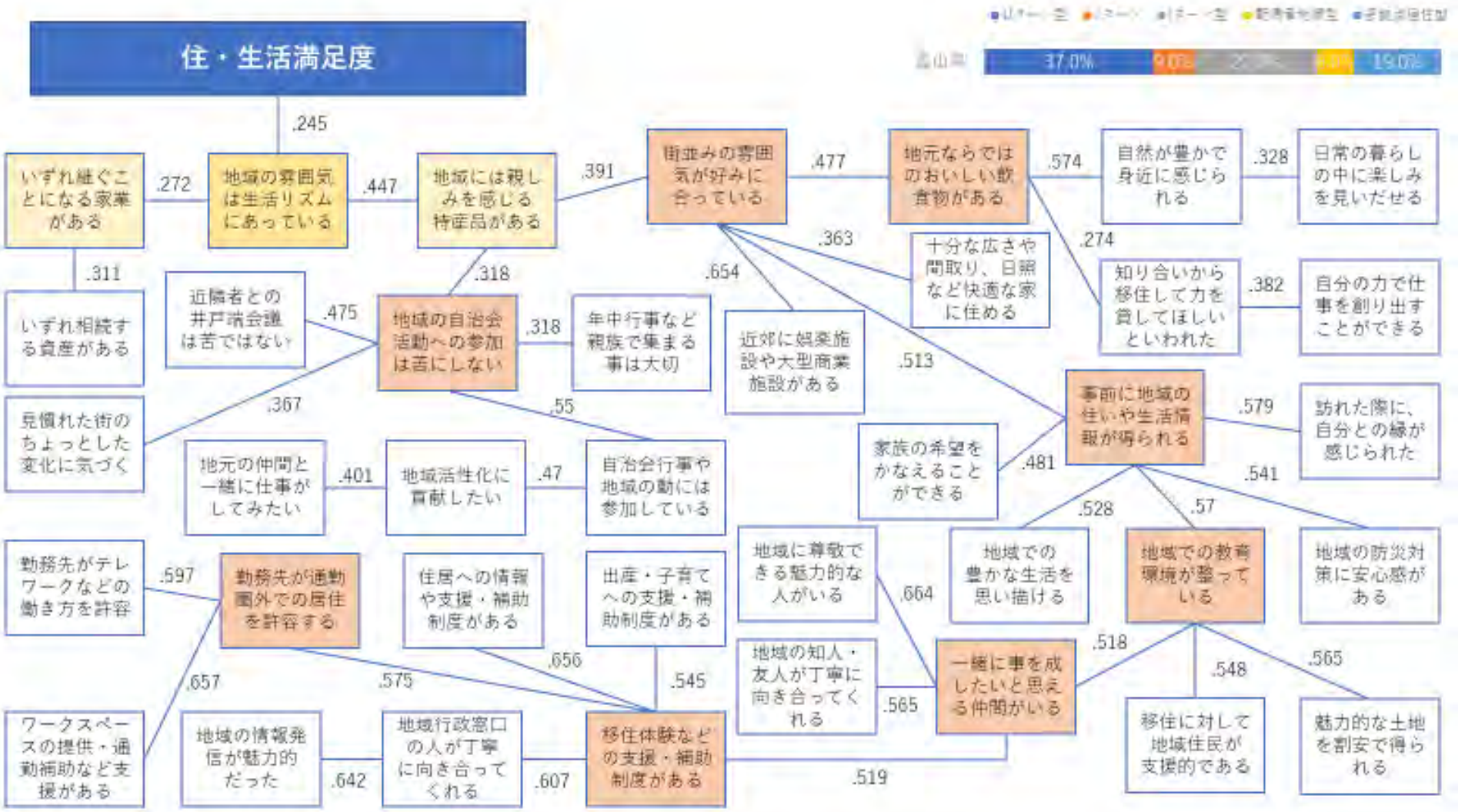


移住者ｎ＝100　**＊サンプル数が少ないため参考まで**

・直接要因：「地域の雰囲気は自分の生活リズムにあっている」
・地域に親しみを抱く特産品があり、街並みの雰囲気が自分の好みに合っている
・自治会などご近所づきあいを苦にせず、地産のおいしい食べ物を楽しんでいる
・事前に地域の情報を得られていて、地域の教育環境に納得している
・地域に一緒に事を成したいと思える仲間がいて、会社も柔軟な勤務を許容してくれている

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　住・生活満足度要因モデル【富山県】



移住者ｎ＝１００

＊サンプル数が少ないため参考まで

＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

＊CALC出力結果より、主要な要因項目を用いて図表化しています

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

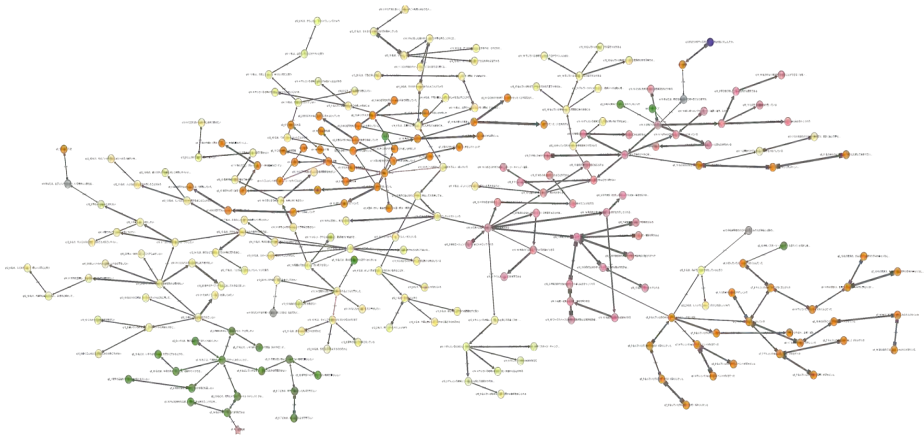
調査結果 住・生活満足度要因モデル 【京都府】＊郊外

直接要因*	直接相関量*
今後の人生設計は明確である	0.238
直接要因（第二水準）	**直接相関量***
理想の生活スタイルがある	0.354
将来的には親の年収を超えられると思う	0.278

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
住居への情報や支援・補助制度がある	7
事前に地域の住いや生活情報が得られる	5
生活拠点を移してでもやりたいことがある	3
複数の生活拠点を行き来したい	3
新しい事業を自分で起こしたい	3
周りの環境からの刺激をうけたい	3
地産のおいしい食べ物や飲み物が多い	3
地域行政窓口の人が丁寧に向き合ってくれる	3

京都府＊郊外＿移住者 住・生活満足要因モデル



移住者ｎ＝100　＊サンプル数が少ないため参考まで

・直接要因：「今後の人生設計が明確」
・人生設計や生活スタイルが確立されており、一定の経済的余裕がある
・生活拠点を移してでもやりたいことがあり、新しいことを自ら創出するバイタリティがある
・事前に生活情報が得られており、住居への補助など行政窓口が丁寧に寄り添ってくれた
・勤務先が多様な働き方を許容し、地域での趣味や食べ物を楽しめている

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　住・生活満足度要因モデル【京都府】＊郊外

移住者ｎ＝１００

＊サンプル数が少ないため参考まで

＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

＊CALC出力結果より、主要な要因項目を用いて図表化しています

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

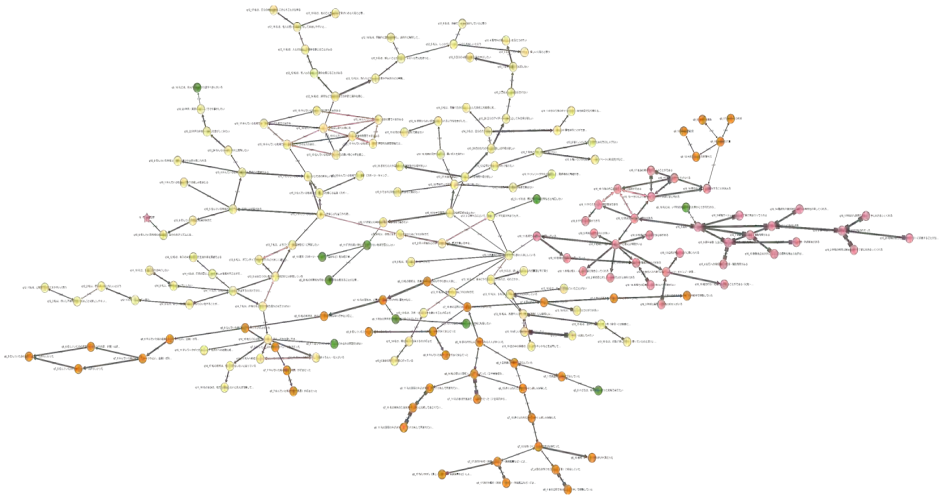
調査結果 住・生活満足度要因モデル【広島県】

直接要因*	直接相関量*
地域の雰囲気は自分の生活リズムにあっている	0.156
直接要因（第二水準）	**直接相関量***
地域の気候が好きだ	0.370

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
一緒に事を成したいと思える仲間がいる	8
地域の街並みや景観には愛着がある	4
地域の歴史や文化・風習には愛着がある	4
自然と触れ合う趣味が気楽にできる	4
就業・起業支援制度がある	4
処遇条件の合う就業先がある	4
地域には親しみを感じる特産品がある	3
地域には親しみを感じる企業・スポーツ・店がある	3
年中行事など親族で集まる事は大切にしている	3
地域での教育環境が整っている	3
近郊に娯楽施設や大型商業施設がある	3

広島県＿移住者
住・生活満足要因モデル



移住者ｎ＝280

・直接要因：「地域の雰囲気は自分の生活リズムにあっている」
・地域の気候や歴史・文化・伝統、街並み、特産品、スポーツなどに愛着がある
・年中行事やお墓参りなどをおろそかにせず、家族と過ごす時間を大切にしている
・一緒に事を成したい仲間がおり、条件のいい就業先がある
・近くにある大型商業施設とともに、豊かな自然に触れる趣味をも楽しめている

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　住・生活満足度要因モデル【広島県】

移住者ｎ＝280

＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

＊CALC出力結果より、主要な要因項目を用いて図表化しています

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

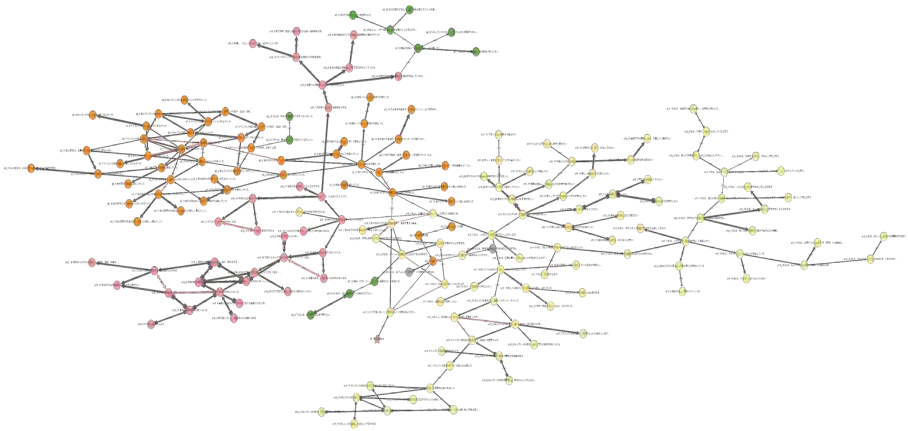
調査結果 住・生活満足度要因モデル【熊本県】

直接要因*	直接相関量*
家族と過ごす時間はなによりも大事にしている	0.177
直接要因（第二水準）	**直接相関量***
年中行事など親族で集まる事は大切にしている	0.337
部屋の中で過ごすのが好き	0.157

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
知り合いから移住して力を貸してほしいといわれた	5
キャンプや温泉度に出かけるのが好き	4
自分の力で仕事を創り出すことができる	4
地域の歴史や文化・風習には愛着がある	4
穏やかな暮らしを実現することができる	3
見慣れた街のちょっとした変化に気づく	3
地域では、趣味が気楽に楽しめる	3

熊本県＿移住者
住・生活満足要因モデル

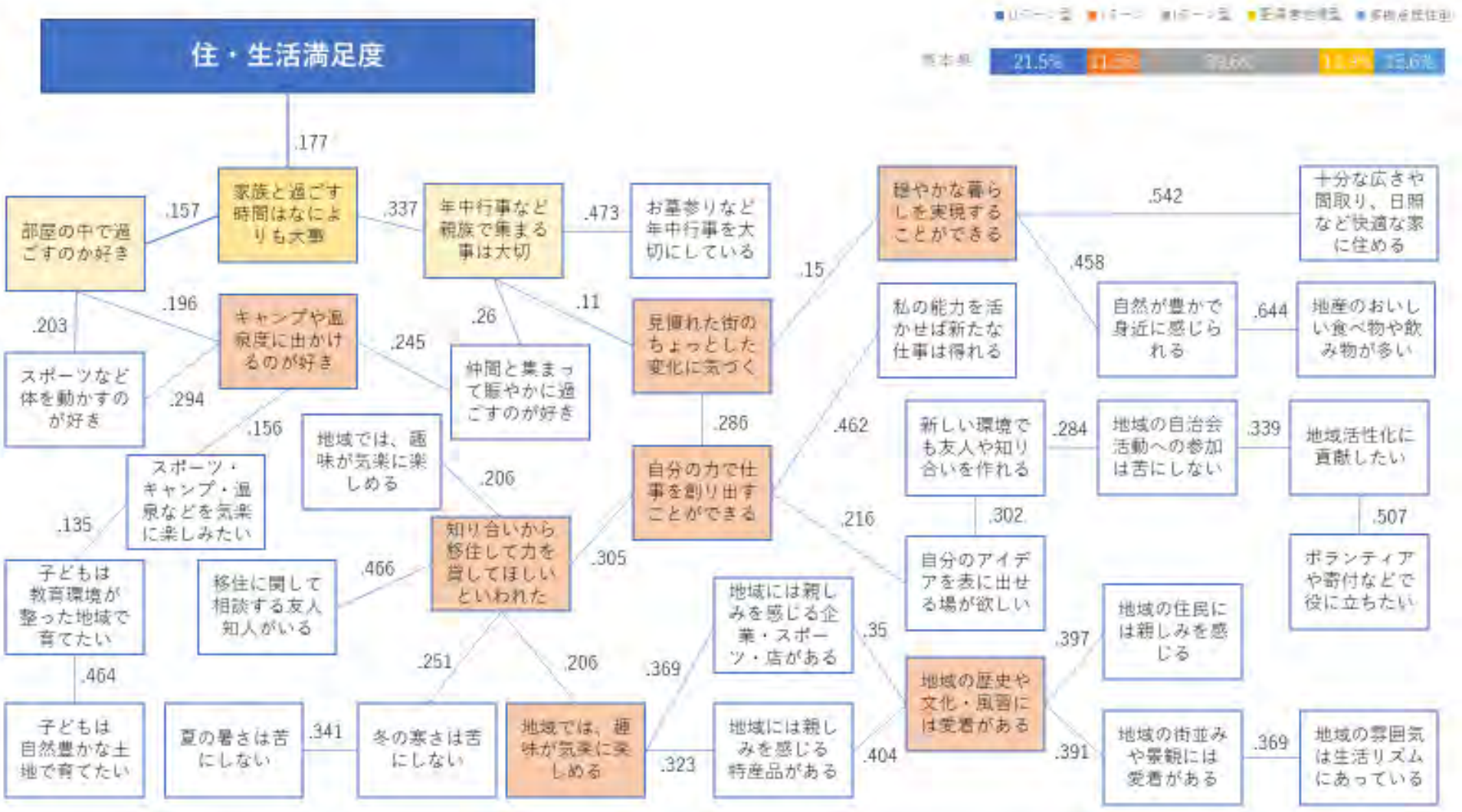


移住者ｎ＝270

・直接要因：「家族と過ごす時間はなによりも大事」
・部屋の中で過ごすことも好きだが、キャンプやスポーツを楽しむこともできている
・お墓参りなど年中行事には、親族で集まることを大切にしている
・見慣れた街のちょっとした変化に気づけ、歴史・文化を楽しみながら穏やかに暮らせている
・自分なりのアイディアを試すなど、仕事は自分の力で創り出せるという自信がある

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　住・生活満足度要因モデル【熊本県】



＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

＊CALC出力結果より、主要な要因項目を用いて図表化しています

移住者ｎ＝270

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

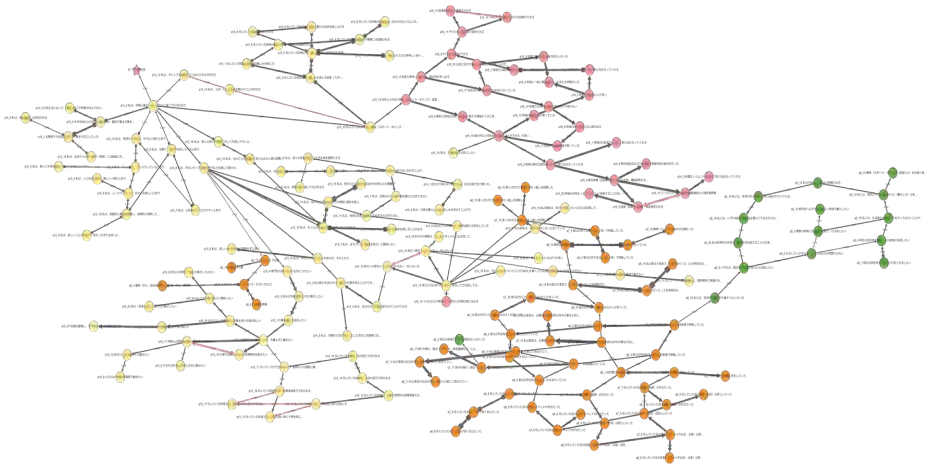
調査結果 住・生活満足度要因モデル【沖縄県】

直接要因*	直接相関量*
仲間と集まって賑やかに過ごすのが好き	0.105
直接要因（第二水準）	**直接相関量***
年中行事など親族で集まることは大切にしている	0.297
他人の想いや感情に共感しやすいと思う	0.186
ボランティアや寄付などで役に立ちたい	0.195
キャンプや温泉度に出かけるのが好き	0.139

＊直接要因：「移住意思決定」に直接的に相関する要因　＊直接相関量：直接的な相関量の指標

媒介要因	入出力紐帯数
物との出会いに運命を感じることがある	4
移住体験などの支援・補助制度がある	4
自然とふれあう趣味が気軽にできる	3
事前に地域の住いや生活情報が得られる	3
魅力的な土地を割安で得られる	3
やりたい仕事ができる	3

沖縄県＿移住者
住・生活満足要因モデル

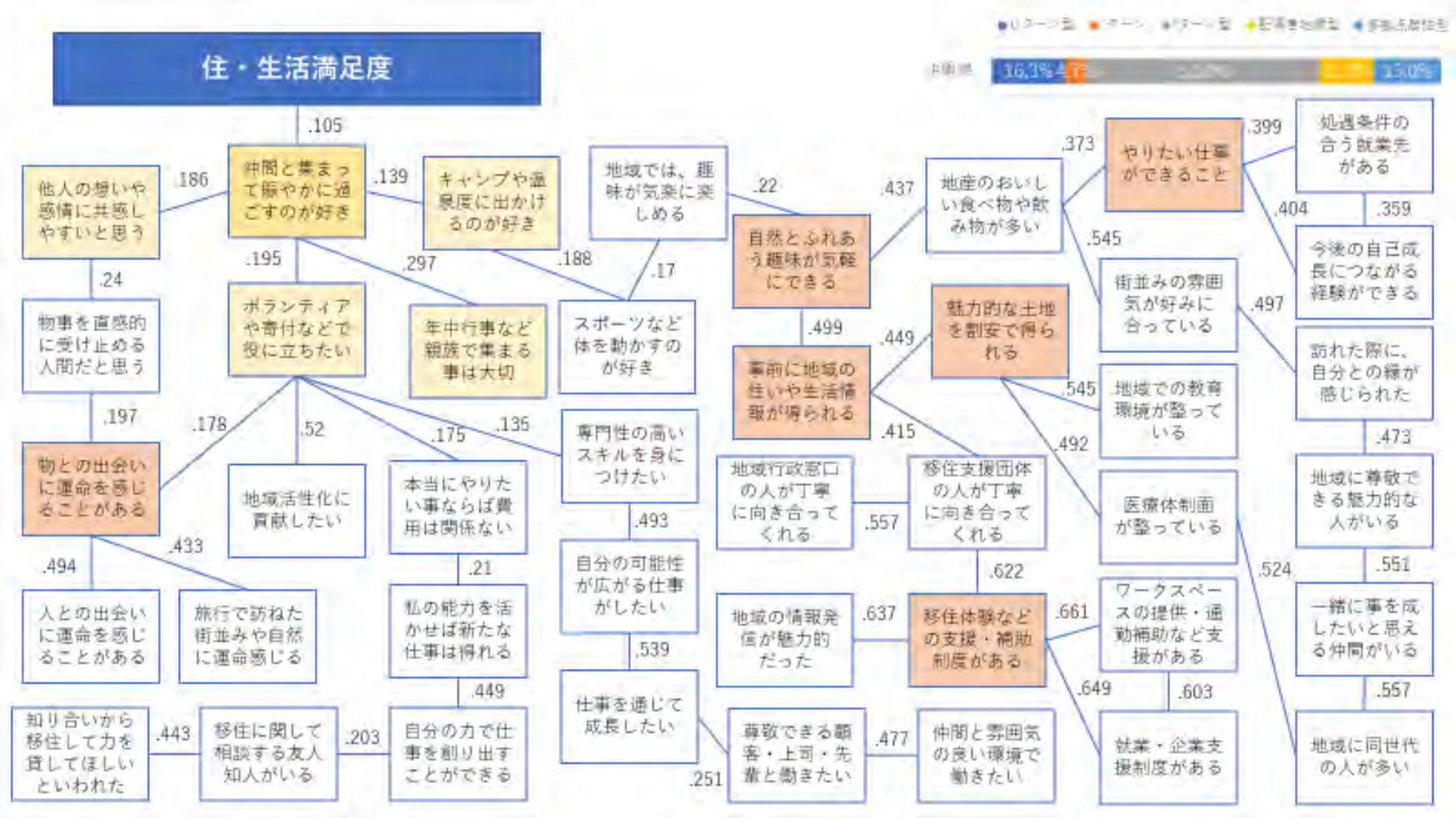


移住者ｎ＝300

・直接要因：「仲間と集まって賑やかに過ごすのが好き」
・ボランティア活動、キャンプなど自然とふれあう趣味が楽しめている
・年中行事では親類と集うことや人や物事との出会いを大切にしている
・事前に地域の生活情報が得られており、移住体験などをしていた
・居住するのに魅力的な土地を割安に手に入れ、やりたい仕事ができている

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査結果　住・生活満足度要因モデル【沖縄県】



＊この分析はデータからの推定結果であり，因果関係や影響関係を保証するものではありません

＊CALC出力結果より、主要な要因項目を用いて図表化しています

移住者ｎ＝300

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

Appendix.

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

サンプル属性データ（概要）

	n数	年代				平均年齢	性別			
		３０代	４０代	５０代	６０代		男性n	女性n	男性	女性
移住者	7866	15.5%	27.5%	34.9%	16.3%	48.6	5957	1909	75.7%	24.3%
移住検討者	2998	19.5%	30.9%	27.5%	14.8%	46.8	1966	1032	65.6%	34.4%
検討者（5年以内）	478	22.6%	23.4%	30.1%	12.1%	45.4	330	148	69.0%	31.0%
検討者（10年以内）	361	13.6%	30.5%	38.2%	9.4%	47.2	269	92	74.5%	25.5%
関心者（時期未定）	2159	19.8%	32.6%	25.2%	16.3%	47.0	1367	792	63.3%	36.7%
移住無関心者	2981	24.9%	20.0%	20.7%	19.3%	45.1	1486	1495	49.8%	50.2%

	既婚率	単身世帯割合	核家族割合	子供有割合	持ち家割合	最終学歴大卒以上	正社員割合	管理職割合
移住者	62.8%	23.5%	30.8%	56.9%	60.3%	55.3%	61.6%	41.2%
移住検討者	59.8%	21.6%	31.7%	51.0%	55.9%	74.3%	70.7%	58.3%
検討者（5年以内）	63.4%	21.3%	34.8%	50.4%	62.6%	71.8%	70.6%	60.8%
検討者（10年以内）	54.3%	27.0%	29.9%	45.9%	58.8%	64.6%	64.6%	43.9%
関心者（時期未定）	43.8%	27.8%	23.4%	37.4%	61.5%	61.0%	61.9%	29.6%
移住無関心者	57.3%	24.9%	29.2%	50.6%	60.2%	59.1%	62.7%	40.5%

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

サンプル属性データ（概要）

	n数	%	20代	30代	40代	50代	60代	平均年齢	男性N	女性N	男性%	女性%
移住タイプ別	7866	100.0%	5.8%	15.5%	27.5%	34.9%	16.3%	48.6	5957	1909	75.7%	24.3%
Uターン型	1590	20.2%	5.8%	15.8%	29.2%	33.2%	16.0%	48.3	1204	386	75.7%	24.3%
Jターン型	813	10.3%	7.5%	17.2%	26.3%	32.8%	16.1%	47.9	617	196	75.9%	24.1%
Iターン型	3040	38.6%	5.1%	13.9%	27.3%	36.8%	16.7%	49.1	2401	639	79.0%	21.0%
配偶者地縁型	1060	13.5%	5.7%	19.8%	29.9%	31.6%	13.0%	47.2	658	402	62.1%	37.9%
多拠点居住型	1363	17.3%	6.4%	14.0%	24.9%	36.3%	18.3%	49.2	1077	286	79.0%	21.0%

	既婚率	単身世帯割合	DINKS	核家族割合	子供有割合	持ち家割合	最終学歴大卒以上	正社員割合*	管理職割合
移住タイプ別	62.8%	23.5%	23.6%	30.8%	56.9%	60.3%	55.4%	61.6%	41.2%
Uターン型	57.6%	18.5%	19.6%	27.7%	55.3%	73.3%	52.9%	61.1%	38.3%
Jターン型	63.5%	24.4%	25.6%	32.7%	57.4%	61.4%	52.9%	64.7%	43.0%
Iターン型	58.2%	29.2%	22.7%	29.0%	52.1%	55.1%	58.8%	60.0%	41.1%
配偶者地縁型	82.5%	8.6%	30.7%	41.5%	69.9%	62.8%	52.9%	62.3%	39.4%
多拠点居住型	63.0%	28.0%	23.5%	29.0%	58.9%	54.3%	53.9%	63.5%	45.2%

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

サンプル属性データ（概要）

	n数	%	20代	30代	40代	50代	60代	平均年齢	男性N	女性N	男性%	女性%
移住経験年数別	7866	100.0%	5.8%	15.5%	27.5%	34.9%	16.3%	48.6	5957	1909	75.7%	24.3%
直近移住者（5年以内）	2047	26.0%	12.0%	21.3%	26.8%	28.4%	11.5%	45.1	1452	595	70.9%	29.1%
中堅移住者（5年以上、10年未満）	2850	36.2%	7.1%	22.4%	30.0%	27.9%	12.6%	46.2	2051	799	72.0%	28.0%
ベテラン移住者（10年以上）	2969	37.7%	0.2%	4.9%	25.7%	46.1%	23.1%	53.3	2454	515	82.7%	17.3%

	既婚率	単身世帯割合	DINKS	核家族割合	子供有割合	持ち家割合	最終学歴大卒以上	正社員割合*	管理職割合
移住経験年数別	62.8%	23.5%	23.6%	30.8%	56.9%	60.3%	55.4%	61.6%	41.2%
直近移住者（5年以内）	57.5%	29.7%	24.8%	23.2%	47.5%	48.2%	54.6%	64.9%	35.9%
中堅移住者（5年以上、10年未満）	59.3%	25.3%	21.7%	30.7%	52.5%	55.7%	57.1%	62.4%	39.9%
ベテラン移住者（10年以上）	69.7%	17.6%	24.5%	36.2%	67.6%	73.2%	54.2%	58.6%	46.6%

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

参考資料

性格的特性（ビッグファイブ理論）

「ビッグファイブ理論」とは、人の性格的な特性を**5つの因子（傾向）**によって分類する心理学における代表的な理論です。

1 **外向性**（Extraversion）
【積極的で活動的⇔内向的でおとなしい】

内向的か外向的かを示す傾向
高い人：外向的で明るく・活動的である傾向
低い人：内向的でおとなしく、口数が少ない傾向

2 **協調性**（Agreeableness）
【他者への気遣いと協調的⇔わが道をいく】

人との関係性に対する姿勢を示す傾向
高い人：他者への配慮があり応対が丁寧である傾向
低い人：自己中心的で人の意見に左右されずに判断できる傾向

3 **勤勉性**（Conscientiousness）
【誠実でまじめ⇔柔軟で移り気】

物事への取り組み方などの基本姿勢を示す傾向
高い人：責任感がつよく、誠実に取り組む傾向がある
低い人：責任感がなく投げ出すことが多い傾向がある

4 **情動性**（Neuroticism）
【細かな物事に気が回る⇔あまり気にしない】

精神的な安定性を示す傾向
高い人：物事に対して繊細で何事も神経質に考える傾向がある
低い人：情緒が安定していておだやかな傾向がある

5 **開放性**（Openness）
【ワクワク体質⇔地道に取り組む】

周囲に対する好奇心や創造性の度合いを示す傾向
高い人：様々な事象に関心を抱き、新しいことに取り組む傾向がある
低い人：周囲に振り回されず、目の前のことに地道に取り組む傾向がある

※引用尺度：小塩真司, & 阿部晋吾. (2012).パーソナリティ研究, 21(1), 40-52.
「日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み」

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

参考資料

キャリア観

「キャリア観」とは、仕事をするうえで個人の意思決定（価値計算）の基盤となり得る価値観である。本調査では、キャリア観を**８つの志向性軸**によって聴収・分析を行った。

1	**やりがい・成長志向**	仕事において、進んで自身の能力開発や成長を意識し、責任を負い、自分の可能性を広げる行動を選択する傾向
2	**プライベート優先志向**	働くことは生活の糧を得ることと割り切り、プライベートの時間を大事にし、休暇の少なさや残業を忌避する傾向
3	**安定・働きやすさ重視志向**	テレワークや柔軟な勤務体制、通勤のしやすさなどを求めており、できるだけ定年まで同じ会社で働くことを望む傾向
4	**ステータス志向**	名前の知られた会社で働くこと、世間から高い評価を受けられる仕事、周囲の同世代よりも高い収入を得たいと考える傾向
5	**人間関係重視志向**	仕事をするうえで、周囲との信頼関係を築くこと、尊敬できる相手と一緒に働きたい、仲間との良い雰囲気の職場で働くことを望む傾向
6	**独立志向**	将来的な独立・起業を目指しており、新しい事業を起こすことや新しいアイディアが求められる仕事を望む傾向
7	**地元志向**	地元・実家の近いところで仕事がしたい、地元の仲間と働きたい、仕事を通じてなんらかの形で地元への貢献を望む傾向
8	**知識創造志向**	周囲からの刺激を求めており、新たな知識を得たり自身の考えをまとめてアイディアを形にする時間や場所を希求する傾向

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.

PERSOL

パーソル総合研究所

会社名	株式会社パーソル総合研究所
設立年月日	1989年9月
代表者	代表取締役社長　　渋谷 和久
所在地	東京都港区南青山一丁目15番５号 パーソル南青山ビル３階
資本金	1億円（パーソルホールディングス株式会社100％出資）
コーポレートサイト	https://rc.persol-group.co.jp/
事業内容	•調査・研究 •労働市場動向、人材開発、雇用・働き方に関する調査・研究・発信（シンクタンク本部） •ソリューションの提供 •組織・人事コンサルティングサービス（コンサルティング事業本部） •タレントマネジメントサービス（タレントマネジメント事業本部） •人材開発・教育支援サービス（ラーニング事業本部・デジタルラーニング事業本部）

Copyright © since 2016 PERSOL RESEARCH AND CONSULTING Co., Ltd. All Rights Reserved.